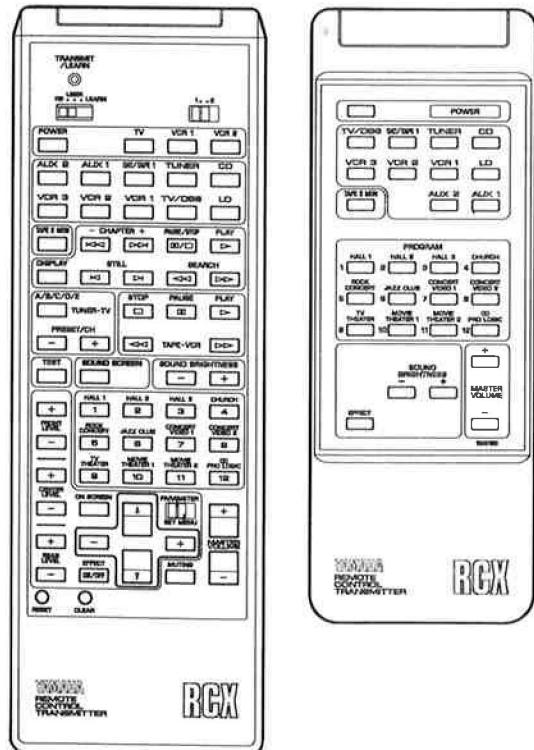
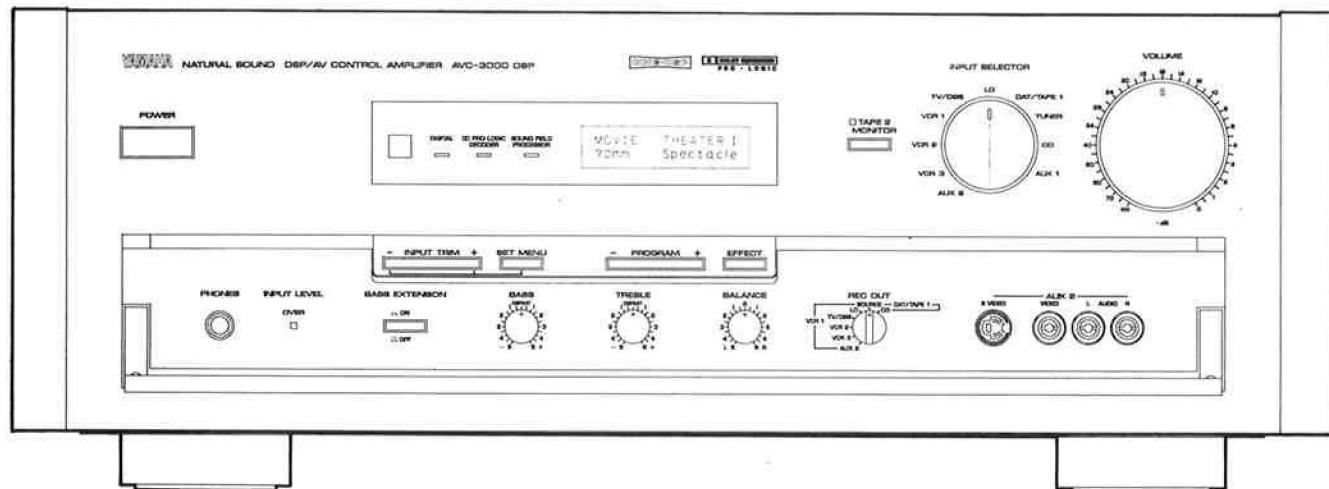


YAMAHA

NATURAL SOUND
DSP/AV CONTROL AMPLIFIER

AVC-3000DSP

取扱説明書



このたびは、YAMAHA DSP/AVコントロールアンプAVC-3000DSPをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

AVC-3000DSPの優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがありまると、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいたたくことがありますので、充分ご注意ください。

ご使用の前に必ずお読みください。

特 長

●新開発のCINE-DSP LSI・YSS-213を搭載

大規模音場処理のキーデバイスとして、新開発フルデジタル処理のCINE-DSPプロセシングLSI・YSS-213を搭載。ヤマハ独自のCINE(Combination for Intelligent & Natural Effect) -DSP処理に必要な機能を殆ど内蔵し、70mmシアターを始めとするAV用6プログラム14音場、Hi-Fi用6プログラム18音場という多彩なプログラムと、隔絶した新次元の音場空間を楽しむことができます。また内部演算語長30bitという超高精度の信号処理能力を誇ります。さらに高性能ドルビー プロ・ロジック デコーダーを内蔵しており、ドルビー プロ・ロジック デコーダーに必要なオートインプットバランス、オートアジャスコントロール、方向性強調回路、変形BタイプNR等は、内部ROMにマイクロプログラムを持つ専用ロジックにより処理されます。また、デジタルインターフェイス時のサンプリング周波数切り替えにも正確に対応します。

●変換時のクオリティを高める高性能コンバーター

A/Dコンバーターには、新開発の業務用19bit相当DSP追従制御方式デジタルフローティングA/Dコンバーターを採用。114dBの広ダイナミックレンジを確保し、アナログ誤差変化を全てデジタル系が吸収し、理想的なフローティング動作が得られます。D/Aコンバーターには、耐ジッター特性や微小信号の再現性に優れたアドバンスト複合補間型DACシステムを搭載。8倍オーバーサンプリングデジタルフィルターと組み合わせた高性能DACシステムを7チャンネルの全オーディオチャンネルに使用しています。

●デジタルシネマイコライザーを内蔵

センターチャンネルには音色補正用3素子のパラメトリックイコライザーを内蔵。さらに、ソースの音色バランスを調整するサウンドライトネスコントロールやサウンドスクリーン使用時のパラメーター可変(透過損失補正用)イコライザーも内蔵。本格的なシネマソースの音色補正が可能です。

●あらゆるAVソースに対応する、多彩な入出力端子

AVソース6オーディオソース5の合計11入力を持ち、AVソースは全てS接続にも対応。入力にはデジタル信号をダイレクトに接続できるCOAXIAL(4)/OPTICAL(8)端子を装備しています。さらにTV/DBS入力にはディスクリート4チャンネル信号用に4ch→2chのエンコード回路を内蔵、ディスクリート4ch接続時にもCINE-DSP音場処理が楽しめます。また、音声7チャンネル、映像2系統の出力端子を持ち、録音/録画出力にはデジタル端子を装備。さらに、微妙な左右の方向感をも再現するSPLITスーパーウーファー端子やMONOおよびREARエフェクト用スーパーウーファー端子を備え、多彩なAVソースに対応すると共に効果的な重低音再生を実現します。映像モニター出力には適応型Y/C分離回路とY/Cミックス回路が内蔵され、入力ソースの接続がS接続またはコンポジット接続に関係なくモニター出力には常に映像信号やオンスクリーン機能が出力されます。

●高音質AVセンターを実現するシステムコード

一本のシステムコードだけでパワーアンプAVM-3000と接続できます。システムコードにより、全チャンネルバランスタイプによる高音質信号伝送を実現し、電源のリモートや、メインのL, RチャンネルをフロントエフェクトのL, Rへ切り替える等、システムインターフェイスが可能となります。

*システムコードは、パワーアンプ(AVM-3000)に付属しています。

●便利な録音/録画機能

レックアウトセレクターを装備。映像REC OUTには適応型Y/C分離回路、Y/Cミックス回路を内蔵、信号の有無によってS信号とコンポジット信号の自動切り替え機能が働くため、接続を気にしないで済みます。また、オーディオ系ソースに他のAV系ソースの映像を組み合わせて録画するBGV機能も内蔵。留守録音/録画時にもインプットセレクターとレックアウトセレクターだけ働くレックスタンバイモードを設けています。

●コンピューターとインターフェイスが可能なMIDI IN端子

MIDIコントロールにより、AVC-3000DSPの制御が可能です。プログラムチェンジ、インプットセレクト等のコントロールができ、各種イベントやマルチメディア映像とリンクさせた業務用まで、幅広い用途への対応が考えられます。

●ディスプレイと多機能リモコンを装備

バックライト付きLCDディスプレイと共に、プログラムやパラメーター等の操作状況、スピーカーの音量バランス調整等を、モニター画面にも表示するオンスクリーン機能を搭載。また、学習機能付きマスターリモコンに加えて簡単リモコンを付属、用途に応じたリモコンの使い分けができます。マスターリモコンはRSコード内蔵グループ切り替え式ハンドヘルド・ラーニングリモコンで、他のAV機器のコントロールが可能です。



これは電子機械工業会「音のエチケット」
キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わずところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目 次

入門編

この取扱説明書は、「入門編」「活用編」「解説編」「その他」の4部構成となっております。

「入門編」では、

基本的な接続や操作方法と、ご使用にあたって必ず守っていただきたいことを説明しています。

「活用編」では、

本機の性能をフルに發揮するための調整手順や、操作方法を説明しています。ここまでお読みになれば、初めての方でも本機を十分に活用できます。

「解説編」では、

音場プログラムのタイプや、パラメーターの内容を説明しています。

「その他」では、

仕様を知りたいときや、故障かなと思われたときなどに、ご覧ください。

入
門
編

特長	2
豊かなAVライフのために（使用上のご注意）	4
ご使用の前に（付属品を確認してください）	5
スピーカーの配置について	6～7
接続のしかた	

活
用
編

オンスクリーン・ディスプレイについて	22
デジタルシネマイコライザ	23～24
セットメニューについて	25～35
各スピーカーのレベル調整	36～38
音場プログラムとタイプ	39～41
パラメーターコントロール	42～45
リモコンの学習機能について	46～48
その他の操作と調整	49
その他の接続	50～52

そ
の
他

音場タイプについて	54～64
パラメーターガイド	65～68
パラメーター設定値一覧表	69～75
参考仕様	76～77
MIDIについて	78～79
MIDIインプリメンテーションチャート	80
ブロックダイアグラム	81～82
ビデオ信号経路図	83
故障かなと思ったら	84
ヤマハホットラインサービスネットワーク	85

豊かなAVライフのために

(使用上のご注意)

■電源

国内のみでご使用ください。

家庭用電源コンセント(AC100V)に接続してください。

■電源コード

電源コードはひっぱらないでください。(プラグを持って抜いてください。)

電源コードの上に重い物をのせないでください。

*電源コードが断線したり、感電の原因になります。

■本体

キャビネットは開けないでください。

セットの中に金属類(針・硬貨など)を入れないでください。

セットの中に液体(水・アルコールなど)を入れないでください。

セットの中に燃えやすいもの(紙・布など)を入れないでください。

*火災・感電・故障の原因になります。

■設置場所

ご使用中は熱を発生します。設置の際は通気性の良い場所を選び放熱を妨げないようにしてください。

ぐらついた台の上や、傾いた所には置かないでください。

*落ちたり、倒れたりして危険です。

湿気の多い所、ほこりの多い所、直射日光の当たる所、温度の高い所、極端に寒い所には設置しないでください。

*動作不良や故障の原因になります。

■長期間

旅行や外出などで長期間留守にされる場合は、安全のために電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

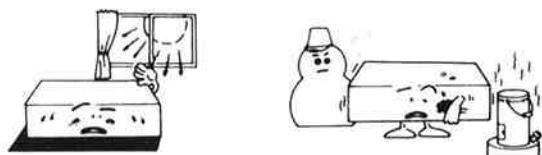
*不慮の事故が防げます。

■異常や不具合が起きたら

万一、異常や不具合が起きたときは、すぐに電源を切り、電源コードを必ずコンセントから抜いて、お買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

高温・低温はさけて！

窓際や直射日光のある場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40°C以上)
・温度の特に低い場所(周囲湿度-5°C以下)
・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、
さけてください。



ほこり・水気をさけて！

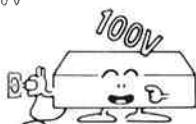


不安定な場所はさけて！



国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V

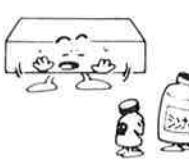


雷が近づいたら

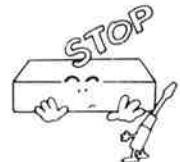


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

薬物厳禁



開けないで！

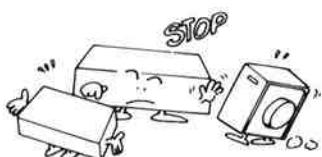


引っ張らないで！



他のチューナーやテレビと近付けない！

本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器に障害を与える場合があります。
他のチューナーやテレビなどとはできるだけ離して設置してください。
障害をなくすために、他のチューナーやテレビのアンテナには外部アンテナを使用し、同軸ケーブルで配線することをお勧めします。



セット上面の通風孔をふさがない



放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上に敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。

こわれた？



84ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

取扱説明書はかならず保管してください。



ファイルなど

ご使用の前に

■付属品

付属品を確認してください。

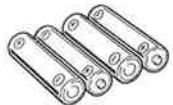
簡単リモコン



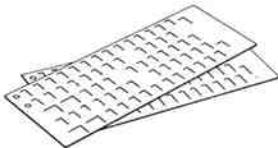
マスターリモコン



単3アルカリ乾電池 4本



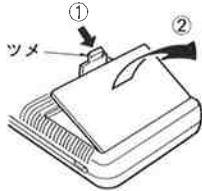
リモコンシート 2枚



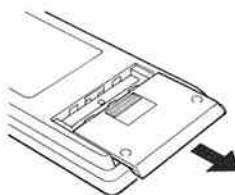
■リモコンに電池を入れてください。

1. リモコンの裏蓋を開けます。

●簡単リモコン



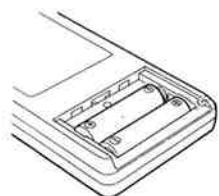
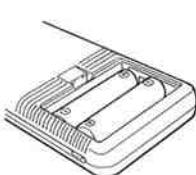
●マスターリモコン



2. 付属の単3アルカリ乾電池2本の、“+”“-”の向きを
ケース内の指示に従って正しく入れてください。

●簡単リモコン

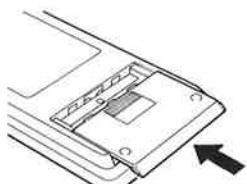
●マスターリモコン



3. カチッと音がするまで押して、裏蓋を閉めます。

●簡単リモコン

●マスターリモコン



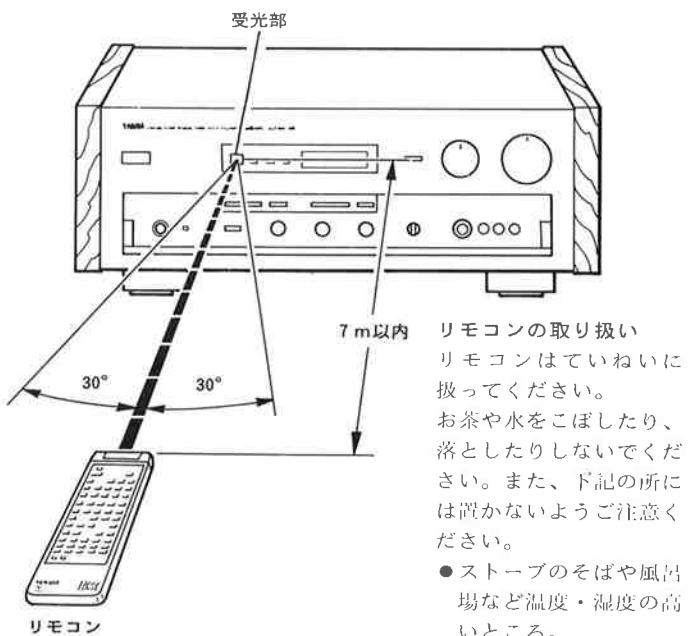
■乾電池についてのご注意

- プラス(+)とマイナス(-)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 消耗してきた乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

■リモコンの使用範囲について

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本機の受光部に向けて正しく操作してください。

- 受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。
- 受光部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯・ストロボライトなど）が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
照明または本機の向きを変えてください。



■乾電池の交換

●簡単リモコンの場合

乾電池が消耗しますと、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押しても動作しなくなったりします。その場合は新しい単3乾電池（2本同時）と交換してください。

●マスターリモコンの場合

電池が消耗するとキーを押してもTRANSMIT/LEARNインジケーターが点滅しなくなります（あるいは暗くなる）ので、その場合は新しい乾電池（2本同時）と交換してください。

*乾電池は、なるべくアルカリ電池を御使用ください。

*乾電池の交換の際、電池をはずしたまま、しばらく放置（3分以上）すると、学習（記憶）した命令が消えてしまうことがありますのでご注意ください。

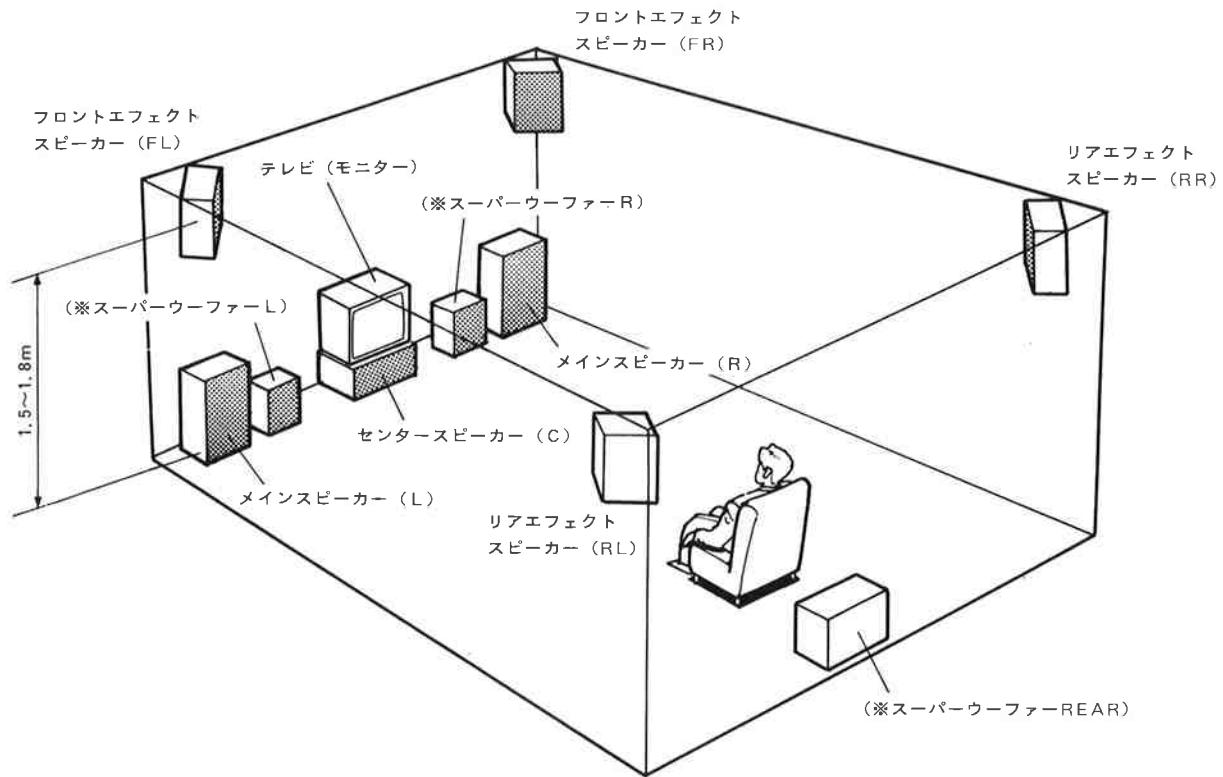
*消耗した乾電池をそのまま入れておくと、学習した命令が消えてしまうことがあります。

もし学習した命令が消えてしまった場合は、新しい乾電池に交換して再度学習させてください。

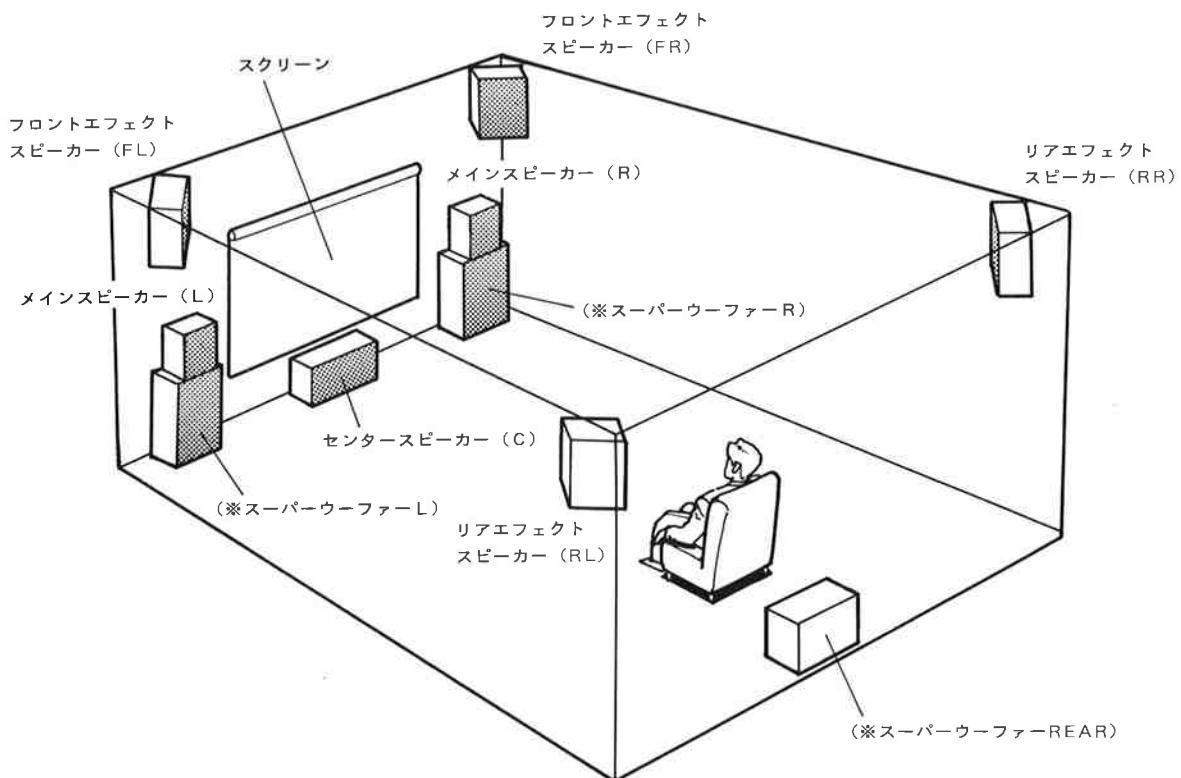
スピーカーの配置について

■スピーカーの配置例

- モニターテレビを使用する場合



- フロントプロジェクターを使用する場合



■スピーカーシステムについて

● 7スピーカーシステム

L, Rのメインスピーカー2本、センタースピーカー1本、フロント及びリア・エフェクトスピーカー4本、合計7つのスピーカーを使用するシステムです。ムービーシアタープログラムでは、70mmマルチトラックの迫力と臨場感をリアルに再現し、会話はスクリーン上に定位し、効果音はスクリーン後方、音楽はさらにその後方に拡がりを持って再現されます。最も本機の性能を発揮できるシステムです。

● 6スピーカーシステム

7スピーカーシステムからセンタースピーカー1本を省いたシステムです。センター・チャンネルの定位感が多少減少しますが、DSP音場が立体感と奥行き感を持って創生されます。この場合、AV音場再生時の、センター・チャンネル信号はファンタムモードを選択することで、メインのL, Rに振り分けて出力されます。

● 5スピーカーシステム

7スピーカーシステムからフロント・エフェクトスピーカー2本を省いたシステムです。ドルビー・プロ・ロジック再生時にセリフなどのセンター定位はそのままに、会話のシーンでは画面と一体化した効果が得られます。この場合、フロント・エフェクト信号はFRONT MIXスイッチをONに切り替えることでメイン・チャンネルの信号とミックス再生されます。

● 4スピーカーシステム

L, Rのメインスピーカー2本と、リア・エフェクトスピーカー2本、合計4つのスピーカーを使用するシステムです。この場合、AV音場再生時の、センター・チャンネル信号はファンタムモード選択することで、メインのL, Rに振り分けて出力され、フロント・エフェクト信号はFRONT MIXスイッチをONに切り替えることでメイン・チャンネルの信号とミックス再生されます。

* 使用するスピーカーシステムに合わせ、センターモード（P. 27参照）及び、本体リアパネルのFRONT MIXスイッチの切り替えを行ってください。（P. 52参照）

■スピーカーの設置場所について

メインスピーカー：

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビを設置している場合は、左右のスピーカーとテレビの距離を等しく設置してください。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇あるいは後方に設置してください。

センタースピーカー：

テレビを設置している場合は、テレビの上または下など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央または裏中央に設置してください。

エフェクト（フロント／リア）スピーカー：

フロント・エフェクトスピーカーは、メインスピーカーより左右の間隔を開けた前方斜めに配置し、スピーカーをリスニングポイントに向けてください。リア・エフェクトスピーカーはフロント・エフェクトスピーカーと対称になるよう、後方斜めに配置します。設置する高さは、床から1.5m～1.8m位が適当です。しかし再生するソースや、リスニングルームの条件によって、効果が異なりますので、試聴を繰り返し、適当な設置場所を設定してください。

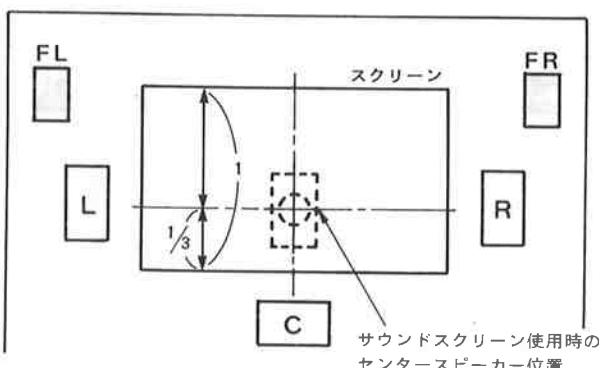
※スーパーウーファー：

さらに超低域を補強する場合は、スーパーウーファーの設置が効果的です。スーパーウーファーを2本使用する場合は、メインスピーカーの近く、左または右に設置してください。1本使用の場合は、テレビの近く、左・右あるいは下に設置してください。

* メイン・センター・フロント・リアの各スピーカーは、音質の似たものをお使いください。

* スピーカーによってはテレビ（モニター）の画面が乱れることがあります。特に画面に近づく、センタースピーカーやスーパーウーファーには防磁型スピーカーの使用をお勧めします。（テレビの画面が乱れましたら、テレビとスピーカーを離してください）

■スクリーン使用時の設置例

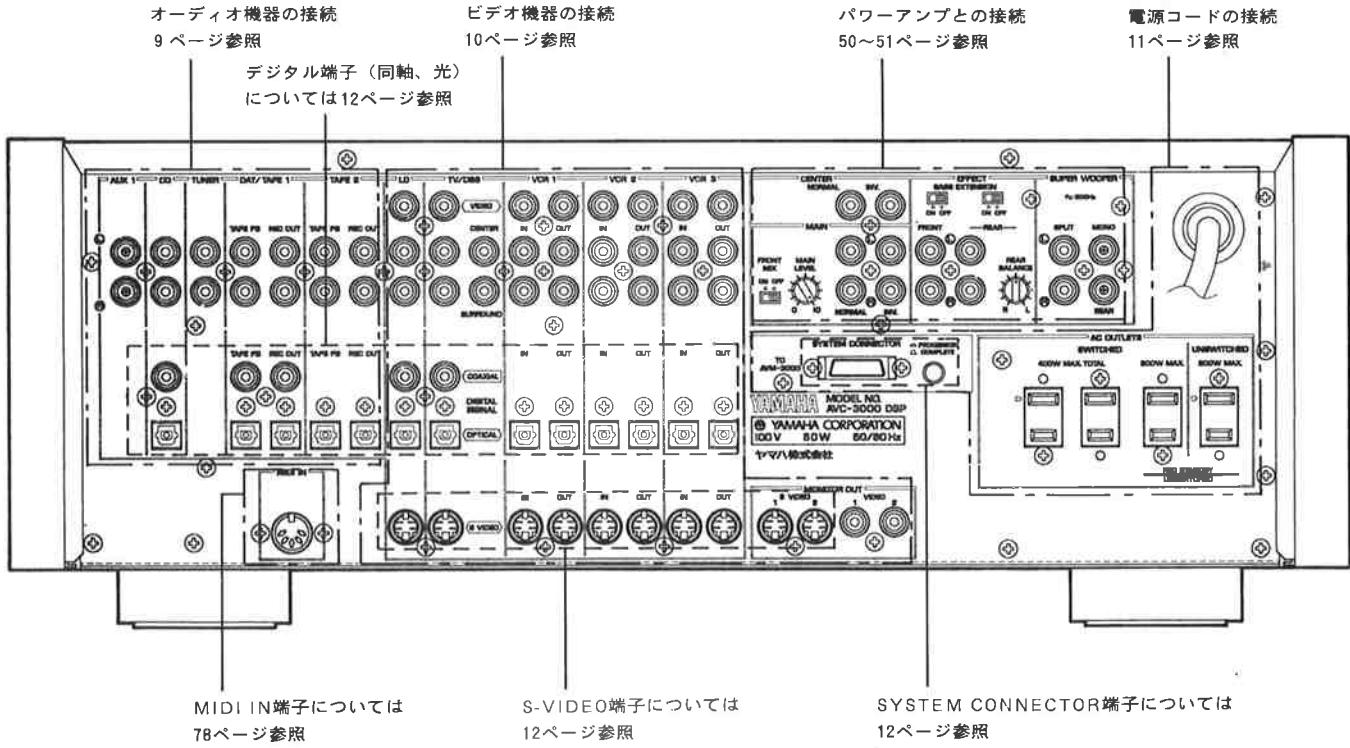


- メインL, Rはスクリーン下辺から1/3位の高さが適当です。
- センタースピーカーはスクリーン中央に設置します。1本使いが定位の点で好結果が得られます。
- 特にスクリーン使用時、フロントエフェクトスピーカーの効果が大きく得られます。CINE-DSP音場効果は、センタースピーカーからの会話の音像を上方に引きあげ、スクリーン映像との一体感を改善させます。
- サウンドスクリーン使用の場合には、L, C, Rの高さを揃えて設置してください。

接続のしかた

■接続の前に

- 接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。
 - 映像信号の入・出力端子は黄色、音声信号（アナログ）の入・出力端子は左（L）チャンネルが白色、右（R）チャンネルが赤色、音声信号（デジタル同軸）の入・出力端子は橙色となっています。
 - 接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
 - アナログ入・出力端子の接続には、市販のL、R 2本一組のピンプラグコードをご用意ください。
 - デジタルのCOAXIAL（同軸）端子に接続する場合には、市販のデジタル（ピンプラグ）コードまたは75Ω同軸ケーブルを、OPTICAL（光）端子に接続する場合には、市販の光ファイバーケーブルをご用意ください。
- * デジタル信号は一本のケーブルでL、Rの信号が伝送されます。
- 市販のケーブルの中には、プラグの形状が大きくて、隣接する端子に差し込めなくなるものがあります。最大外形が14mm未満のものを御使用ください。
 - 接続端子に接点復活剤を塗布することは、避けてください。端子及び周辺の樹脂部分が割れたりすることがあります。接続端子を清掃するときは、無水アルコールで拭いてください。
 - 本機が他の機器（テレビ、チューナー等）に影響を与えるような場合は、本機と他の機器の設置場所を離してください。障害をなくすために、チューナーやテレビのアンテナには、外部アンテナを使用し、同軸ケーブルで接続することをお勧めします。



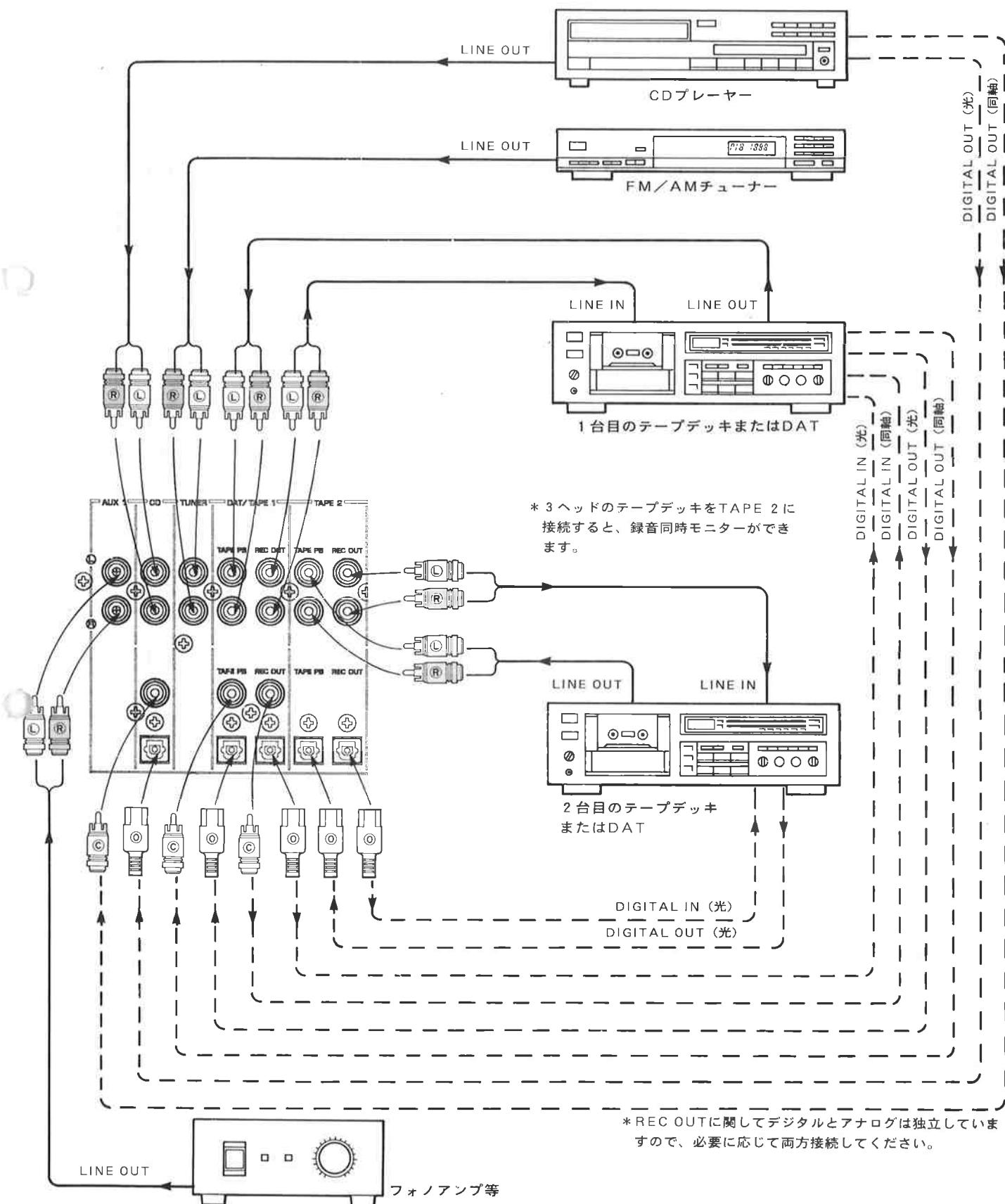
■接続のしかた

接続方法は、大きく分けて『オーディオ機器の接続』『ビデオ機器の接続』『AVM-3000以外のパワーアンプとの接続』『AVM-3000と電源コードの接続』の4つに区別されます。下図で、該当するページを参照し、接続してください。入門編では、7チャンネルパワーアンプAVM-3000（別売）を使用した接続例で説明しています。その他のパワーアンプを使用する場合は、活用編のその他の接続（50～51ページ）を参照してください。

■オーディオ機器の接続

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 右チャンネル(R), 左チャンネル(L), 入力(IN), 出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

- 接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめてください。

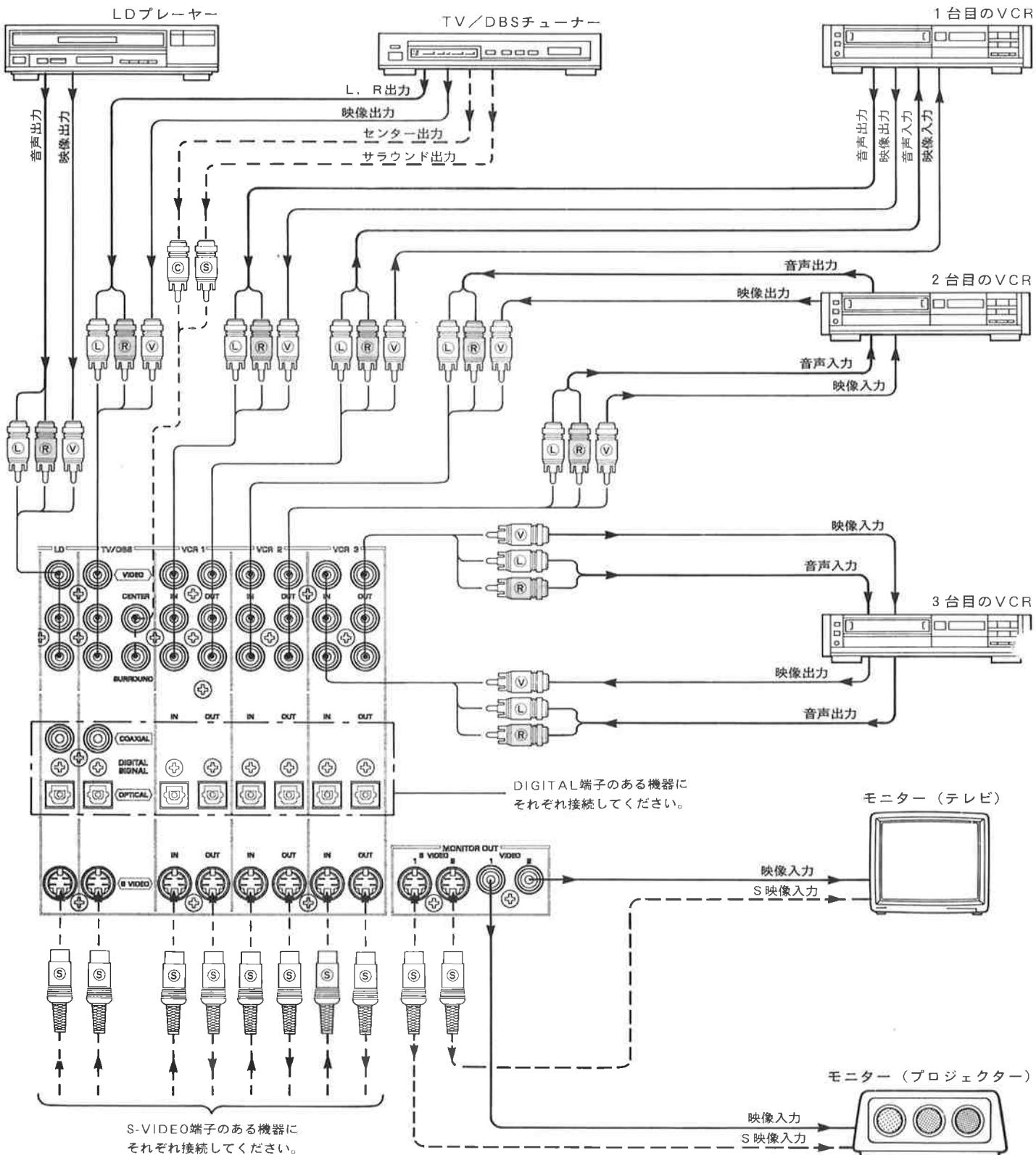


接続のしかた

■ビデオ機器の接続

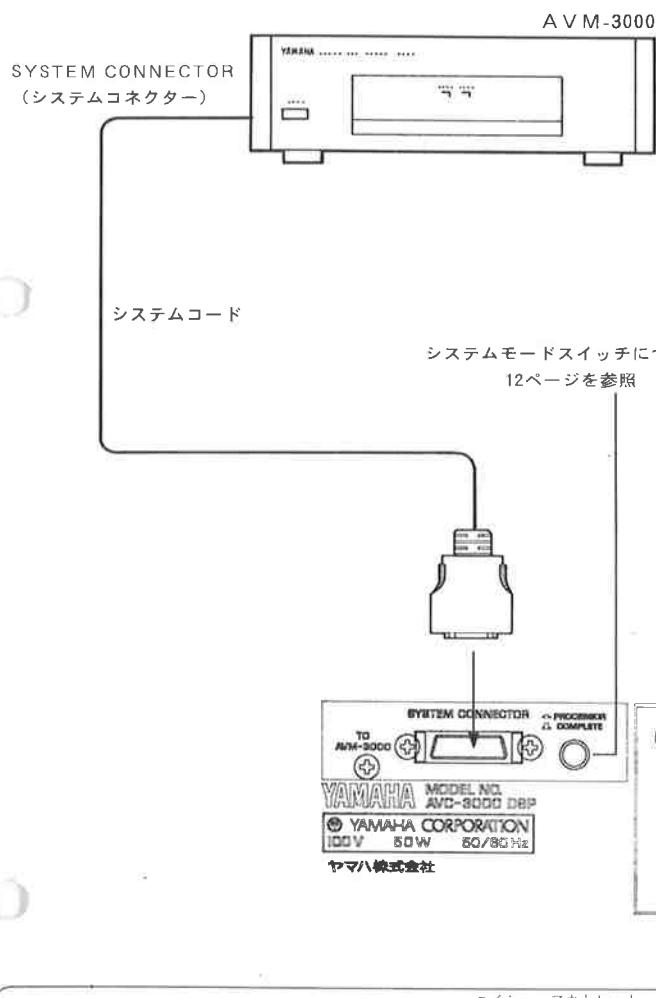
- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- 接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- TV／DBS端子は、ハイビジョンディスクリート4チャンネル入力に対応しています。詳しくは12ページを参照してください。
- MONITOR OUT端子からは、モニターテレビやプロジェクターに映像信号だけが送り出されます。

- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめてください。
- 同一入力のS-VIDEO端子とVIDEO端子には、同じ機器の出力を接続してください。それぞれに異なる機器を接続した場合、オンスクリーン表示はS信号優先で動作しますので、VIDEO端子のオンスクリーン表示は同期しません。



■AVM-3000と電源コードの接続

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
- システムコネクターは、7チャンネルパワーアンプAVM-3000（別売）と接続する専用コネクターです。AVM-3000以外のパワー・アンプを接続する場合は、50～51ページを参照してください。



外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントです。

本機コンセントの長い方の穴がアース側となっております。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。

スイッチド SWITCHED

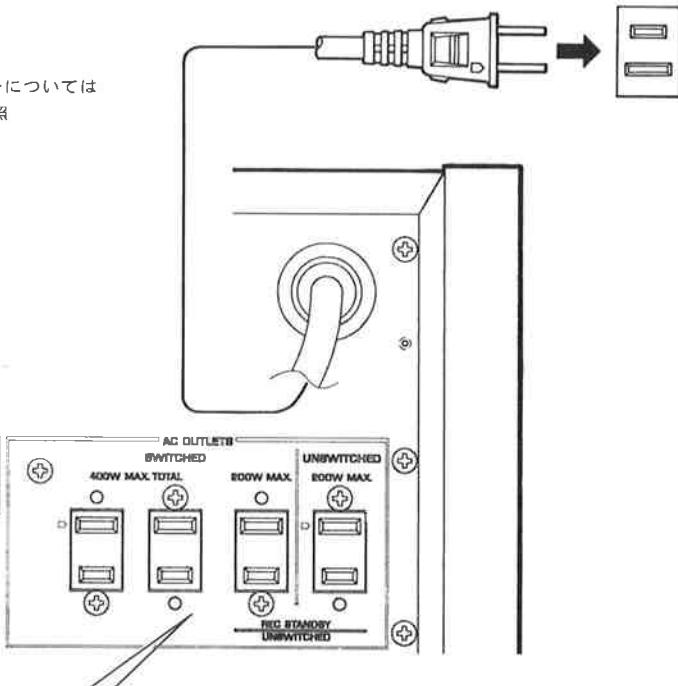
本機のPOWERスイッチと連動しています。消費電力の合計がそれぞれ400Wと200Wまでのオーディオ機器を接続できます。ただしREC STANDBYのとき、200W側は電源を供給します（REC STANDBYについては20ページを参照）

- システムコードはAVM-3000に付属しています。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめてください。
- 接続に誤りのないことを確かめてから、電源コードを接続してください。

電源コード

本機の消費電力は50Wです。家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントにプラグを接続してください。また、接続の際はプラグの“”マークされた側をコンセントの長い方の穴に合わせて差し込んでください。

これは、電源の極性を合わせるためです。極性を合わせなくとも使用上は影響ありませんが、より良い音質を得るためにには、極性を合わせておかれることをお勧めします。



アンスイッチド UNSWITCHED

本機のPOWERスイッチのON/OFFとは無関係に、消費電力200Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

各AC OUTLETの状態

AC OUTLET	SWITCHED			UNSWITCHED 200W MAX
	400W MAX	REC STANDBY UNSWITCHED 200W MAX	ON	
ON			ON	
OFF			OFF	ON
REC STANDBY	OFF	ON		

接続のしかた

■デジタル端子について

本機は、アナログ端子の他にデジタル信号をダイレクトに接続できるCOAXIAL（同軸）／OPTICAL（光）のデジタル端子を装備しています。

COAXIAL端子に接続する際は市販のピンプラグコードを、OPTICAL端子に接続する際は市販の光ファイバーケーブルをご使用ください。

*デジタル信号のOPTICALとCOAXIAL双方が同時に入力された場合は、OPTICALからの入力信号が優先します。

*アナログ信号とデジタル信号が同時に入力された場合、①デジタル光(OPTICAL) ②デジタル同軸(COAXIAL) ③アナログ、の優先順位で自動選択します。

[LD、TV／DBS、VCR 1、VCR 2、VCR 3は、] セットメニュー(35ページ)により入力選択をアナログに固定することもできます。

*本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格にもとづき設計されています。接続する光ファイバーケーブルにEIAJ規格を満たさないものをご使用になると正常に動作しないことがあります。また、極太の光ファイバーケーブルを使用する場合、隣のプラグと接触して接続できないことがあります。OPTICAL端子をご使用にならない場合は、ゴミやホコリの侵入を防ぐため必ず端子カバーをしてください。

■S-VIDEO端子について

S-VIDEO信号は、ビデオ信号(コンポジット信号)を、輝度を表す信号(Y信号)と色を表す信号(C信号)に分けて伝送する方式です。

S-VIDEO端子を利用すると映像信号をロスなく伝え、より美しい映像で録画・再生が行えます。

S-VIDEO端子に接続した場合、それらの機器の操作については、接続した機器の取扱説明書を参照してください。

*本機では、信号の有無によって自動的に切り替わる適応型Y／C分離・Y／Cミックス回路を内蔵しています。このため、VIDEO OUT／S-VIDEO OUT端子には入力ソースがS接続か、またはコンポジット接続かに関わりなく、常に映像信号が出力されます。

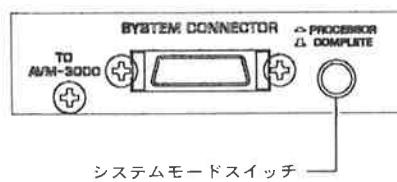
*S-VIDEOの接続には専用のSビデオケーブルを使用してください。

■TV／DBS端子について

TV／DBS端子には、ハイビジョンディスクリート4チャンネル放送(3-1方式)に対応するため、通常のL, R入力端子に加えてセンターとサラウンド信号の入力端子が設かれています。本機には、4チャンネルから2チャンネルのエンコード回路が内蔵されていますので、ディスクリート4チャンネル接続時にも、CINE-DSP音場処理が楽しめます。またレコーディング出力(REC OUT)には2チャンネルにエンコードされた音声信号が出力され、従来のビデオレコーダーでディスクリート4チャンネル放送の録画も行えます。なおデジタル入力は、通常の2チャンネル入力対応となっています。

*衛星放送のデジタル音声を受信中、放送局側でサンプリング周波数が一時的にとぎれた場合、本機のミューティングが働き数秒間音が出なくなります。

■SYSTEM CONNECTORについて



システムモードスイッチ

- 7チャンネルパワーアンプAVM-3000(別売)を接続する場合、専用のシステムコード一本で接続することができます。

システムコードをSYSTEM CONNECTORに接続することにより、7チャンネルの音声信号が全てバランス伝送となり音質的に有利となります。また本機のPOWERスイッチと連動し、パワーアンプの電源をON/OFFすることができます。

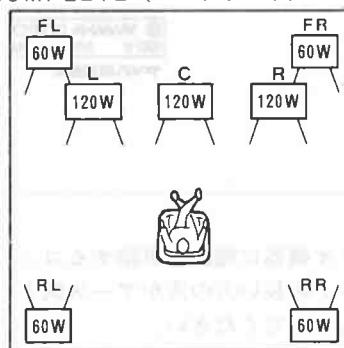
*システムコードはAVM-3000に付属しています。

- システムコネクター横のシステムモードスイッチによりAVC-3000DSP／AVM-3000のシステムをプロセッサー的に使用することができます。

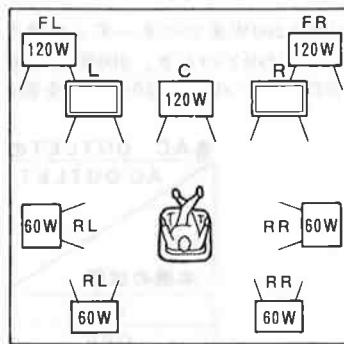
この場合、現在手持ちのパワーアンプをそのままメイン信号のL, R用に使用し、AVM-3000にセンターとエフェクト信号を受け持たせた9スピーカーシステムに拡張することができます。

AVC-3000DSPのシステムモードスイッチを押して“PROCESSOR”にセットすると、システムコネクターの接続は今まで、AVM-3000への信号出力が図のように入れ替わります。その結果、フロントエフェクトを受け持つパワーアンプが強化され、同時にリアエフェクトのスピーカーがL, Rそれぞれ2本づつ使えますので、より広いスペースで、よりハイパワーでの再生が可能となります。

COMPLETE(コンプリート)モード



PROCESSOR(プロセッサー)モード



□：スピーカーには手持ちのアンプを使用

各部の名称と機能

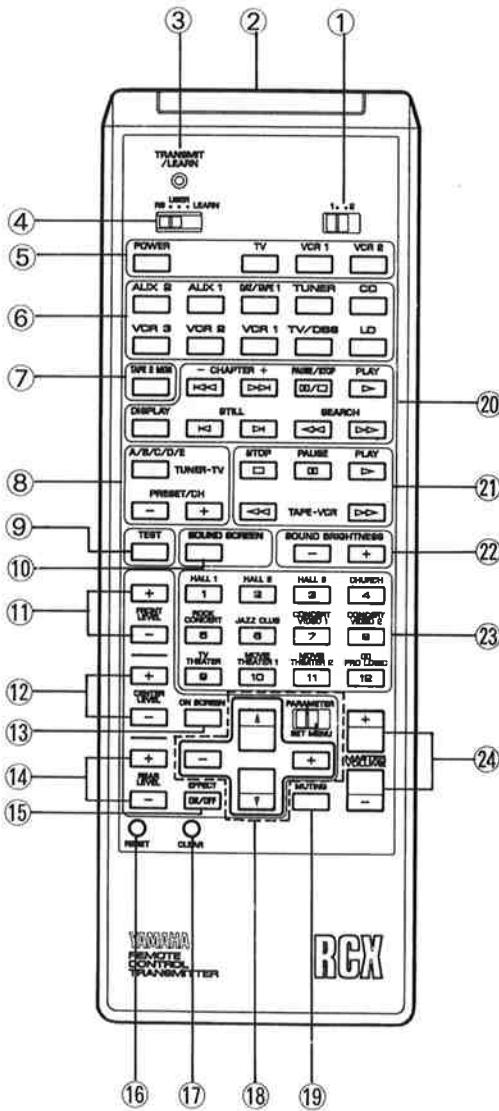
■リモコン

本機には、簡単リモコンとマスターリモコンの2台のリモコンが付属しています。操作キーの少ない方が簡単リモコンです。

●マスターリモコン

基本的な再生操作の他に、他のAV機器の電源ON/OFFやコントロール・セットメニュー・パラメーターの調整・パラメターメトリックイコライザーや各スピーカーの音量バランス調整等、多彩なコントロール機能が装備されています。

*マスターリモコンの学習機能については、46~48ページの「リモコンの学習機能について」を参照してください。



① 1・2スイッチ

学習させるとき、1つのキーに2つの機能（表裏）を持たせることができますので、学習機能の1（表）、2（裏）を選択するスイッチです。

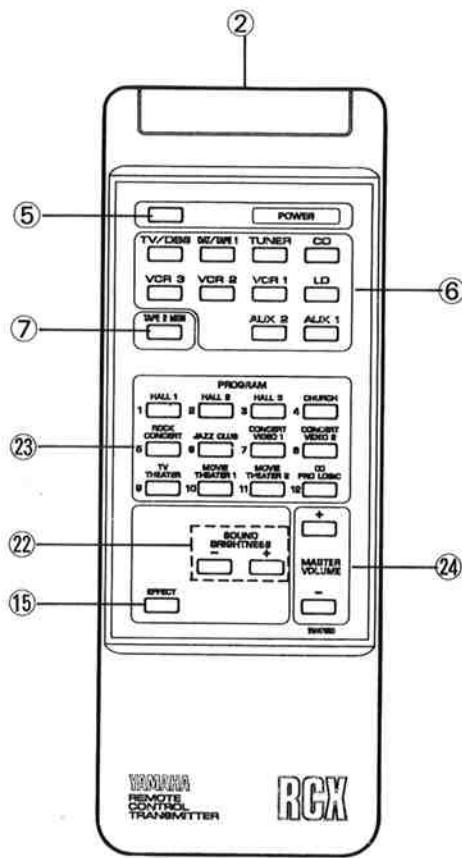
② 受信窓

リモコンのコントロール信号（赤外線）を送・受信する窓です。

*簡単リモコンは送信のみです。

●簡単リモコン

基本的な操作だけのリモコンです。設定がずれたり、誤操作のおそれなく、御家族の方にも安心してお使いいただけます。



③ TRANSMIT/LEARNインジケーター

リモコン信号の送信時（TRANSMIT）には点滅し、リモコンの学習中（LEARN）には点灯します。また、受信エラー・消去動作させた場合には点滅します。

各部の名称とはたらき

④モードスイッチ

リモコンの動作モードを選択します。

アーバルエス RS : 本機や、ヤマハのRSマーク付きのAV機器を操作するときのモードです。

ユーザー USER : 学習(LEARN)した機能を操作するとき、このポジションにします。

ラーン LEARN : 他のAV機器のリモコン信号を学習してメモリーするときのモードです。

* USERモードの1(表)・2(裏)共、最初は、RSモードと同じリモコンコードが記憶されています。

* 学習とは、USERモードでのヤマハRSコードの上への上書きを意味します。

⑤POWERキー

電源スイッチのリモコンキーです。

POWER : 本機の電源をON/OFFします。

テレビ TV : テレビの電源をON/OFFします。

バイシーアール VCR 1 : ビデオカセットデッキ1の電源をON/OFFします。

バイシーアール VCR 2 : ビデオカセットデッキ2の電源をON/OFFします。

* TV, VCR 1, VCR 2は、学習させてからでないと使用できません。

⑥インプットセレクトキー

再生したいソースのダイレクト選択キーです。

再生したいソースのキーを押すと、本体のINPUT SELECTORが回転し、押されたキーと同じポジションにセットされます。

⑦TAPE 2 MONキー

TAPE 2 PB端子に接続したテープデッキを再生するときに押します。

ONの状態で本体のインジケーターが点灯します。

⑧TUNER/TVコントロールキー

RSマーク付きの、FM/AMチューナーにプリセットされている放送局を選局するキーです。

* TVの操作は、お手持ちの機器のリモコン信号を学習させて、使用してください。

エイビービーシーディーアイエー A/B/C/D/E : チューナーにプリセットされている、グループの切替えキーと同じ働きをします。

プリセット チャンネル PRESET/CH : チューナーにプリセットされている放送局を選局するキーです。“+”キーを押すたびに、プリセットの番号が1つずつ増減します。

⑨TESTキー

テストトーン信号をON/OFFするキーです。

メインやセンターとエフェクト(フロント、リア)スピーカーレベルを調整するときに使用します。キーを押すたびに



と切替わります。

* 詳しくは36~38ページを参照してください。

⑩SOUND SCREENキー

サウンドスクリーンを使用する場合、センターおよびメインL, Rスピーカーの設置方法に合わせて、最適なイコライザ特性を設定するキーです。

* 詳しくは24ページを参照してください。

⑪FRONT LEVELコントロールキー

フロント・エフェクトスピーカーのレベルを調整するキーです。

“+”キーを押すと音量が大きくなり、“-”キーを押すと音量が小さくなります。

⑫CENTER LEVELコントロールキー

センター・スピーカーのレベルを調整するキーです。

“+”キーを押すと音量が大きくなり、“-”キーを押すと音量が小さくなります。

* 音場プログラムNo.1~6では、センター・スピーカーからは音はできません。

⑬ON SCREENキー

モニター画面に表示するプログラム名やパラメーターの表示フォーマットを切替えます。

* 詳しくは22ページを参照してください。

⑭REAR LEVELコントロールキー

リア・エフェクトスピーカーのレベルを調整するキーです。

“+”キーを押すと音量が大きくなり、“-”キーを押すと音量が小さくなります。

⑮EFFECTキー

ドルビー プロ・ロジック サラウンドやDSP音場プログラムのON/OFFキーです。キーを押すと、センタースピーカーとエフェクトスピーカー(フロント、リア)の音がOFFとなり、通常のステレオ再生に変わります。音場プログラムを再生するときは、もう一度EFFECTキーを押すか、PROGRAMキーを押してください。

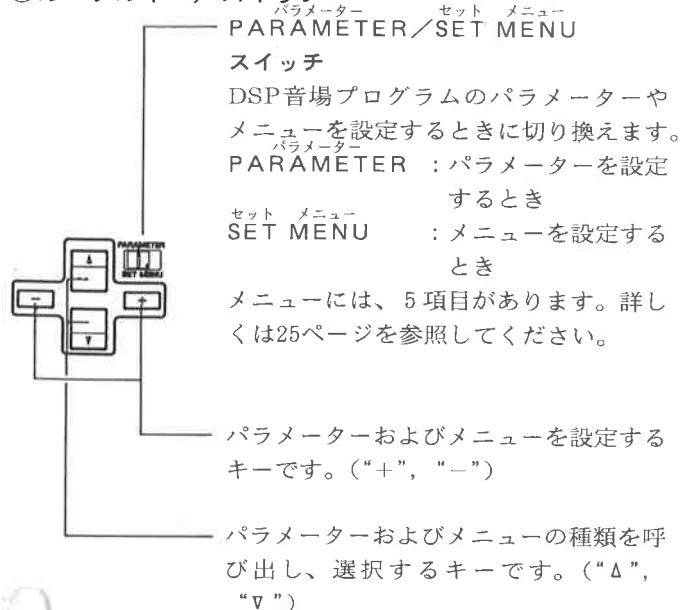
⑯RESETスイッチ

リモコンが動かなくなった場合に、押すスイッチです。(記憶した内容は消えません。)

⑰CLEARスイッチ

学習(メモリー)したリモコン信号をキーごと、または全て消去する際に使用します。

⑯カーソルキー／スイッチ



⑰MUTINGキー

音量を一時的に小さくしたいときに押します。このとき、本体のVOLUMEツマミのインジケーターが点滅します。もう一度押すと、もとの音量に戻ります。

⑲CD／LDコントロールキー

RSマーク付きの、CDまたはLDプレーヤーをコントロールします。CDプレーヤーをコントロールするときは、①の1・2スイッチを“1”的位置に合わせます。LDプレーヤーをコントロールするときは、“2”的位置に合わせてください。プレーヤーのリモコンに表示されているキー名称や、機能表示（▷、□等）と同じ働きをします。

CHAPTER	: キャプター	: キャプターチャプター	: キャプターチャプター
PAUSE/STOP	: ポーズ	: ストップ	: ポーズ
DISPLAY	: ディスプレイ	: プレイ	: ディスプレイ
STILL	: フィルム	: フィルム	: フィルム
SEARCH	: リニア	: リニア	: リニア

*詳しくは、CDまたはLDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

⑳TAPE/VCRコントロールキー

RSマーク付きの、カセットテープデッキをコントロールします。カセットテープデッキのリモコンに表示されているキー名称や、機能表示（▷、□等）と同じ働きをします。

*VCRの操作は学習させてからでないと使用できません。

STOP : 再生または録音／録画の停止。

PAUSE : 一時停止状態にするキーです。学習させてください。

PLAY : 再生をスタートします。

▷ : ▷ 方向の早送り。

◁ : ◁ 方向の早送り。

*詳しくは、テープデッキまたはビデオカセットレコーダーの取扱説明書を参照してください。

㉑SOUND BRIGHTNESSコントロール

LD等の映画ソフトには、ソースの高域が強調された不自然な音質のものがあります。これは映画館で再生される場合、スピーカーからの音がスクリーンを透過するときの高音域の損失補正を行っているためです。

サウンドブライトネスは、これらの高音域が強調されたまま録音されている映画ソフトを、フラットな特性に戻して再生するための補正用コントロールキーです。

“+”キーを押すと高域が増し、“-”キーを押すと高域が減衰します。（+2dB～-7dB/10kHz）

*詳しくは23ページを参照してください。

㉒PROGRAMキー

12種類のDSP音場プログラムをダイレクトに選択します。また、モニター画面にプログラム名が表示（オンスクリーン）されているとき、同じPROGRAMキーを押してタイプを変更することができます。（モード表示は~~OFF~~になります）

*EFFECT OFF状態でも、PROGRAMキーを押すだけでEFFECT ONになり、音場プログラムを呼び出します。

㉓MASTER VOLUMEキー

全体の音量（VOLUME）を調整します。

“+”キーを押すと音量が大きくなり、“-”キーを押すと音量が小さくなります。

各部の名称とはたらき

■フロントパネル

POWERスイッチ

本機の電源をON/OFFします。

- *電源をONしても数秒間は、本機のミューティング機能により音が出ません。
- *レックスタンバイモードにする場合は、POWERスイッチを2秒以上押し続けてOFFにします。REC OUT機能だけが動作します。

リモコン受光窓

付属リモコンのコントロール信号（赤外線）を受光する窓です。

INPUT TRIMキー

入力レベルを調整するキーです。（-6dB～+9dB）広ダイナミックレンジのCD入力と、他の低入力ソースとのレベルを揃えたい場合に使用すると便利です。また、INPUT TRIM機能以外にセットメニュー モードのときは、メニューの設定にも使用できます。

*詳しくは25～26、49ページを参照してください。

SET MENUキー

セットメニューを呼び出すキーです。

*詳しくは25～26ページを参照してください。

PHONESジャック

ヘッドホーンを接続するジャックです。

ヘッドホーンを接続すると、メインL, Rの音をモニターできます。（FRONT MIXスイッチがONのときは、フロントエフェクト信号がミックスされます。）

*ヘッドホーンを接続すると、パワーアンプへの信号出力はミュートされて出力されません。

INPUT LEVELインジケーター

選択したソースの入力レベルが許容レベルを越えると点灯します。頻繁に点灯する場合、音が歪みますのでINPUT TRIMキーで入力レベルを下げてください。

BASS EXTENSIONスイッチ

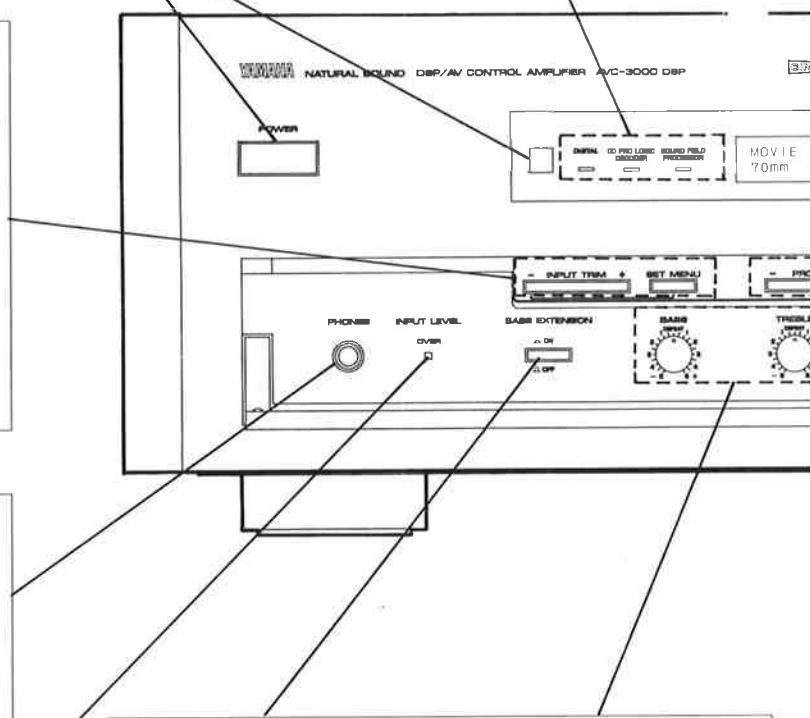
スイッチを押してON (→) にすると、メインL, Rの低域を+7dB (70Hz) 強調させることができます。

DIGITALインジケーター

デジタル信号のソースを再生すると点灯します。

DOLBY PRO LOGIC DECODERインジケーター
ドルビー プロ・ロジック デコーダーが動作中、このインジケーターが点灯します。

SOUND FIELD PROCESSORインジケーター
DSP音場処理中は、このインジケーターが点灯します。



トーンコントロール

BASSツマミ

低音域を調整するツマミで、右(+)に回すほど低音域が強調され、左(-)に回すほど減衰されます。DEFEATの位置でフラットな特性になります。

TREBLEツマミ

高音域を調節するツマミで、右(+)に回すほど高音域が強調され、左(-)に回すほど減衰されます。DEFEATの位置でフラットな特性になります。

*トーンコントロール(BASS, TREBLE)は、メインのL, Rとセンターチャンネルだけに働き、エフェクト(フロント、リア)チャンネルには働きません。

*トーンコントロール(BASS・TREBLE)により、メイン、センターのBASSまたはTREBLEを極端にブースト(増強)またはカット(減衰)した場合、フロントとリア(エフェクト)との音のつながりが悪くなりますのでご注意ください。

エルシーディ LCDディスプレイ

プログラムの名称やパラメーターなどの動作状態を表示します。

テープ モニター TAPE 2 MONITORキー

TAPE 2 PB端子に接続したテープデッキを再生するとき、押してONにします。(ONの状態でインジケーターが点灯)
また、押すたびにON/OFFを繰り返します。

INPUT SELECTOR セレクター

再生したいソースを選択するツマミです。

VOLUME ボリューム

全体の音量を調整するツマミで、右に回すほど音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

*VOLUMEインジケーターは、本機の電源がONのとき点灯し、ミューティング(-20dB)時には点滅します。

PROGRAMキー

ドルビー プロ・ロジック サラウンドを始めとする、12種類のDSP音場プログラムを選択するキーです。

“+”、“-”キーを押す毎に、音場プログラム(タイプ)が変化します。

*リモコンのPROGRAMキーとは異なり、EFFECT OFF状態では音場プログラムを呼び出すことができません。EFFECT ONにしてから操作してください。

EFFECTキー

ドルビー プロ・ロジック サラウンドやDSP音場プログラムのON/OFFキーです。キーを押すと、センタースピーカーとエフェクトスピーカー(フロント、リア)の音がOFFとなり、通常のステレオ再生に変わります。音場プログラムを再生するときは、もう一度EFFECTキーを押します。

(TV/DBS端子の4ch入力時のEFFECT OFFは、エンコードされた信号がL/Rから出力されます。)

シーリングパネル

開けるときは、パネル下部を軽く押して開けてください。

REC OUTセレクター

録音や録画したいソースを選択するスイッチです。
*詳しくは20ページを参照してください。

AUX 2 入力端子

ビデオムービーなど、移動が多いAV機器を接続する予備入力端子です。

S-VIDEO : Sビデオ出力を接続します。

VIDEO : ビデオ出力を接続します。

AUDIO : オーディオ出力(音声)を接続します。

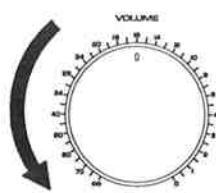
オーディオ出力がモノラルの場合は、L, Rどちらかの端子に接続してください。

BALANCEコントロール

メインスピーカーL, Rのバランスを調整します。ツマミをL(R)側に回すほど、R(L)側の音が小さくなります。通常は0位置にセットしておきます。

再生のしかた

1 VOLUMEコントロールツマミの位置を、最小(∞)にする。

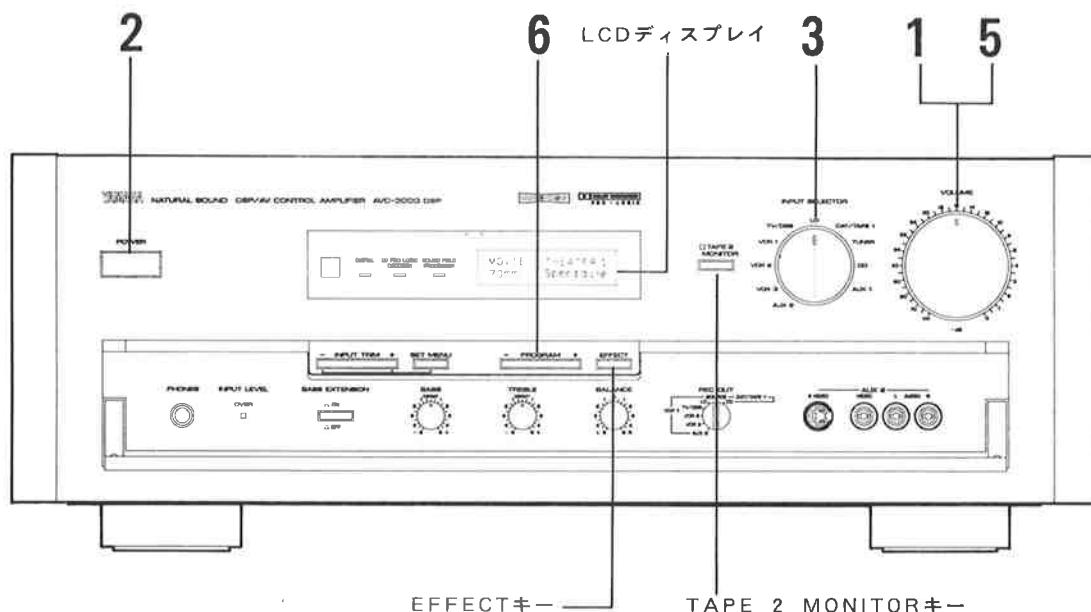


2 POWERスイッチをONにする。

* LCDディスプレイには、前回POWERスイッチをOFFにしたときのプログラムが表示されます。

POWERスイッチON時の表示例

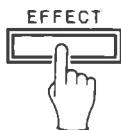
MOVIE THEATER 1
70mm Spectacle



通常のステレオ再生

EFFECTキーを押してOFFになると通常のステレオ再生ができます。

*EFFECT OFF時は、フロント・リア・センタースピーカーからの音はできません。



EFFECT OFF

入力信号について

入力ソースからアナログ信号とデジタル信号が同時に入力された場合、①デジタル光(OPTICAL)②デジタル同軸(COAXIAL)③アナログの優先順位で自動選択します。

* LD、TV/DBS、VCR 1、VCR 2、VCR 3は、セットメニューにより入力信号の自動選択(AUTO)/アナログ固定(Analog)を選択することができます。(35ページ参照)

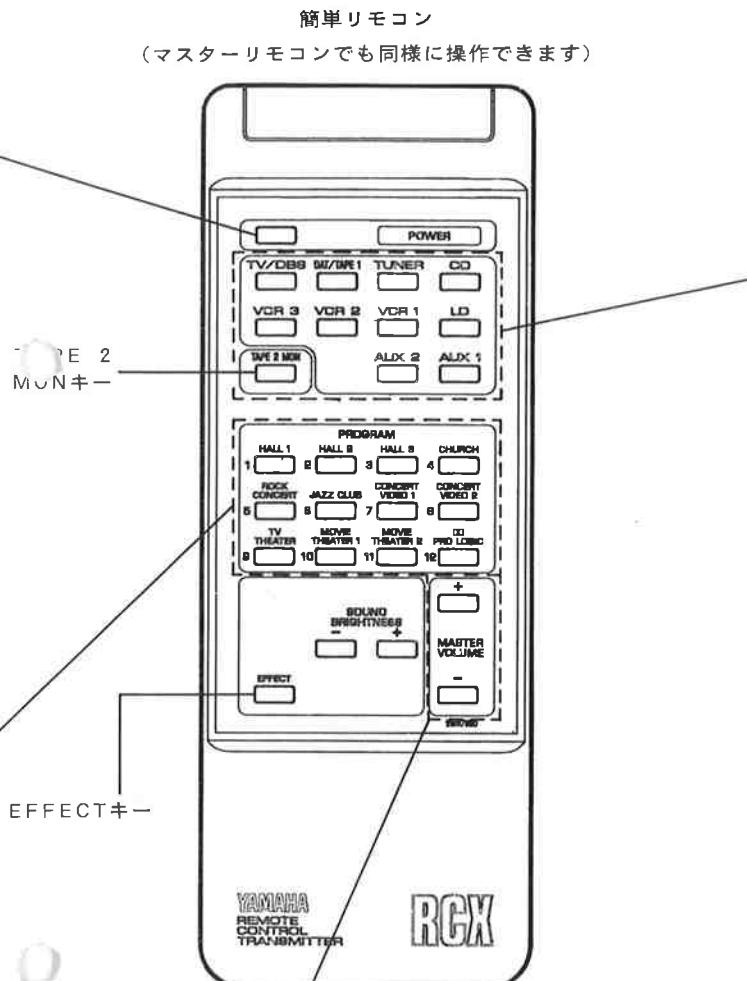
6 本体またはリモコンのPROGRAMキーで、好みの音場プログラムを選択する。

例えば、大編成のオーケストラを聞きたいとき、リモコンのPROGRAMキーのHALL 1、または本体のPROGRAMキーを押してCONCERT HALL 1を呼び出します。

*プログラムやそのタイプについては39~41ページの「音場プログラムとタイプ」を参照してください。

HALL 1のタイプAを選択した場合

CONCERT HALL 1
Hall A in Europe



簡単リモコン

(マスター リモコンでも同様に操作できます)

3 インプット セレクター
INPUT SELECTORで、再生したい
ソースを選択する。

* TAPE 2 MONITORのインジケーターが点灯していると、他の入力ソースの再生ができません。TAPE 2を再生しないときは、TAPE 2 MONITORキーを押してインジケーターを消してください。

オーディオ系	AUX 1	: リアパネルのAUX 1端子に接続した、オーディオ機器を再生するとき。
	CD	: CDを聴くとき。
	TUNER	: AM/FM放送を聴くとき。
ビデオ系	DAT/TAPE 1	: DATまたはテープ1のソースを聴くとき。
	TAPE 2 MONITOR	: TAPE 2 PB端子に接続した、テープデッキのソースを聴くとき。
	LD	: LDを見るとき。
ビデオ系	TV/DBS	: テレビ放送または衛星放送を見るとき。
	VCR 1	: ビデオカセットレコーダー1のビデオを見るとき。
	VCR 2	: ビデオカセットレコーダー2のビデオを見るとき。
AUX 2	VCR 3	: ビデオカセットレコーダー3のビデオを見るとき。
	AUX 2	: フロントパネルのAUX 2端子に接続した、AV機器を再生するとき。

CDを選択したときの表示例

(INPUT SELECTORを操作した場合、ソース名を約3秒間表示して元の表示に戻ります。)

INPUT CD
Digital 44.1kHz

* BGV機能

リモコンでインプットセレクトしますと、BGV機能が使えます。

まずビデオ系ソースを選択した後、本体パネルのツマミでなくリモコンのインプットセレクターキーでオーディオ系ソースを選択しますと、映像はそのまま残ります。解除方法は、再度同じオーディオ系ソースのリモコンキーを押すと映像は消えます。

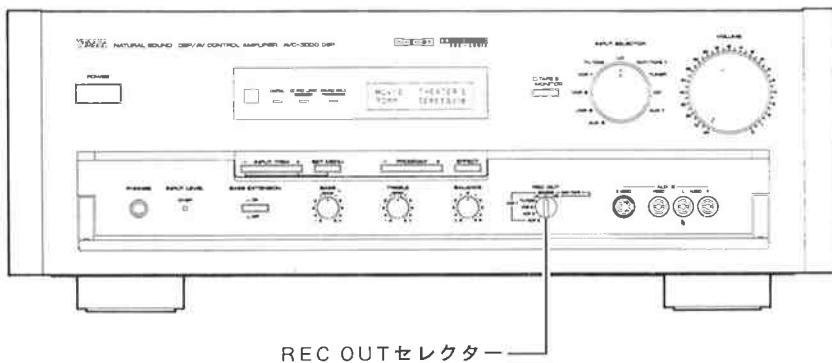
5 VOLUMEボリュームで音量を調整する。

音量を上げる(リモコン操作時)

VOLUME UP

録音と録画

録音／録画を行うとき、事前に必ず試し録音／録画を行ってください。



■再生中のソースを録音／録画したいとき

- 1 VOLUMEコントロールを絞っておきます。
- 2 各機器の電源をONにする。
- 3 本体のREC OUTセレクターをSOURCEにする。
- 4 前項の「再生のしかた」の手順で、録音／録画をしたいソースを再生する。
- 5 テープデッキまたはビデオデッキの録音／録画をスタートさせる。

* 録音レベルの調整は、それぞれのデッキで行います。
ご使用になる機器の取扱説明書をよくお読みください。
* 映像と音声を別々のソースから録音／録画したいとき
(BGV機能)。
ビデオ系の映像をまずインプットセレクターで選択した後、リモコンで録音したいオーディオ系の音声を選択します。

レックスタンバイモードについて

本体のPOWERスイッチを2秒以上押し続けるとレックスタンバイモードになります。
レックスタンバイモードでは、インプットセレクターおよびREC OUTセレクターによって選択された録音／録画ソース（アナログ・デジタル・ビデオ・S-VIDEO共）を電源ONの状態と同様に各REC OUT端子に出力されます。その他の機能は電源OFF状態となります。
レックスタンバイモードの解除は、POWERキーを押してPOWER ONにすると解除します。
* リモコンのPOWERスイッチでは、レックスタンバイモードになりません。
* レックスタンバイ中は、インプットおよびREC OUTの切り替えが可能ですが、リモコンのインプットセレクトキー操作はできません。
* REC STANDBY UNSWITCHEDのAC OUTLET（リアパネル）は、レックスタンバイ中電源を供給できます。レックスタンバイ中電源をONしておきたい機器を接続しておくと便利です。



■DAT/TAPE 1, VCR 1についてはREC OUTセレクターの操作で再生中のソースとは別のソースを録音／録画することができます。

- 1 VOLUMEコントロールを絞っておきます。
- 2 本体のREC OUTセレクターで録音／録画したいスを選択する。
 - CD : CDをDAT/TAPE 1へ録音するとき。
 - LD : LDをVCR 1へ録画するとき。
 - TV/DBS : テレビ放送や衛星放送のソースをVCR 1へ録画するとき。
 - VCR 2 : VCR 2端子に接続されたビデオデッキのソースをVCR 1へ録画するとき。
 - VCR 3 : VCR 3端子に接続されたビデオデッキのソースをVCR 1へ録画するとき。
 - AUX 2 : フロントパネルのAUX 2端子に接続されたAV機器のソースをVCR 1へ録画するとき。
- 3 録音／録画したいソースを再生する。
- 4 録音／録画する機器を操作して、録音または録画を始める。
- 5 INPUT SELECTORで聴きたいソースを選択する。
- 6 VOLUMEで音量を調整する。

* 録音／録画の際、トーンコントロール（BASS, TREBLE）、BASS EXTENSION, BALANCEコントロール、MASTER VOLUME、音場プログラミングなどを操作しても、録音／録画には影響しません。
* 本機のREC OUTは、アナログとデジタルは独立しています。アナログ信号はアナログ録音となり、デジタル録音はできません。同様にデジタル信号はデジタル録音となり、アナログ録音はできません。
* デジタル録音は、OPTICAL（光）優先となりますので、録音ソースがOPTICAL、COAXIAL両方接続されている場合、REC OUTのOPTICAL、COAXIAL出力共に、入力ソースのOPTICAL側の信号が出力されます。
* TAPE 2、VCR 2、VCR 3に対しては、REC OUTセレクターの位置にかかわらず、インプットセレクターで選択したソース（自分自身を除く）が録音／録画できます。ただし、REC OUTセレクターがVCR 2（VCR 3）でインプットセレクターがVCR 1の場合、VCR 2（VCR 3）の録音／録画はできません。VCR 2（VCR 3）にVCR 1を録音／録画する場合は、REC OUTセレクターをVCR 2（VCR 3）以外の位置にしてください。
* TAPE 2の音をTAPE 1に録音したい場合は、TAPE MONIスイッチを押しインプットセレクターをDAT/TAPE 1以外の位置にしてください。

活用編

活用編ではマスターリモコンでの操作を中心に説明しています。簡単リモコンでは操作できないものがありますので、マスターリモコンを用意してください。

	ページ		ページ
オンスクリーン・ディスプレイについて	22	パラメーターコントロール	
デジタルシネマイコライザー		パラメーターコントロールとは	42~43
サウンドライトネスコントロール	23	コントロールのしかた	44
センターイコライザー	23	CINE DSP音場	44
サウンドスクリーン	24	パラメーターの種類	45
セットメニューについて	25	リモコンの学習機能について	
セットメニューの操作手順	26	リモコンの学習操作	46~47
1. Center Mode	27	学習するためのご注意	48
2. Center EQ	27~28	消去のしかた	48
3. Screen EQ	28~29	その他の操作と調整	
スクリーンイコライザー設定例	30~31	入力ソースのレベル調整	49
パラメトリックイコライザー特性	32~33	音量レベル（各スピーカー）について	49
4. Sub Woofer	34~35	メモリーバックアップについて	49
5. Others	35	タイマー再生／録音（録画）のしかた	49
6. Exit Set Menu	35	その他の接続	
各スピーカーのレベル調整		AVM-3000以外のアンプと組み合わせて使用する場合	50~51
ドルビーサラウンド時のスピーカーレベル調整	37	フロントスピーカーを設置しない場合	52
DSP再生時のスピーカーレベル調整	38	センタースピーカーを設置しない場合	52
音場プログラムとタイプ		BASS EXTENSIONスイッチについて	52
音場プログラムの特長	39~40		
音場プログラムとタイプの選択	41		

オンスクリーン・ディスプレイについて

本機にモニター（テレビまたはプロジェクター）を接続すると、本機の操作内容を映像に重ねて表示（オンスクリーン）させることができます。

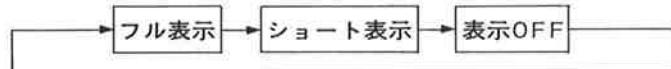
パラメーターコントロールやセットメニューを設定する際、本体ディスプレイに比べて項目や設定値を分かりやすく表示するので大変便利です。

また、次の操作が可能となります。

- マスターリモコンのON SCREENキーにより、オンスクリーンの表示フォーマットを変えることができます。
- 映像信号が入力されていないときには、自動的に画面の背景色を付けて表示します。背景色はセットメニュー5.OthersのBACKGROUND COLOR No.にて、8種類の中から自由に選択できます。
- ※背景色の指定は、35ページの「セットメニューについて」を参照してください。
- オンスクリーンはREC OUTには出力されません。

■表示フォーマットについて

マスターリモコンのON SCREENキーを押すと、

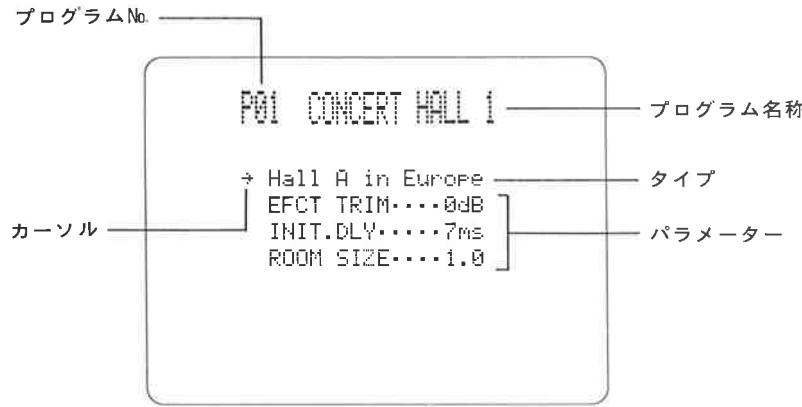


の順に3種類のオンスクリーン表示フォーマットを選択することができます。

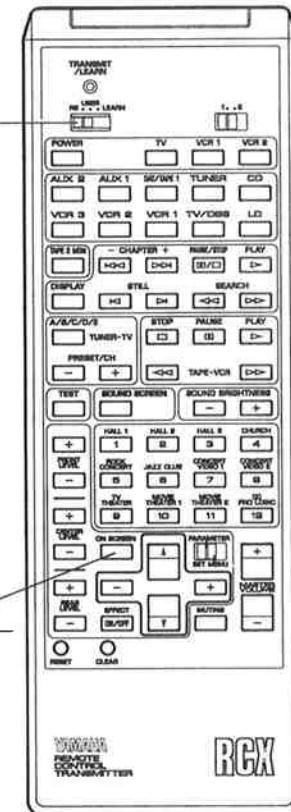
表示フォーマット	表示内容
フル表示	モニターに音場プログラムのパラメーターが當時表示されます。 *インプットセレクター／レベルコントロール等の操作時は、本体のLCDディスプレイと同じ内容（操作状態）が、モニターの画面下側に約3秒間表示されます。
ショート表示	本体のLCDディスプレイと同じ内容（操作状態）が、モニターの画面下側に約3秒間表示されて消えます。
表示OFF	画面下側に*DISPLAY OFF*が表示されて消えます。 ON SCREENキー以外を操作しても何も表示されません。

*セットメニューおよびTEST DOLBY、TEST DSPの場合、表示フォーマットに関係なくモニター画面に表示されます。

例：CONCERT HALL 1（フル表示）



パラメーターは数ページに分けて表示されます。
ページを変更する場合はカーソルキーの“▽”、“△”を押し続けてください。



例：セットメニュー



デジタルシネマイコライザー

ホームシアターサウンドでは従来のHiFiオーディオと異なり、ソースの状態に応じてより積極的な音質コントロールや、スピーカーやスクリーンの設定に合わせての特性補正が非常に効果的であり、重要になります。

AVC-3000DSPでは3種類のデジタルシネマイコライザーを搭載し、シアターサウンドを最良の状態に設定して楽しむことができます。

- サウンドブライトネスコントロールで、ソースの音色バランスを補正できます。
- センターイコライザーで、センタースピーカーの音色を補正できます。
- サウンドスクリーン設定機能で、サウンドスクリーンの透過損失補正(スクリーンイコライザー)をスクリーンの使用状態に合わせて設定できます。

■サウンドブライトネスコントロール

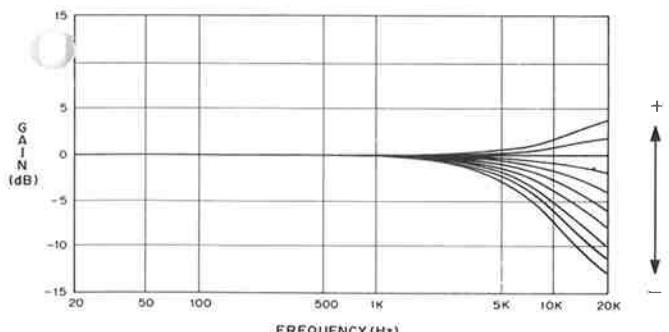
映画用音声トラックをそのまま録音した、ソフト(LD等)をAVソースとして再生した場合、高音域が不自然に強調されて聞こえます。

サウンドブライトネスコントロールは、高音域が強調された録音されている映画ソフトを元の音色バランスに戻すための補正用コントロールです。

簡単及びマスターリモコンのSOUND BRIGHTNESSキーで操作します。10kHzにおいて+2dB~-7dBと10段階に調整できます。(-7dB時 ISO BチェーンXカーブ準拠)



イコライジング特性



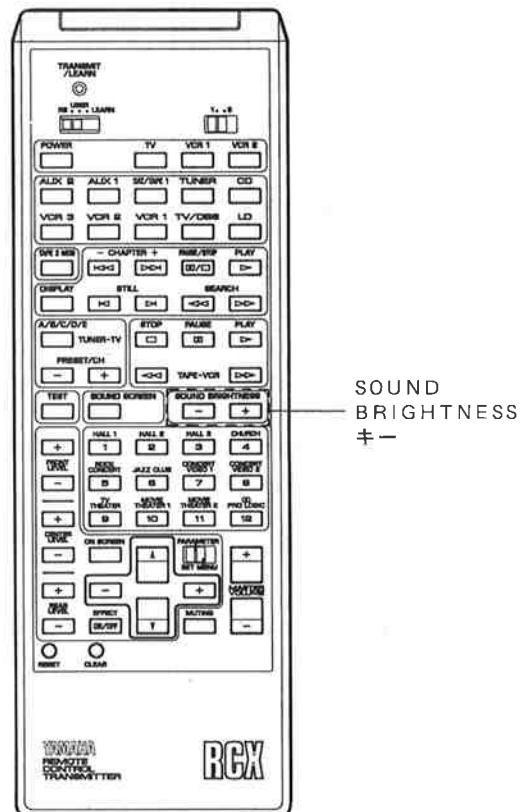
■センターイコライザー

シアターサウンドでは、メインL, R、とセンターチャンネルの音色を合わせる事が重要です。この目的のために本機ではセンターイコライザーを搭載しました。

センターイコライザーには、3バンドのパラメトリックイコライザーを使用しており、周波数、レベル、Qを細かく設定でき、極めて自由度の高い補正が可能です。

詳しくは27~28ページの「セットメニューについて」を参照してください。

*センター モードをPHNTM(Phantom)に設定した場合、補正する必要はありません。また、補正してもセンター成分は変化しません。



デジタルシネマイコライザー

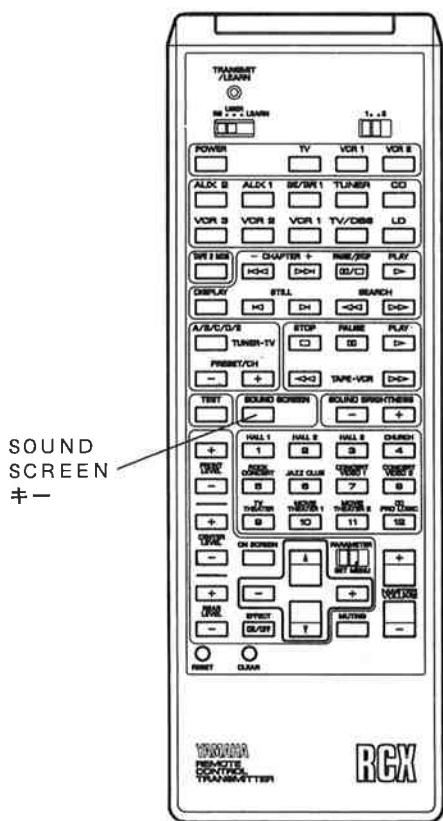
■サウンドスクリーン

映画館では、メインスピーカー（L／C／R）がサウンドスクリーンの後方に設置してあります。この方式では、会話は画面の人物と一致した場所から聞こえてくるという、センター定位に関して理想的な効果が得られます。また視覚的にスピーカーの存在が消えることで、より画面に集中でき、映画ソフトの繰り広げる世界へ自然にとけ込めるようになります。

本機には、家庭用のサウンドスクリーン使用時のスクリーン透過損失を補正するための2バンドのパラメトリックイコライザーとハイシェルビングフィルターで構成されたスクリーンイコライザーが内蔵されています。このため、リスニングルームでもサウンドスクリーンを使用でき、より映画館に近い音場とその臨場感を楽しむことができます。

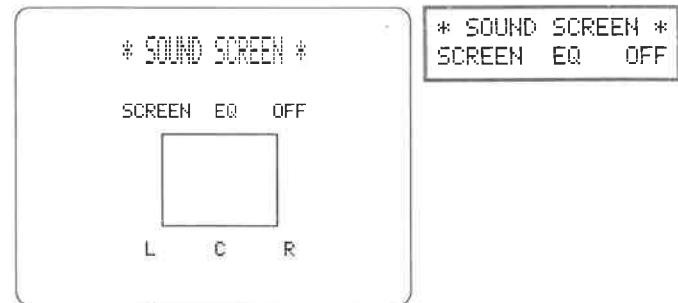
（設定方法は28～29ページの「セットメニューについて」を参照。）

マスターリモコンのSOUND SCREENキーを押してスクリーンとL／C／Rスピーカーの設置状態に合わせて、3種類のタイプを選択してください。



スクリーン イコライザー オフ SCREEN EQ OFF :

スクリーンを使用しない場合や、スクリーンの前方にL，C，R共スピーカーを設置した場合は、SCREEN EQ OFFにしてください。スクリーンイコライザ回路がバイパスされます。（補正無し）

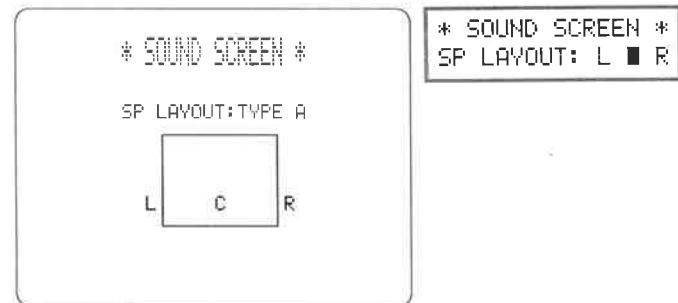


* SOUND SCREEN *
SCREEN EQ OFF

タイプ TYPE A :

センタースピーカーのみスクリーンの後方に置いた場合、TYPE Aにしてください。センター・チャンネルにスクリーンイコライザーが働きます。

センタースピーカーをスクリーン後方に置くことにより、セリフやボーカルと画面との一体感が得られます。L／Rスピーカーは直接聴けますので、2ch再生や、音楽を楽しむには、このTYPE Aをお勧めします。

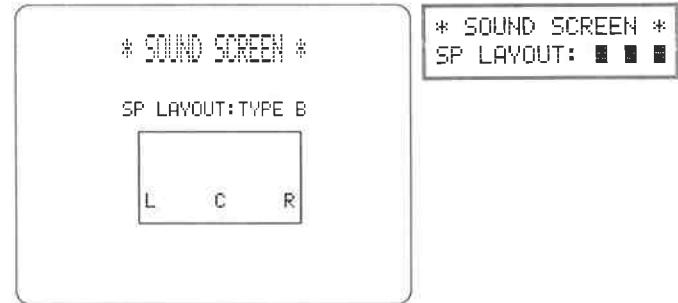


* SOUND SCREEN *
SP LAYOUT: L ■ R

タイプ TYPE B :

L，C，Rスピーカー共スクリーンの後方に置いた場合TYPE Bにします。L，C，Rチャンネルにスクリーンイコライザーが働きます。

より映画館に近いイメージが得られます。



* SOUND SCREEN *
SP LAYOUT: ■ ■ ■

セットメニューについて

本機では、ドルビー プロ・ロジックおよびCINE-DSPの音場効果を、最大限に生かすために、使用するシステムに合わせて5項目のセットメニューが設けられています。

必要に応じてセットメニューを呼び出し、システムに合った設定を行ってください。

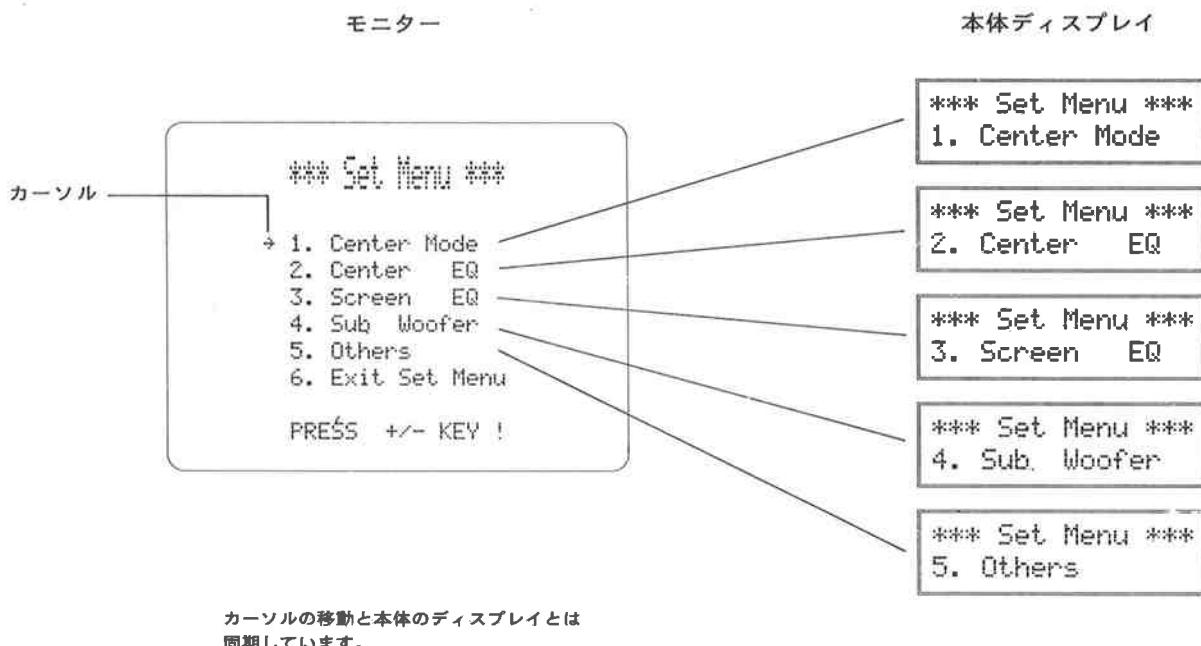
*再生中にもセットメニューの設定ができます。

*セットメニューは、モニター画面を見ながら設定することを、お勧めします。

本体のディスプレイ表示でも設定できますが、一覧表示されるモニター画面の方が視覚的にも分かりやすく行えます。

- | | |
|------------------|---|
| 1. Center Mode | : センタースピーカーの種類に合った、出力モードを設定。 |
| 2. Center EQ | : センタースピーカーの音色を、メインスピーカーと合わせるためのイコライザーコントロール。 |
| 3. Screen EQ | : サウンドスクリーンを使用する場合、メインL, R、センタースピーカーのスクリーン透過特性を補正するためのイコライザーコントロール。 |
| 4. Sub Woofer | : スーパーウーファー（サブウーファー）を使用する場合、スプリット／モノまたはリアの出力レベルの設定、および、メインL, R、センタースピーカーのローカットフィルターのON／OFF設定。 |
| 5. Others | : LD, TV／DBS, VCRの入力信号設定、モニターの背景色の指定、オートアジャスマスのON／OFF設定、MIDIの受信チャンネルを設定。 |
| 6. Exit Set Menu | : セットメニュー表示から元の表示に戻すための出口です。 |

セットメニュー表示



セットメニューについて

■セットメニューの操作手順

マスターリモコン、または本体で操作します。

(マスターリモコンで操作する方が容易に行えます。)

*操作手順は、主にリモコンのキー名称で説明しています。

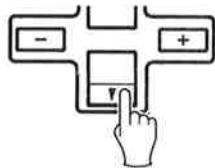
本体で操作する場合は、() 内で記入されているキーを操作してください。

- リモコンのPARAMETER/SET MENUスイッチを“SET MENU”に合わせます。

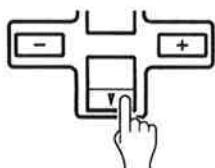


- カーソルキーの“▽”、“△”、“+”、“-”(SET MENU) いずれかを一度押します。

モニターおよび本体ディスプレイがセットメニュー表示に変わります。



- カーソルキーの“▽”または“△”(SET MENU) を押すたびに、それぞれのセットメニューへ移動しますので希望のセットメニューに合わせます。



- カーソルキー(INPUT TRIM)の“+”または“-”を一度押すと、メニュー設定モードに入ります。



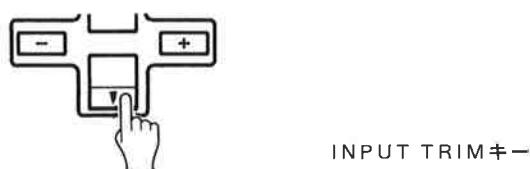
- メニュー設定モードからの操作方法は、それぞれのセットメニューに該当する項目を参照(25~29ページ)してください。

- 設定が終わったら、セットメニュー表示から元の表示(プログラム表示)に戻します。

●PARAMETER/SET MENUスイッチを“PARAMETER”位置に戻してください。



次に、カーソルキーの“▽”、“△”、“+”、“-” いずれかを押します。



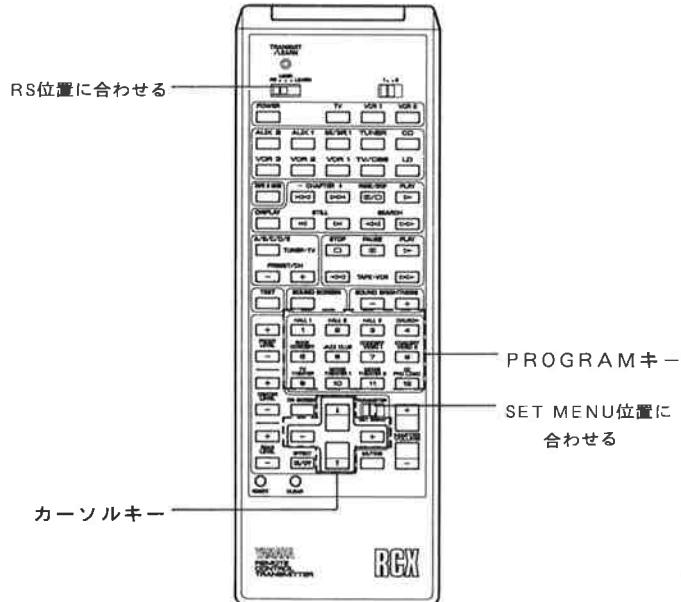
メニュー設定モードの操作は、リモコンのキー名称で説明しています。本体で操作する場合は、下記のキー操作置き換え表を参照して操作してください。

●セットメニューでのキー操作置き換え表

マスターリモコンの操作	本体でリモコンと同じ操作をする場合
カーソルキー	“▽” → SET MENUキー
	“△” → できません
	“+” → INPUT TRIM “+” キー
	“-” → INPUT TRIM “-” キー

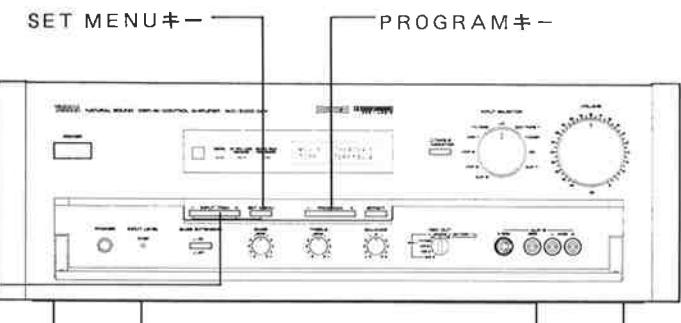
*リモコンの“▽”(順送り)は本体のSET MENUキーでも操作できますが、“△”(逆送り)の操作は、本体ではできません。

リモコンで操作する場合



本体で操作する場合

(リモコンで操作する方が容易に行えます。)



1. Center Mode

使用するセンタースピーカーに合わせてNRML, WDまたはPHNTMを選択します。

操作方法は、カーソルキーの“+”または“-”を押して設定します。

設定後は、カーソルキーの“▼”または“△”を押して、セットメニュー表示に戻します。

NRML (Normal) : センタースピーカーに小型のスピーカーを使用したときのモードです。この場合、センターチャンネル信号の低音域だけがメインのL, Rスピーカーに振り分けられます。

WD (Wide) : センタースピーカーにメインのL, Rスピーカーと同等のスピーカーを使用したときのモードです。センターチャンネル信号をそのまま、センタースピーカーに出力されます。

PHNTM (phantom) : センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインのL, Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

本体ディスプレイ

1. Center Mode

*NRML WD PHNTM

モニターも同じ表示をします

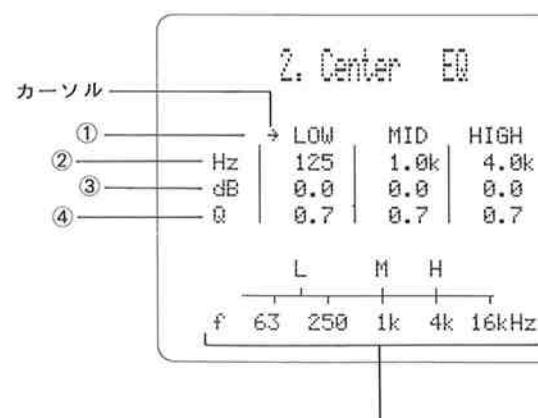
2. Center EQ

センタースピーカーをメインL, Rの音色に合わせるためのイコライザーです。

*センターモードをPHNTM (Phantom) に設定した場合、この調整は必要ありません。また、調整しても音色は変化しません。

センターイコライザーには、3バンドのパラメトリックイコライザーを使用していますので、周波数、レベル、Qを細かく設定できます。

モニター



L (LOW), M (MID), H (HIGH) で各バンドの中心周波数位置をスケール上に示します。

操作手順

1) カーソルキーの“▼”または“△”で、設定する項目に合わせます。

2) カーソルキーの“+”または“-”を押して、設定します。

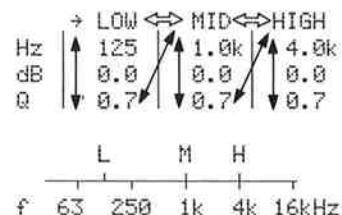
3) 手順1～2を繰り返し操作して、各項目の設定をしてください。

4) 設定が終わったら、セットメニュー表示に戻します。

カーソルをLOWに合わせて“△”を押します。あるいはカーソルをHIGH Qに合わせて“▼”を押してください。

カーソル移動のしかた

2. Center EQ



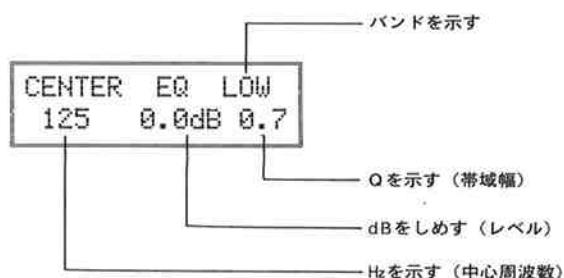
↑は▼／△キー、↔は+／-キーで移動します。

①LOW/MID/HIGH

イコライジングするバンドの各設定内容を示します。

イコライジングするバンドに合わせてLOW（低域）／MID（中域）／HIGH（高域）を+／-キーにて選択します。

本体ディスプレイ



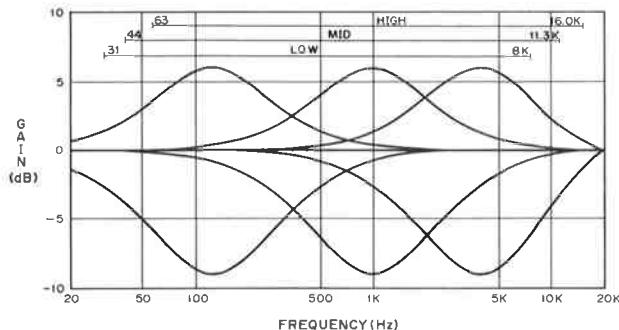
②Hz (FREQ.)

バンドの中心周波数を示します。

イコライジングする中心周波数を設定します。各バンド共、隣のバンドを越えない範囲で最大LOW=31Hz～8 kHz, MID=44Hz～11.3 kHz, HIGH=63Hz～16.0 kHzの設定が+/-キーにてできます。

CENTER EQ LOW
FREQ. 125Hz

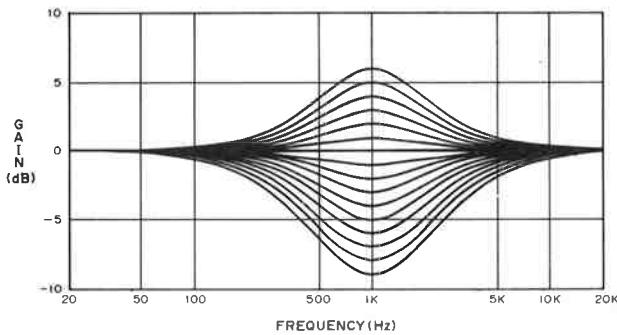
セットメニューについて



③dB (GAIN)

イコライジングするレベル（ゲイン）を示します。
-9.0dB～+6.0dBを+/-キーにて0.5dBステップで設定できます。値を大きくするほどブースト（強調）量が多くなり、小さくするほどカット（減衰）量が多くなります。0.0dBにするとフラットになります。

CENTER EQ LOW
GAIN.....0.0dB

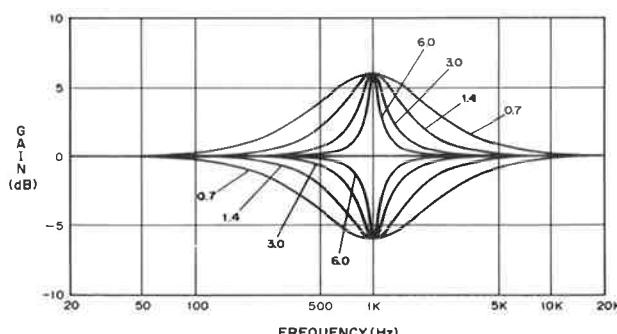


④Q (Q factor)

フィルターの帯域幅（イコライジングする帯域の範囲）を示します。

+/-キーにて0.7／1.4／3.0／6.0の4段階の設定ができ、値を大きくするほど変化がシャープに（イコライジングする帯域の幅が狭く）なります。

CENTER EQ LOW
Q factor.....0.7



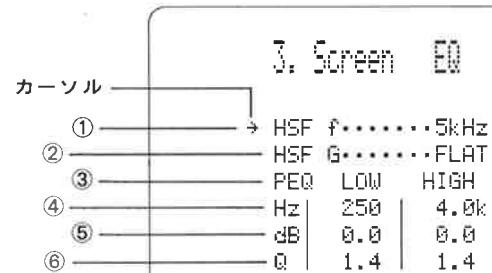
スクリーン イコライザー 3. Screen EQ

メインL, R、センターのスピーカーをサウンドスクリーンの後方に設置した場合は、スクリーンイコライザーでスクリーンの透過損失を補正することができます。

サウンドスクリーンを使用する場合や好みに合わせたイコライザーの設定を行いたいときには、スクリーンイコライザーを調整してください。

スクリーンイコライザーは、2バンドのパラメトリックイコライザーとハイシェルビングフィルターで構成されています。
＊ハイシェルビングフィルターは、高域のブースト（強調）／カット（減衰）量を自由に変えられるフィルターです。

モニター



操作手順

- カーソルキーの“▼”または“△”で、設定する項目に合わせます。
- カーソルキーの“+”または“-”を押して、設定します。
- 手順1～2を繰り返し操作して、各項目の設定をしてください。
- 設定が終わったら、セットメニュー表示に戻します。
カーソルをHSF fに合わせて“△”を押します。あるいはカーソルをHIGH Qに合わせて“▼”を押してください。

カーソル移動のしかた

3. Screen EQ

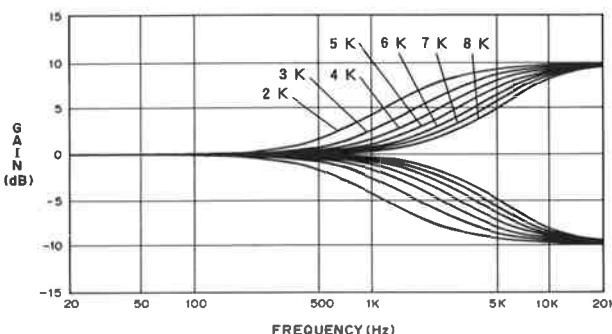
↑ HSF f.....5kHz
↓ HSF G.....FLAT
↔ PEQ LOW↔HIGH
Hz ↑ 250 ↑ 4.0k
dB | 0.0 | 0.0
Q ↓ 1.4 ↓ 1.4

↑は▼／△キー、↓は+／-キーで移動します。

①HSF f

ハイシェルビングフィルターの周波数を示します。
2 kHz～8 kHzを+/-キーにて、1 kHzステップで設定できます。

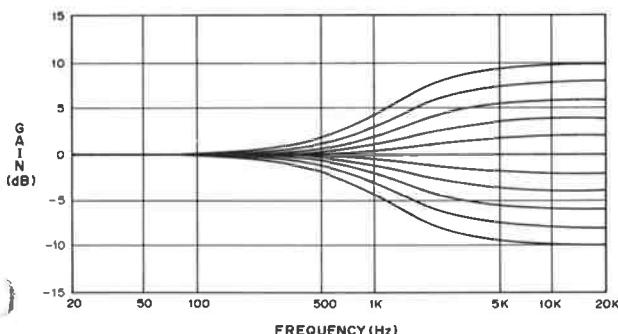
3. Screen EQ
HSF f.....5kHz



HSF G

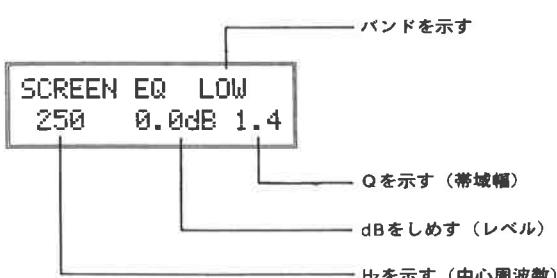
ハイシェルビングフィルターのゲインを示します。
-10dB～+10dBを+/-キーにて、1 dBステップで設定できます。値を大きくするほどブースト（強調）量が多くなり、小さくするほどカット（減衰）量が多くなります。FLATにすると変化しません。

3. Screen EQ
HSF G.....FLAT



③LOW/HIGH

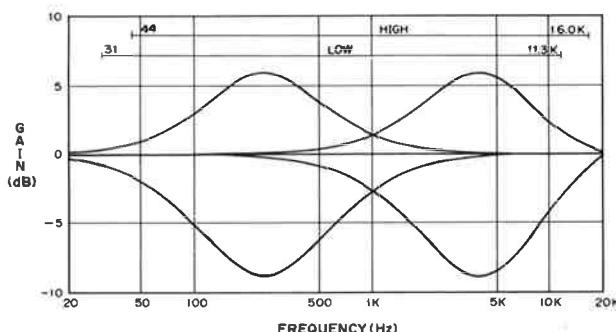
イコライジングするバンドの設定内容を示します。
イコライジングするバンドに合わせてLOW（低域）/HIGH（高域）を+/-キーにて選択します。



④フリケンシー

バンドの中心周波数を示します。
イコライジングする中心周波数を設定します。隣のバンドを越えない範囲で最大LOW=31Hz～11.3 kHz、HIGH=44Hz～16.0 kHzの設定が+/-キーにてできます。

SCREEN EQ LOW
FREQ. 250Hz



⑤ゲイン

イコライジングするレベル（ゲイン）を示します。
-9.0dB～+6.0dBを+/-キーにて0.5dBステップで設定できます。値を大きくするほどブースト（強調）量が多くなり、小さくするほどカット（減衰）量が多くなります。0.0 dBにするとフラットになります。

SCREEN EQ LOW
GAIN.....0.0dB

⑥ファクター

フィルターの帯域幅（イコライジングする周波数の範囲）を示します。
+/-キーにて0.7/1.4/3.0/6.0の4段階の設定ができ、値を大きくするほど変化がシャープに（イコライジングする帯域の幅が狭く）なります。

SCREEN EQ LOW
Q factor.....1.4

セットメニューについて

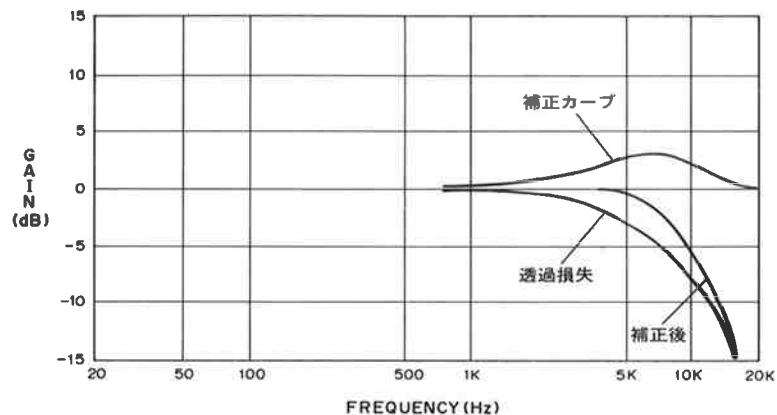
■スクリーンイコライザー設定例

市販されているサラウンドスクリーンの透過損失（高域通過ロス）は、10kHzにおいて約-8dBで、-6dB/octの特性をもっています。この透過損失を補正する設定例を示します。

補正において考慮しなくてはいけないのは、スピーカー／アンプへの負担増です。

最大補正量別に設定例を示します。通常は6dB程度以内をおすすめします。

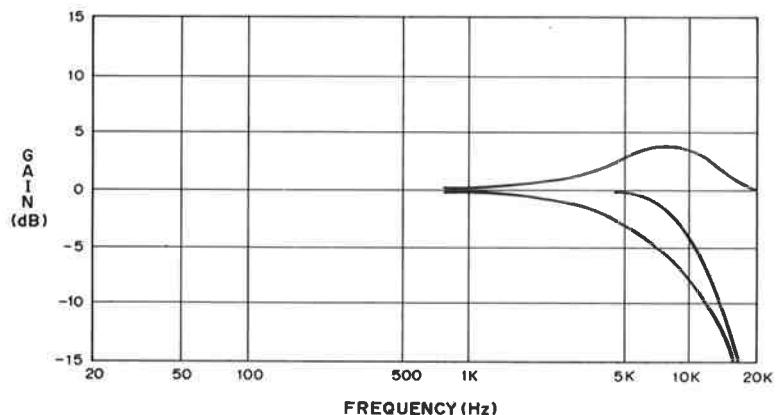
●最大補正量 3 dB



3. Screen EQ

→ HSF f.....	5kHz
HSF G.....	FLAT
PEQ LOW Hz	HIGH
250 dB	6.7k
0.0	+3.0
Q 0.7	0.7

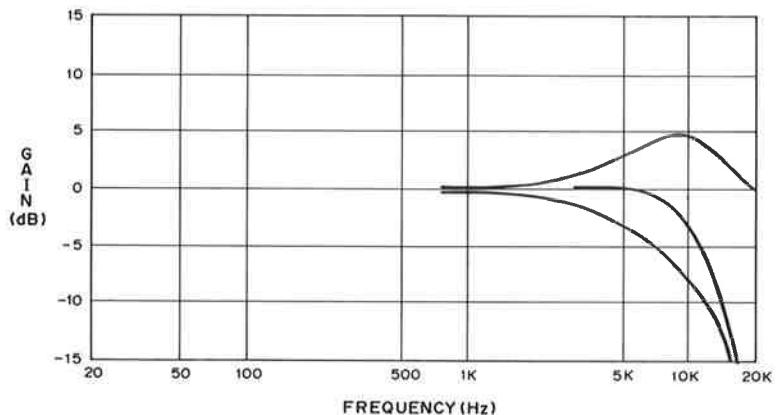
●最大補正量 4 dB



3. Screen EQ

→ HSF f.....	5kHz
HSF G.....	FLAT
PEQ LOW Hz	HIGH
250 dB	8.0k
0.0	+4.0
Q 0.7	0.7

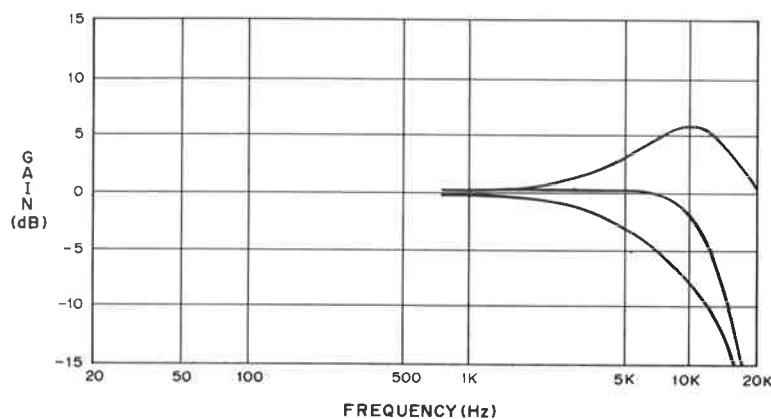
●最大補正量 5 dB



3. Screen EQ

→ HSF f.....	5kHz
HSF G.....	FLAT
PEQ LOW Hz	HIGH
250 dB	9.0k
0.0	+5.0
Q 0.7	0.7

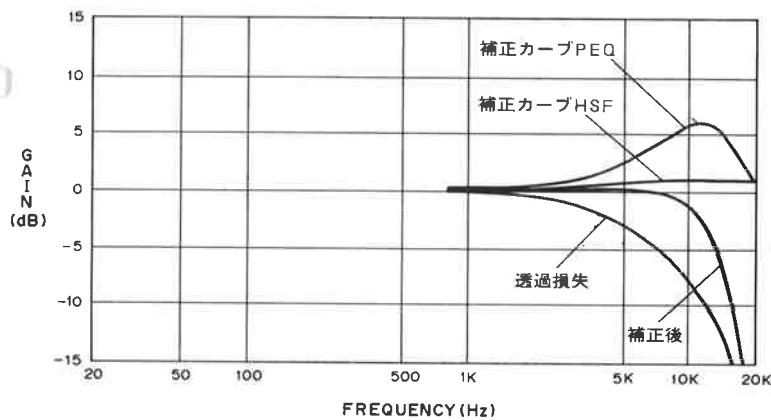
●最大補正量 6 dB



3. Screen EQ

EQ Type	HSF f	HSF G	PEQ LOW Hz	PEQ HIGH Hz
	f.....5kHz			
	G.....FLAT			

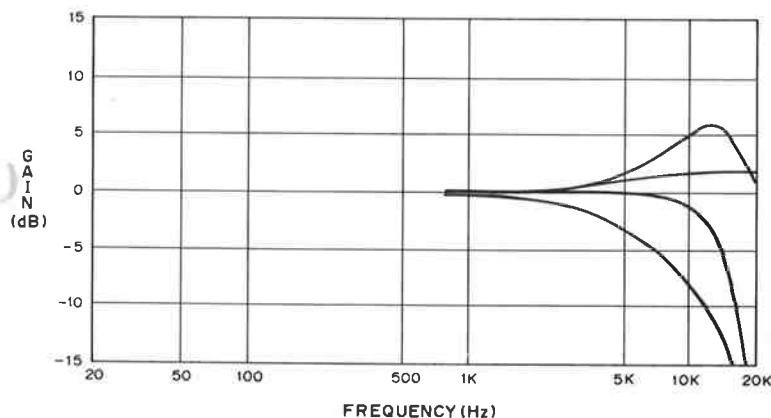
●最大補正量 7 dB



3. Screen EQ

EQ Type	HSF f	HSF G	PEQ LOW Hz	PEQ HIGH Hz
	f.....4kHz			
	G.....+1dB			

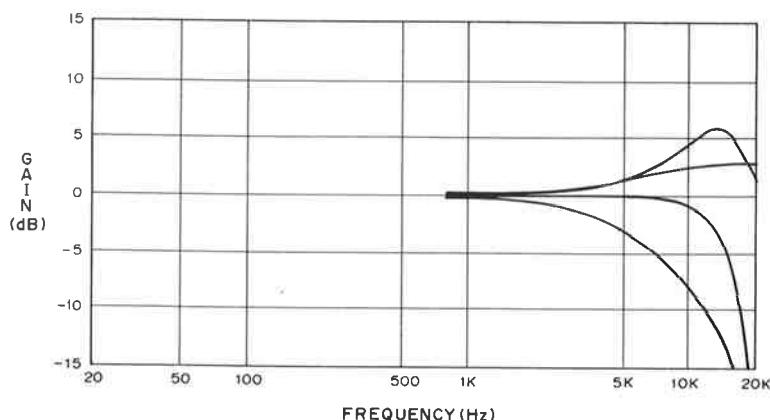
●最大補正量 8 dB



3. Screen EQ

EQ Type	HSF f	HSF G	PEQ LOW Hz	PEQ HIGH Hz
	f.....5kHz			
	G.....+2dB			

●最大補正量 9 dB



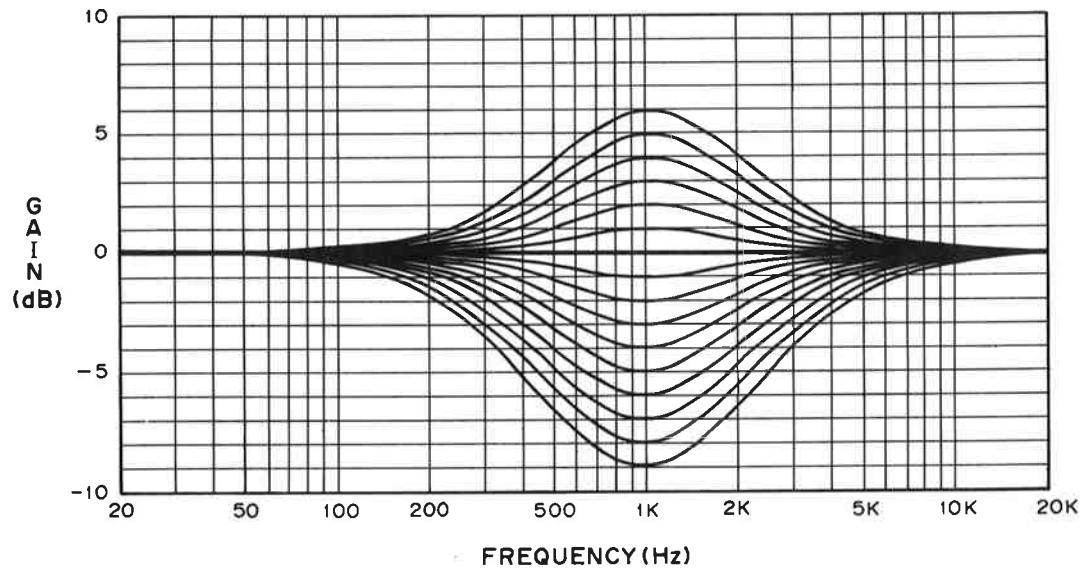
3. Screen EQ

EQ Type	HSF f	HSF G	PEQ LOW Hz	PEQ HIGH Hz
	f.....6kHz			
	G.....+3dB			

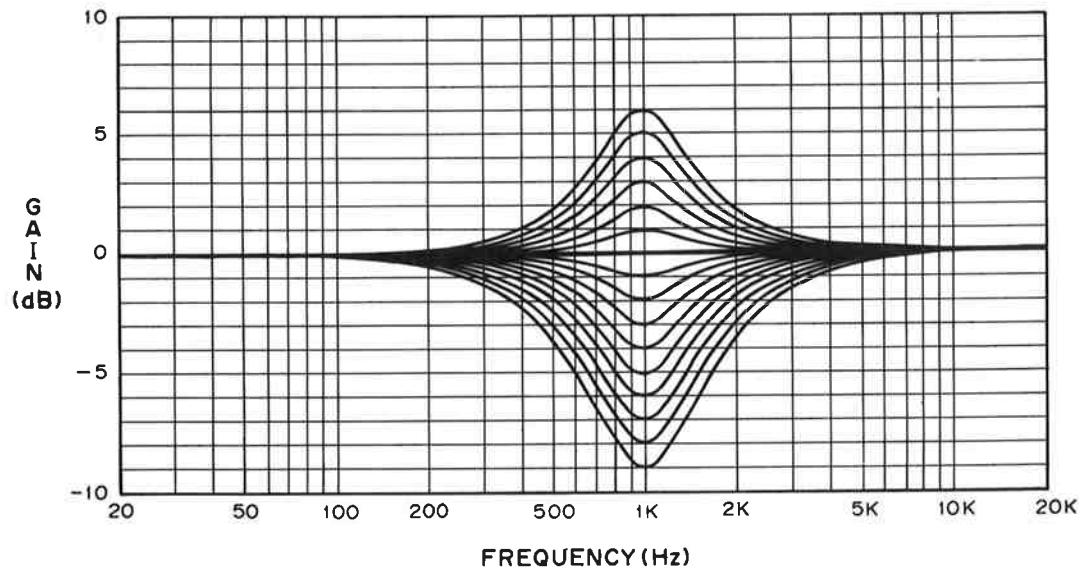
セットメニューについて

■パラメトリックイコライザー特性

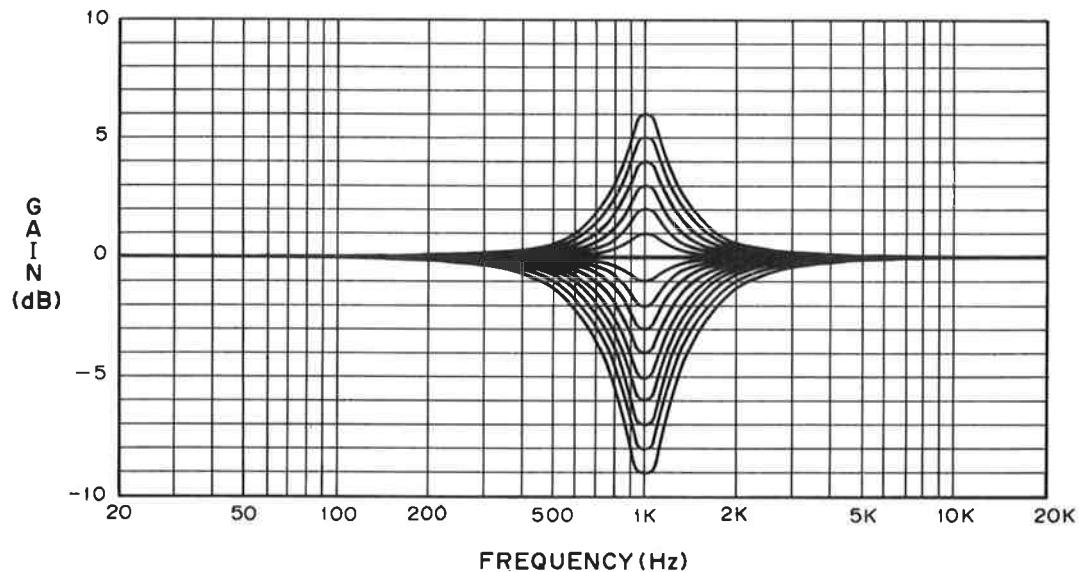
- Q = 0.7



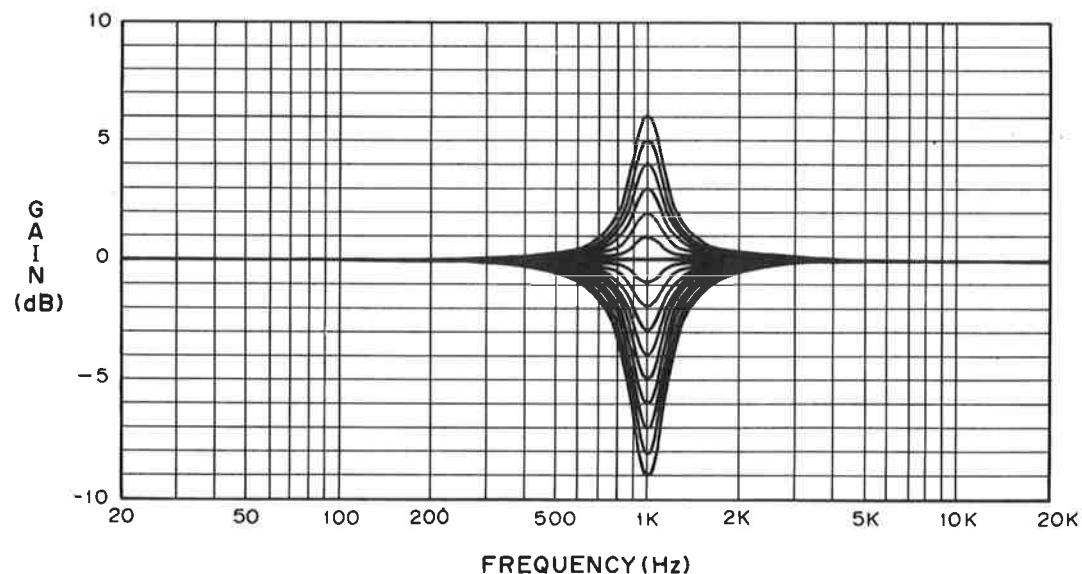
- Q = 1.4



● $Q = 3.0$



● $Q = 6.0$



セットメニューについて

4. Sub Woofer

スーパーウーファーを使用しない場合には、この調整は必要ありません。

本機のSPRIT/MONOまたはREAR端子にスーパーウーファーを接続した場合、それぞれスーパーウーファーの出力レベルを調整できます。また、スーパーウーファー用のテストトーンを内蔵していますので、メイン（リア）スピーカーとの音のつながりを確認することができます。

4. Sub Woofer

SPRIT/MONO
LEVEL..... 0dB
TEST TONE..... ON
TEST FREQ. 35Hz
L/C/R: THROUGH

*弊社のシアターサウンドスピーカーNS-V1000YSTを使用する場合、ローカットフィルターONの状態でご使用になることをお勧めします。（このとき、NS-V1000YSTのスーパーウーファー部はAVC-3000DSPのスプリットスーパーウーファー端子とピンコードで接続します。LEVELは-8dBにセットしてください。）

操作手順

1)カーソルキーの“+”または“-”を押して、出力レベルを合わせるスーパーウーファー（SPRIT/MONOまたはREAR）を選択します。

4. Sub Woofer SPRIT/MONO

2)SPRIT/MONOを選択した場合、L/C/Rを表示します。

L/C/Rチャンネル出力にローカットフィルターをON/OFFできます。カーソルをL/C/Rに合わせて、カーソルキーの“+”または“-”を押して選定してください。

メインL, Rおよびセンタースピーカーに小型のスピーカーを使用する場合、SPRIT/MONOスーパーウーファーとの音のつながりを良くするためにメインL, Rセンターの低域をカット（L.CUT 63Hz）することができます。ご使用になるスピーカーに応じて、使い分けることをお勧めします。スーパーウーファーを使用しない場合は、“THROUGH”にしてください。

4. Sub Woofer L/C/R: THROUGH

3)カーソルをTEST TONEに合わせ、カーソルキーの“+”または“-”を押して、ONにします。

テストトーンは、手順1で選択したスーパーウーファーに出力します。

SPRIT/MONOの場合：メインL, RスピーカーとSP-LIT(L, R)/MONOのスーパーウーファーに出力します。

REARの場合：リアエフェクトスピーカーとREARのスーパーウーファーに出力します。

4. Sub Woofer TEST TONE..... ON

4)テストトーンが聞こえるようにMASTER VOLUMEを調整します。

この場合、ソースの再生中でもテストトーンが優先し、ソースの再生音は出力されません。

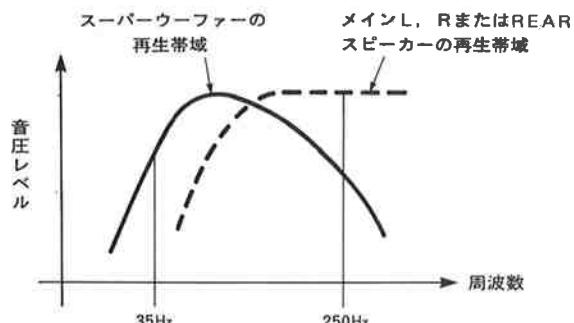
*必要以上に音量を上げないよう、ご注意ください。

*音量調整してもテストトーンが聞こえない場合は、一度MASTER VOLUMEを絞り電源をOFFしてから、結線を再確認してください。

5)メインL, Rまたはリアエフェクトスピーカーとスーパーウーファーの音のつながりが聴感上スムーズにつながっていることを確認するため、テストトーンの周波数帯域を変化させます。

カーソルをTEST FREQ.に合わせ、カーソルキーの“+”または“-”を押して、周波数（35Hz～250Hz、ポイント）を変化させます。

4. Sub Woofer TEST FREQ. 35Hz



- 6) 音のつながりが不自然な場合、スーパーウーファーのレベルを調整します。
カーソルをLEVELに合わせ、カーソルキーの“+”または“-”を押して、スーパーウーファーの出力レベル(MUTE、-40dB～+10dB、1dBステップ)を調整します。

4. Sub Woofer
LEVEL..... 0dB

- 7) 手順5～6を繰り返して、スーパーウーファーの音のつながり(バランス)を調整してください。
8) 以上の操作でスーパーウーファーの基準レベルを調整できますが、低域の量感はソースによって異なりますので基準レベルを参考に、お好みのレベルに調整してください。
9) 調整が終わったら、カーソルキーの“▼”または“△”を押して、セットメニュー表示に戻します。

アザーズ 5. Others

このセットメニューには、LD, TV/DBS, VCRの入力信号設定、モニターの背景色の指定、AUTO AZIMUTHのON/OFF設定、MIDIの受信チャンネルの設定。計4種類の項目があります。
カーソルを設定する項目に合わせ、カーソルキーの“+”または“-”を押して、設定します。設定が終わったら、カーソルキーの“△”または“▼”を押して、セットメニュー表示に戻します。

5. Others

→ LD : Auto
TV/DBS : Auto
VCR 1 : Auto
VCR 2 : Auto
VCR 3 : Auto
BACK COLOR No.1
AUTO AZIMUTH ON
MIDI CHANNEL ALL

LD, TV/DBS, VCR 1, VCR 2, VCR 3 :
入力信号の設定ができます。Autoを選択すると、アナログ信号とデジタル信号が同時に入力された場合、優先順位に基づき自動的に入力信号を選択します。
優先順位は、①デジタル(光: OPTICAL) ②デジタル(同軸: COAXIAL) ③アナログとなります。
Analogを選択すると、入力信号はアナログ信号に固定されます。
*機器によっては、アナログとデジタルで異なる信号が出力されているものがあります。
*デジタル音声のないLDソフトでは、アナログ接続でAnalog選択しないと音ができません。

5. Others
LD : Auto

バック カラー ナンバー
BACK COLOR No. : 背景色の設定
映像信号が入力されていない場合のモニターの背景色(8色)をお好みに合わせて選択できます。

5. Others
BACK COLOR No.1

オート アジマス
AUTO AZIMUTH : オートアジマスのON/OFF
ダビング等によってL, Rの位相ずれを生じた入力ソースに対して、ドルビー・プロ・ロジックおよびDIR. ENHANCEMENTの機能をフルに発揮させるため、本機ではL, Rの位相ずれを自動修正して、センター定位を明瞭にするデジタル処理のオートアジマス回路を内蔵しています。
通常は、“ON”にしてください。

*意図的に位相を変化させて、広がり感やサラウンド感を強調しているようなソースでは、音が割れたようになることがあります。そのようなときはOFFにしてお使いください。

5. Others
AUTO AZIMUTH ON

ミディ チャンネル
MIDI CHANNEL :
MIDI機器と接続した場合、本機のMIDI受信チャンネルを設定します。

オール : 送信チャンネルに関係なくMIDI信号を受信できます。
#01～#16 : 1～16までの受信チャンネルを設定できます。
OFF : MIDI信号の受信を禁止(MIDIコントローラを禁止)します。

5. Others
MIDI CHANNEL ALL

イグジットセットメニュー 6. Exit Set Menu

セットメニュー表示から通常のプログラム表示に戻すための出口メニューです。このメニューまで合わせると、自動的に通常のプログラム表示に戻ります。

各スピーカーのレベル調整

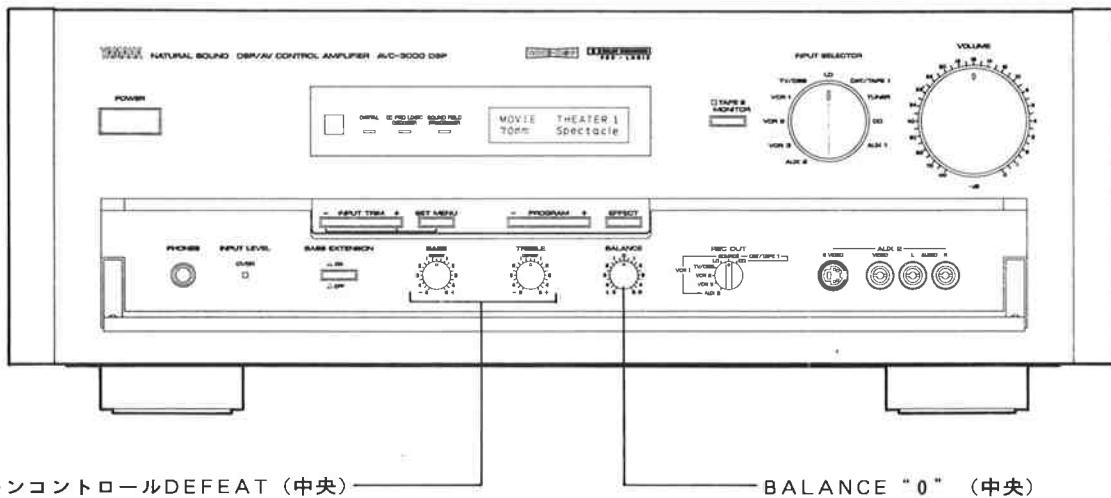
各スピーカーのレベルバランスがとれてないと、よい音場効果が得られません。本機内蔵のテストトーンを使い、メイン、センター、エフェクト、スーパーウーファーの各スピーカーの出力レベルを調整します。

*スーパーウーファーのレベル調整はTESTキーではなく、セットメニューにより調整します。

詳しくは、34ページの「セットメニューについて」を参照してください。

調整の前に

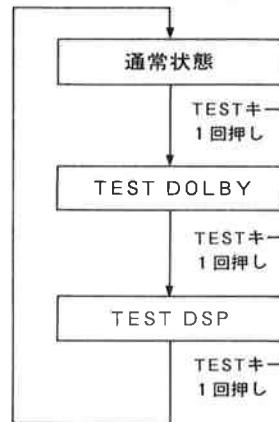
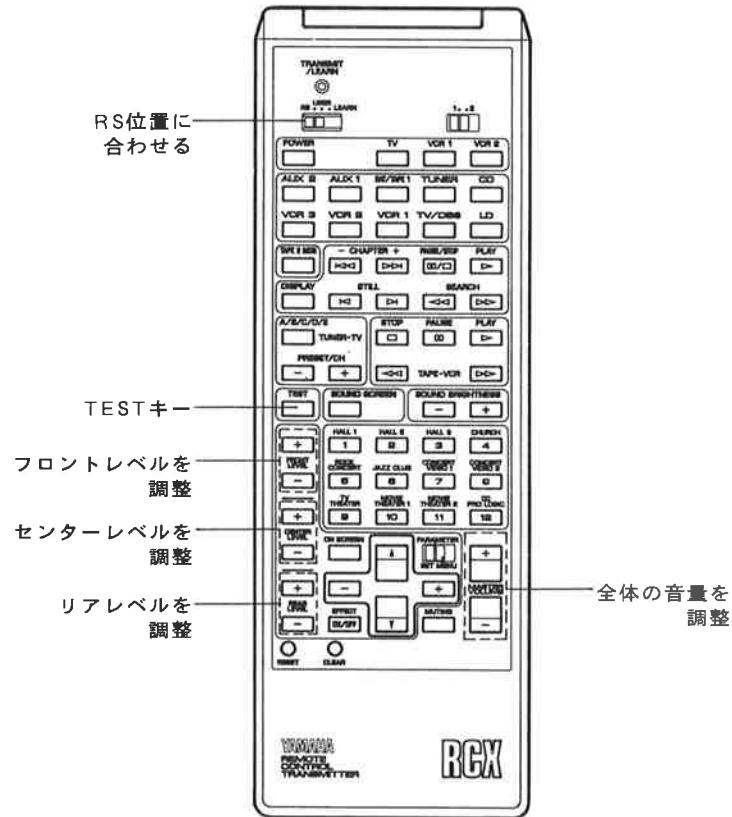
シーリングパネルを開けて、トーンコントロール（BASS, TREBLE）をDEFEAT（中央）、BALANCEツマミを“0”（中央）にセットします。



トーンコントロールDEFECT (中央)

BALANCE “0” (中央)

● テストモードの入り方

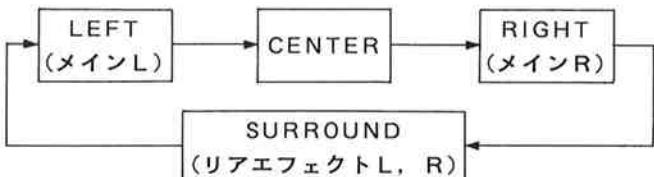


●スピーカーレベルの調整は、マスターリモコンを使い、必ずリスニングポジションで行ってください。

■ ドルビー サラウンド時のスピーカーレベル調整

1 TESTキーを押し、LCDディスプレイに**TEST DOLBY**を表示させます。

2 テストトーンが聞こえるよう、MASTER VOLUME を調整します。
テストトーンは、



の順で移動し、それぞれ約2秒間ずつ聞こえます。

- *センタースピーカーを使用しないPHNTMモードでは、センターレベルの信号は左右のメインスピーカーに同じレベルで振り分けられます。
- *テストトーンが聞こえない場合は、一度MASTER VOLUMEを絞り電源をOFFにしてから、結線を再確認してください。
- *リアエフェクトスピーカーL, Rの配線チェックに、テストトーンをリアエフェクトL, R単独に出すことができます。
- カーソルキーの“-”を押すとリアエフェクトL側、“+”を押すとリアエフェクトR側から音が出ます。

3 リスニングポジションで、各スピーカーからの音量がすべて同じになるよう以下4~6の手順で調整します。
CENTER LEVEL (REAR LEVEL) を操作すると、テストトーンは自動的にCENTER (SURROUND) より出力されます。

4 CENTER (センター) の音量がメインの音量と同じになるよう、CENTER LEVELの“+”, “-”キーを押して調整 (MUTE, -40dB~+10dB) します。

- *内蔵のセンターアクライマーで、センタースピーカーの音色の調整ができます。(27~28ページ参照)
- *PHNTMモードでは、CENTER LEVEL調整は不要です。またCENTER LEVELキーを押しても、音量は変化しません。

5 SURROUND (リア・エフェクト: サラウンド) の音量がメインの音量と同じになるよう、REAR LEVEL の“+”, “-”キーを押して調整 (MUTE, -40dB~+10dB) します。

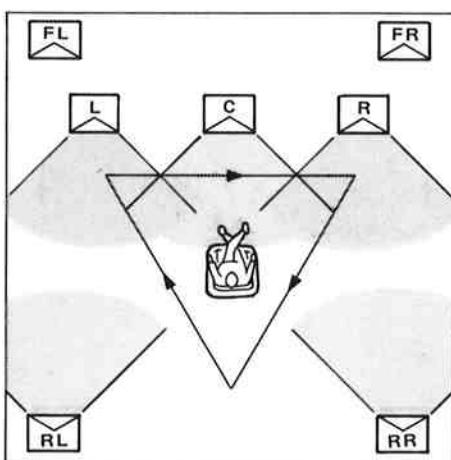
- *リア・エフェクトスピーカーL, Rのバランスがとれないときは、リアパネルのREAR BALANCEコントロールで調整してください。

6 リア・エフェクトスピーカーおよびセンタースピーカーの音量レベルを調整しても、メインスピーカーより音が小さい場合は、リアパネルのMAIN LEVELコントロールでメインスピーカーのレベルを下げてください。
*リアパネルのMAIN LEVELコントロールを調整した場合、4~5のレベルの調整を再び行ってください。

7 調整が終わったら、次にDSP再生時のスピーカーレベルの調整を行います。

センターおよびリアレベルは、スピーカーや部屋を変えない限り再調整の必要がありません。

● テストトーン ドルビーサラウンド時の音の出方



FL : フロント・エフェクトスピーカー (Lチャンネル)
FR : フロント・エフェクトスピーカー (Rチャンネル)
L : メインスピーカー (Lチャンネル)
R : メインスピーカー (Rチャンネル)

C : センタースピーカー
RL : リア・エフェクトスピーカー (Lチャンネル)
RR : リア・エフェクトスピーカー (Rチャンネル)

各スピーカーのレベル調整

■DSP再生時のスピーカーレベル調整

- 1 TESTキーを押して、LCDディスプレイに**TEST DSP**を表示させます。
- 2 テストトーンが聞こえるよう、MASTER VOLUME を調整します。
テストトーンは、

FRONT (フロントエフェクトスピーカー)
MAIN (メインスピーカーL, R)

の順で、約2秒間ずつ聞こえます。

* フロント・エフェクトスピーカーを使用しないときは、リアパネルのFRONT MIXスイッチをONにします。この場合、DSPのフロント・エフェクト信号は、メインチャンネルにミックスされて、メインスピーカーに出力されます。

* テストトーンが聞こえない場合は、一度MASTER VOLUMEを絞り電源をOFFにしてから、結線を再確認してください。

* フロントエフェクトスピーカーL, Rの配線チェックに、テストトーンをフロントエフェクトL, R単独に出すことができます。カーソルキーの“-”を押すとフロントエフェクトL側、“+”を押すとフロントエフェクトR側から音が出ますので確認してください。

- 3 リスニングポジションで、メインスピーカーとフロントエフェクトスピーカーの音量が同じになるよう、FRONT LEVELの“+”，“-”キーを押して調整(MUTE, -40dB～+10dB)します。
FRONT LEVELを操作すると、テストトーンは自動的にFRONTになります。
- 4 フロントエフェクトスピーカーの音量レベルを調整しても、メインスピーカーより音量が小さい場合、リアパネルのMAIN LEVELコントロールでメインスピーカーのレベルを下げてください。
* MAIN LEVELコントロールを調整した場合、前項目のドルビー サラウンド時のスピーカーレベルを再調整してください。
- 5 調整が終わったら、TESTキーを押してテストトーンの発生を止めます。これでDSP音場プログラム再生の準備が完了しました。
フロントレベルは、スピーカーや部屋を変えない限り、再調整の必要がありません。

MAIN LEVELコントロールについて（リアパネル）

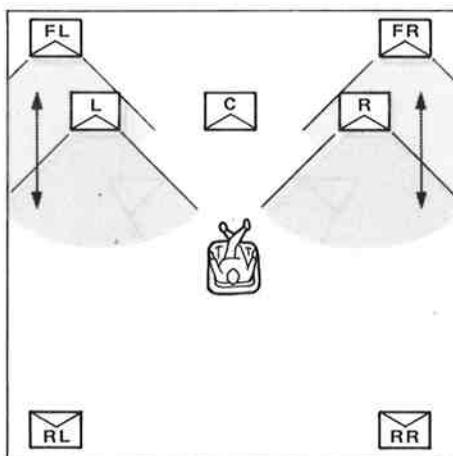
メインスピーカーの音量を調整するツマミです。
メインスピーカーとフロント／リア／センタースピーカーとの音量バランスがとれないときに使います。通常は最大(10)の位置にしておきます。



● テストトーン

DSP時の音の出方

(メインL, Rとフロントエフェクトの音が交互に出ます。)



音場プログラムとタイプ

AVC-3000DSPには、世界各地の著名な演奏会場での実測データに加え、より幅広い表現力を持つCINE-DSP音場プログラムを開発。12種類、33タイプの音場プログラムがメモリーされており、ソースを再生するときに好みの音場データを呼び出して、その臨場感と効果を楽しみただくことができます。

プリセットされている音場プログラムは大きく分けて2つのグループに分けることができます。

■ HiFi用音場プログラムの特長

メインスピーカーのL, Rからは、入力されたままのステレオ音声が出力されます。

センタースピーカーから音は出ません。

エフェクトスピーカーからの出力でリスニングルームにプログラム通りの音場を創生します。

No.	プログラム名	タイプ	特長または最適ソース
1	コンサートホール CONCERT HALL 1	Hall A in Europe	広く奥行きのある大ホール
		Hall B in Europe	縦長で力強い響きが特長のホール
		Hall C in Europe	非対称設計で響きの豊かなホール
2	コンサートホール CONCERT HALL 2	Hall D in Europe	響きが豊かな古典的な中ホール
		Hall E in Europe	響きが豊かな古典的な大ホール
		Hall F in Europe	中高域の響きが豊かなショーボックスタイプの中ホール
3	コンサートホール CONCERT HALL 3	Hall G in U.S.A	中高域の響きが豊かな大ホール
		Hall H in U.S.A	音の明瞭度が高い半円形ドーム天井の大ホール
		Live Concert	広大な円形ホール中央付近の音場、豊かな響き
4	チャーチ CHURCH	Tokyo	適度な残響感を伴う教会の音場
		Freiburg	高い天井と細長い空間で、非常に長い残響時間を持つ教会特有の音場
		Chamber	宮廷の大広間の音場、室内楽の再生に最適
5	ロックコンサート ROCK CONCERT	The Roxy Theatre	ロサンゼルスのホットなロックライブハウス
		Arena	熱狂的なライブコンサートの音場
		Warehouse Loft	コンクリート造りの倉庫のような音場
6	ジャズクラブ JAZZ CLUB	Village Gate	広いフロアを持つニューヨークの著名なライブハウス
		Village Vanguard	ニューヨークの著名なジャズクラブの音場
		Cellar Club	天井の低いアットホームなライブハウス

*実測音場データを採用している為、プログラムによってはエフェクトチャンネルのL, Rのバランスが異なるものがありますが、故障ではありません。

音場プログラムとタイプ

■AV用音場プログラムの特長

ドルビー プロ・ロジック デコーダーあるいは、方向性強調回路が使用されています。センタースピーカーを使用するので良好なセンター定位が得られます。メインL, Rも信号処理された出力となります。プレゼンス音場処理を行うプログラムでは画面奥行への音場表現が、またサラウンド音場処理を行うプログラムでは、包みこまれるようなサラウンド感が得られます。

No.	プログラム名	タ イ プ	特長または最適ソース
7	コンサート ビデオ CONCERT VIDEO 1	Clasical/Opera	ステージの臨場感と音楽の美しさを演出
		Recital	豊かなボーカルの響きと広がりのあるホール音場
		Gospel	ゴスペルのハートを効果的に演出する教会音場
8	コンサート ビデオ CONCERT VIDEO 2	Pop/Rock	ロック、ジャズ等のライブコンサートの雰囲気を再現
		Pavilion	丸天井の大きな空間を持つ音場
		Karaoke	ボーカルに付加されるゆったりとしたエコーと陶酔のステージ音場
9	テレビ シアター TV THEATER	Mono Movie	適度なDSP処理により往年のモノラル映画を自然に再生
		Variety/Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場効果
		Game/Amusement	TVゲームの軽快なリズムを、さらに加速する痛快なテンポの音場感
10	ムービー シアター MOVIE THEATER 1	70mm Spectacle	70mm大画面のスペクタクルな音場効果を再現
		70mm Musical	各楽器のパートを描きわけ、響きと広がり感のある音場
11	ムービー シアター MOVIE THEATER 2	70mm Adventure	最新の映画館の音場、70mmサウンドトラックに仕組まれた演出を最良に再現
		70mm General	Adventureより大きい映画館の音場、情緒的なソフトに向く柔らかな響きの音場
12	ドルビー プロ ロジック DOLBY PRO LOGIC	Normal	ドルビー エンコードされたソースの再生用、セパレーションに優れ安定したデコードが得られる
		Enhanced	ドルビー プロ・ロジックのサラウンド信号を周囲に広げ、35mm映画館のマルチサラウンドシステムをシミュレーション

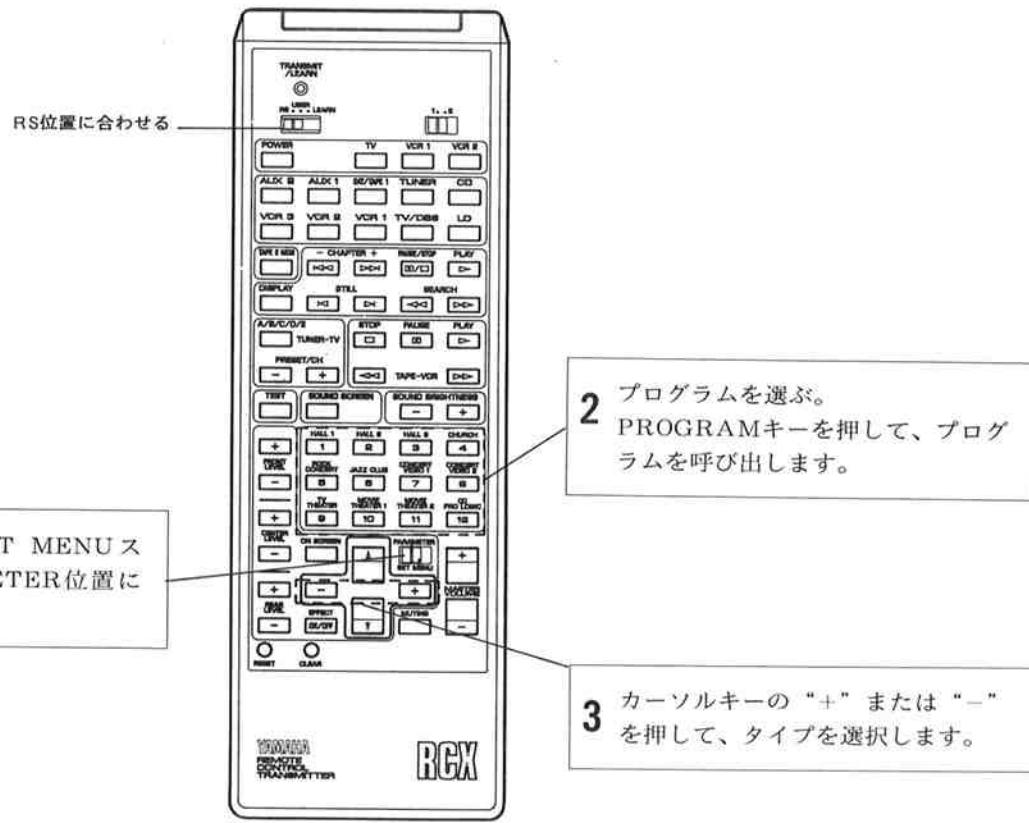
- プログラムの選択はタイトル名にこだわらず、聴感上最も気に入った音場を選んでください。また、リスニングルーム自体の音場がプログラムの音場に付加されることになりますが、比較的デッドに調整されたリスニングルームでは、プログラムの音場の方が支配的となります。

*実測音場データを採用している為、プログラムによってはエフェクトチャンネルのL, Rのバランスが異なるものがありますが、故障ではありません。

■音場プログラムとタイプの選択

マスターリモコンで操作します。

タイプについての詳しい内容は、54~64ページを参照してください。



●そのほかの操作でもタイプの選択は可能です。

操作

PROGRAMキーを押して、プログラムを呼び出します。

続けて同じPROGRAMキーを押すと、押すたびにタイプが
変りますので、希望のタイプを選択してください。

*簡単リモコンでもタイプの選択は可能です。

*表示フォーマットをフルまたはショート表示にしてください。

(表示OFFでは、PROGRAMキーによるタイプの選択
ができません。)

詳しくは、22ページの「表示フォーマットについて」を参
照してください。

パラメーターコントロール

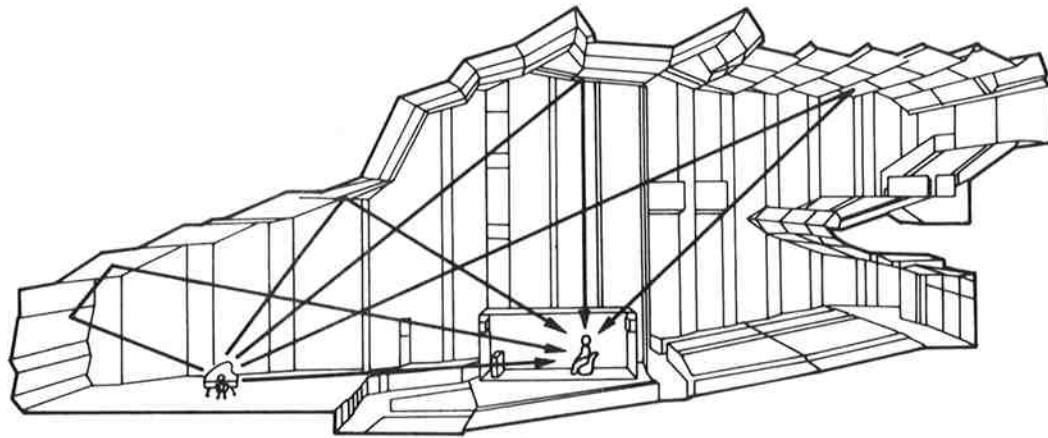
■パラメーターコントロールとは

本機には、さまざまなミュージックシーンの再現を想定し、それらにふさわしい音場として、世界中の演奏会場から収集したデータを含め、12種類33タイプのプログラムがプリセットされております。

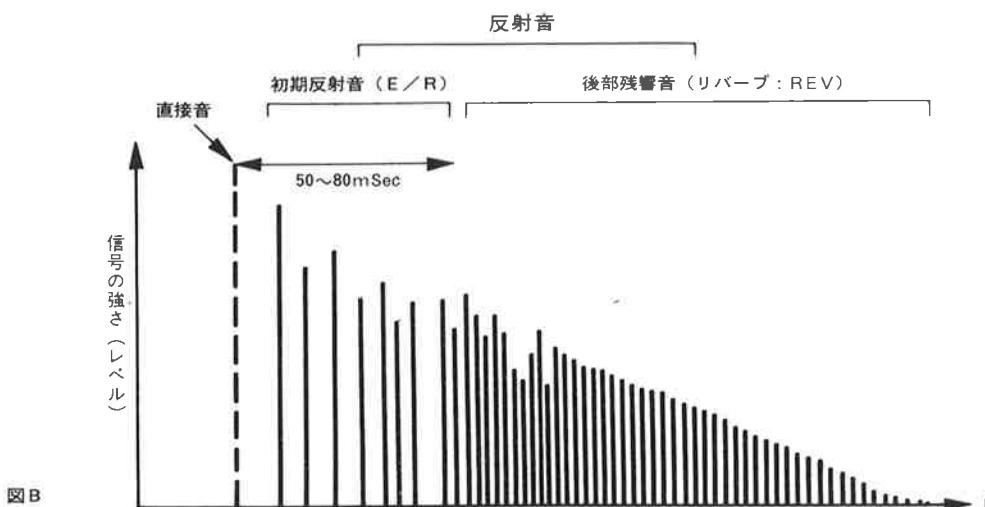
しかし、プリセットプログラムを呼び出し、音楽ソースを再生しているときに“もう少し拡がり感が欲しい”などと感じられることがあると思います。そのようなときに各々のプリセットプログラムが持つパラメータ（音場構成要素）をアレンジすることにより、イメージどおりの音場を作り出すことができます。

下図は、実際の音場と聴感の関係について説明したものです。音場とは音の存在する場所を意味しています。私たちがコンサートホールで演奏を聞いているところを想像してみましょう。

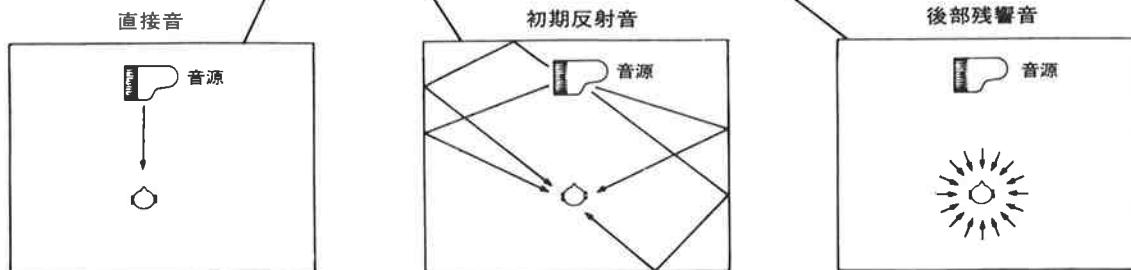
ステージでプレーヤーが演奏する音は放射状に分散し、私たちの耳には演奏者から直接到達する音の他に、壁や天井などに反射した音が混ざり合って聞こえ、コンサートホール独特の余韻を作り出します。（図A参照）



図A



図B



演奏者から直接私達の耳まで到達する音を直接音と呼び、壁や天井などに反射してから到達する音を反射音と呼びます。図Bは直接音と反射音の時間差とレベル差を表わしたもので、音場の特色を知るためによく使われるエコータイムパターンダイアグラムです。

図からもわかるように、反射音は最低1回壁などに反射して耳に届くため、直接音より遅れて聞こえます。そして壁に吸音され直接音よりレベルが小さくなります。このレベルの減少の度合は、壁の材質によって変わります。たとえば木質の壁は、大理石の壁よりも吸音しやすく、レベルの弱まりが早くなります。また、ホールの大きさや構造によって反射音と反射音の時間間隔が変わります。これは小さいホールなら小さく、大きいホールなら大きくなります。

実際のコンサートホールの壁・床・天井などは図Aのように凸凹しています。これは反射面（壁・床・天井）の向きを変えることで反射音を拡散させているのです。

この反射面の向きや壁・床・天井の材質などにより音場が変化します。

ここでもう一度図Bのエコータイムパターンダイアグラムを見てみましょう。反射音は性格の違いからさらに2種類に分けられます。

直接音に続く50~80 msecの間の反射音を初期反射音(Early Reflection : E/R)と呼びます。これは反射する回数が少なく、主に直接音の補強・会話や歌詞を明瞭にし、拡がり感を持たせます。

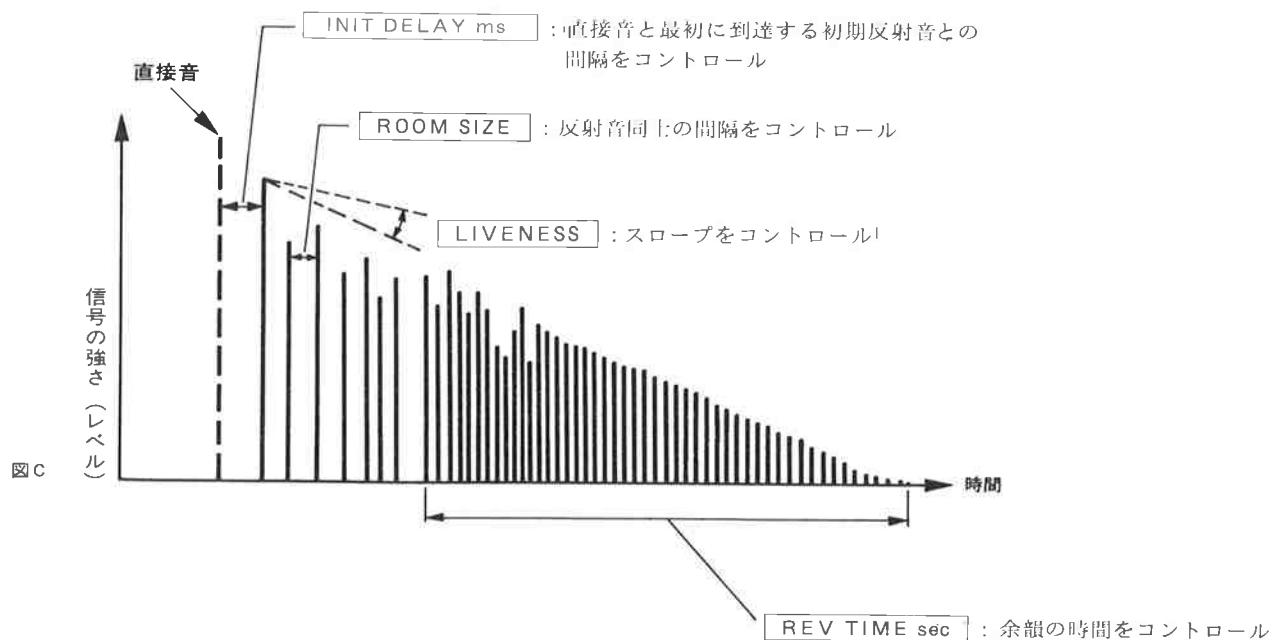
初期反射音以降の反射音を後部残響音(Reverberation)と呼びます。

後部残響音は何回もの反射を繰り返し（そのつど壁に吸音され）レベルが減少し、拡散して、あらゆる方向からやってきます。後部残響音は明瞭度を低下させますが、響き・豊かさ・雰囲気をもたらします。

私達は直接音、初期反射音、後部残響音の一連の流れをひとつの音として聞いているわけです。それはホール独特の雰囲気をかもし出す音であり、同じ音楽でもホールが異なれば違った感じに聞こえるのは、反射の仕方がホールによってそれぞれ異なるためです。

本機では、これらの初期反射音、後部残響音などをパラメーターとして、その値を変えることによって（図C参照）、オリジナルの音場を作成することができます。

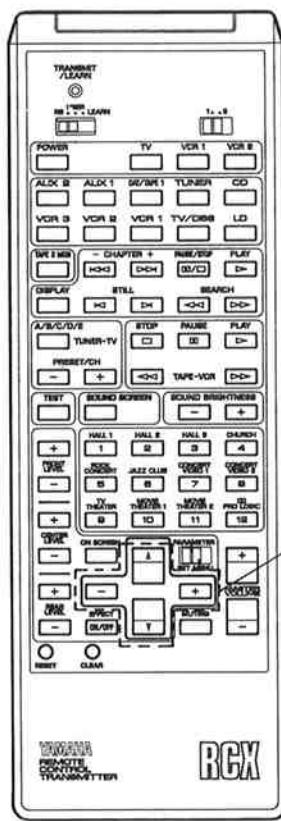
実際の内部処理では、より複雑なパラメーターをプログラムごとに固定して設置してあり、たとえば周波数による残響時間の違いやディレイ時間による反射音の周波数特性補正なども行なっています。



パラメーターコントロール

■コントロールのしかた

マスターリモコンで操作します。



パラメーターを初期設定値に戻したいときは

戻したいパラメーターを表示させ、カーソルキーの“+”または“-”を押し続けてください。押し続けると、パラメーター値は連続して変化しますが、初期設定値では一旦表示が止まります。

* 初期設定値以外では、カーソルの横にアスタリスク (*) マークが付きます。

1 プログラム及びタイプを選ぶ。
詳しくは、41ページを参照してください。

2 カーソルキーの“▼”または“△”を押して、パラメーターを選びます。

3 カーソルキーの“+”または“-”を押して、パラメーターの設定値を変えます。

* 初期設定値以外では、カーソルの横にアスタリスク (*) マークが付きます。

* パラメーター値を変更した結果（値）は、そのまま記憶されます。

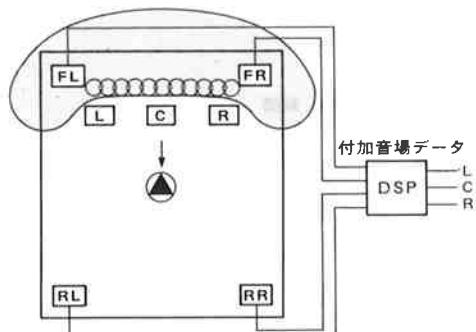
4 他のプログラムのパラメーターや、もう一度パラメーターをコントロールしたいときは、1～3の手順を繰り返します。

CINE-DSP音場

CINE-DSP音場（プログラムNo.7～12）では、プレゼンス／サラウンド音場の2音場処理を行っています。互いに独立した4chのDSP音場処理です。

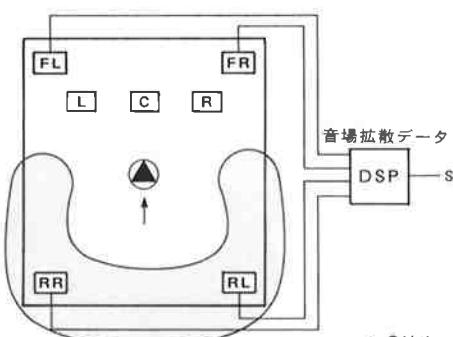
プレゼンス音場

会話の定位感／効果音の奥行き感／音楽の拡がり感を創る音場です。



サラウンド音場

観客を包み込むような音場です。



パラメーターの種類

パラメーターの詳しい内容は、65～68ページを参照してください。

INIT.DLY

音源と反射壁面との距離感を決めるパラメーターです。設定値を小さくすると、音源が壁面に近づく感じになり、大きくすると音源が壁面から離れる感じになります。

“INIT.DLY” の最適値はソースによって異なります。弦楽器では設定値を大きくしても違和感が生じませんが、ピアノや声楽などあまり設定値を大きくすると音場の音が分離した感じになりますので注意してください。

“INIT.DLY” は非常に効果的なパラメーターです。例えばピアノの場合、15～20msにして力強い響きを持たせたり、30ms位に設定して豊かできれいな響きを持たせることができます。

P.INIT.DLY

プレゼンス音場の遅延時間を調整するパラメーターです。

S.DELAY

サラウンド音場の遅延時間を調整するパラメーターです。

ROOM SIZE

会場の大きさ（拡がり感）を決めるパラメーターです。設定値を小さくすると拡がり感がなくなり、大きくすると拡がり感が得られます。

P.ROOM SIZE

プレゼンス音場の拡がり感を調整するパラメーターです。

S.ROOM SIZE

サラウンド音場の拡がり感を調整するパラメーターです。

LIVENESS

会場の響き具合い（残響感）を決めるパラメーターです。設定値を小さくすると響き方が弱く（デッド）なり、大きくすると響き方が強く（ライブ）なります。

P.LIVENESS

プレゼンス音場の響き具合いを調整するパラメーターです。

S.LIVENESS

サラウンド音場の響き具合いを調整するパラメーターです。

REV.TIME

余韻（残響音）の長さを決めるパラメーターです。設定値を小さくすると余韻が短くなり、大きくすると余韻が長くなります。

REVDELAY

残響音が発生し始めるまでの時間を調整（100ms～170ms）するパラメーターです。値を大きくすると、残響音がダイレクト音より遅れて発生するようになります。

REV.LEVEL

後部残響音のレベルを調整するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。

L.P.F

高域をカットするローパスフィルターのパラメーターです。設定される周波数からの上の音域がカットされます。“THROUGH” に設定されていると、このフィルターの効果はありません。ソースの音場に合わせて設定してください。

EFFECT TRIM

エフェクトレベル（効果音）を微調整（-3dB～+3dB）するパラメーターです。

P.EFFECT TRIM

プレゼンス音場のレベルを微調整（-3dB～+3dB）するパラメーターです。

S.EFFECT TRIM

サラウンド音場のレベルを微調整（-3dB～+3dB）するパラメーターです。

DIR.ENHANCEMENT

ドルビーエンコードされていないソース（ステレオ）にもドルビー プロ・ロジックのように方向性強調を加えるパラメーターです。

本機ではソース毎に強調レベルを変えられるように4段階（OFF/MIN/MID/MAX）のレベルを設定しています。OFFでは強調なし、MAXでは最大となります。

DOLBY PRO LOGIC

ドルビー プロ・ロジック デコーダーのON、OFFを決めるパラメーターです。ドルビーエンコードされたソースは“ON”にしてください。

リモコンの学習機能について

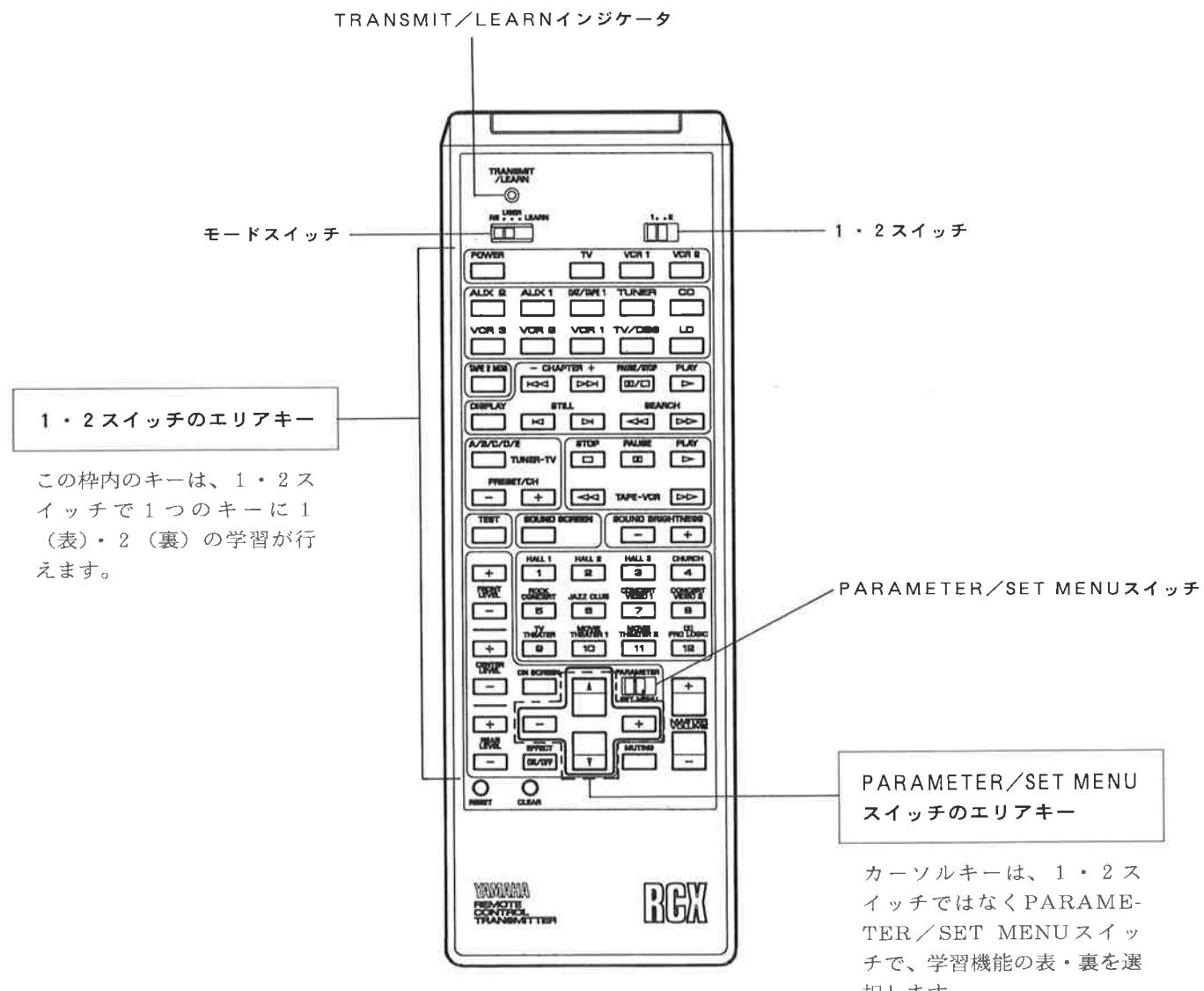
本機に付属のマスターリモコンは、AVC-3000DSP本体のリモコン機能と共に、ヤマハのRS対応機器のリモコン操作もできます。さらに、他のリモコンのコントロール信号をメモリーする、学習機能を備えており、他のリモコン対応のAV機器の操作が可能です。

また、1つのキーに2つの機能を持たせることができますので最大126キーまで学習が可能です。

*学習したリモコン信号の量によっては、全キーに記憶できない場合があります。

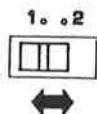
- リモコンの使用範囲や乾電池についてのご注意は5ページを参照してください。
- リモコン各部の名称とはたらきは、13~15ページを参照してください。
- 学習する際、AV機器の各キーと、リモコンの機能表示マークを一致させておくと便利です。
- リモコンの機能表示マークと異なる機能をメモリーした場合、付属のリモコンシートに名称、またはマークを記入して、パネルキーの上に置いてください。

■リモコンの学習機能

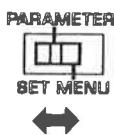


1 学習（メモリー）するリモコンの種類（例：オーディオ系、ビデオ系）に分けて、学習機能の表・裏を選択します。

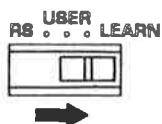
1・2スイッチのエリアキーを学習させたい場合は、1・2スイッチを“1”または“2”的位置に合わせます。
(例 1をオーディオ系、2をビデオ系に設定する)



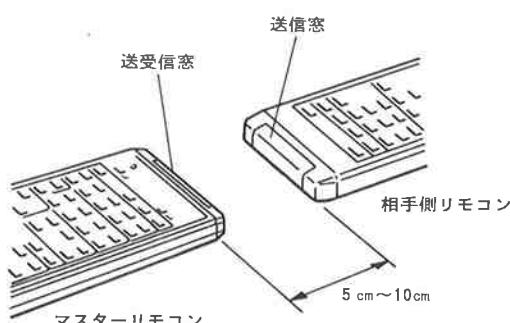
カーソルキーを学習させたい場合は、PARAMETER/SET MENUスイッチを“PARAMETER”または“SET MENU”的位置に合わせます。



2 学習モードにするために、モードスイッチを“LEARN”的位置に合わせます。

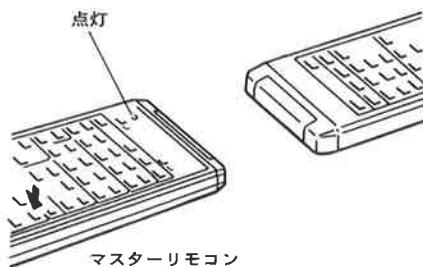


3 マスターリモコンの送・受信窓とメモリーしたい相手のリモコンの送信窓を5cm～10cmの間隔で向かい合わせます。



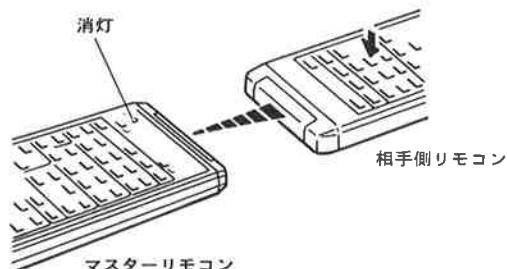
4 マスターリモコンのメモリーしたいキーを押して、TRANSMIT/LEARNインジケーターを点灯させます。

(学習可能状態になります。)



5 相手側リモコンのメモリーさせたいキーを、TRANSMIT/LEARNインジケーターが消えるまで押し続けます。

TRANSMIT/LEARNインジケーターが消灯すると、学習完了です。



6 続けて他のキーを学習させたいときには、3～5の手順を繰り返します。

*正しく学習できないときや、メモリー容量がオーバーした場合には、相手側リモコンの信号を受信後TRANSMIT/LEARNインジケーターが点滅（約3秒、8回点滅）します。

7 1～6までの手順が終わったら、モードスイッチを“USER”的位置に合わせます。（学習したリモコン信号を送信可能状態になります。）

学習したキーを押して、リモコン操作させたい機器が動作することを確認してください。

*モードスイッチが“RS”的位置では、学習したリモコン信号を送信しません。



●学習内容を変更したい場合

1～6の手順を再度行ってください。すでに学習されている内容が消されて、新しい内容がメモリーされます。

リモコンの学習機能について

学習するためのご注意

1. 本機リモコンは、赤外線方式を使用しています。
相手側リモコンが同じ赤外線方式であれば、ほとんどのリモコン信号を学習することが可能ですが、特殊な信号や非常に長い信号の場合、学習できないことがあります。
(相手側の取扱説明書を参照してください。)
*メモリー容量が一杯になっている場合は、それ以上学習させる事ができません。
その場合、不要なキーを消去動作(次の消去のしかた)により消して新しいリモコン信号を学習することができます。
2. 上記以外で学習できない場合は、次の点をチェックしてください。
 - 相手側リモコンの電池が消耗していませんか?
この場合相手側リモコンで機器の操作ができるても本機リモコンは、操作できない場合があります。
 - 学習する際に相手側リモコンとの距離が近すぎるか、遠すぎませんでしたか?
 - 直射日光など強い光が当たっているところで学習しませんでしたか?

■消去のしかた

1 キーを消す場合

1. モードスイッチを“USER”の位置に合わせます。
2. CLEARスイッチをボールペン等(先のとがった物)で押しながら消去したいキーを押して、TRANSMIT/LEARンインジケーターが点滅し終わるまで(約2秒3回点滅)押し続けます。
*点滅の途中に押すのを止めた場合、消去動作は無効となります。

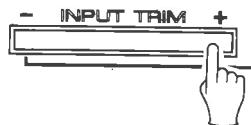
全キーを消す場合

1. モードスイッチを“LEARN”の位置に合わせます。
 2. CLEARスイッチをボールペン等(先のとがった物)で押しながら任意のキーを押して、TRANSMIT/LEARンインジケーターが点滅し終わるまで(約5秒7回点滅)押し続けます。
*点滅の途中に押すのを止めた場合、消去動作は無効となります。
- 消去しますと、元の初期状態(RSモードと同じリモコンコード)となります。

その他の操作と調整

■入力ソースのレベル調整

S/Nの良い再生を行うため、入力レベルを最適動作レベルに調整する必要があります。



1. 入力ソースを再生します。
2. INPUT LEVELインジケーターが点灯する寸前となるようにINPUT TRIMキーで調整（-6 dB～+9 dB）します。
* INPUT TRIMキーの調整でINPUT LEVELインジケーターが点灯した場合は、入力レベルがオーバーした状態を示します。このときは必ずINPUT LEVELインジケーターが点灯しないところまでレベルを下げてください。
3. 他の入力ソースもINPUT TRIMキーで調整します。
・ 入力ソースを最適動作レベルに調整すると、結果的にソースを切り替えてても音量差がなくなり一定となります。
(TAPE等の低入力ソースのレベルでも、CD入力と同じ音量レベルになります。)

■音量レベル（各スピーカー）について

- 各スピーカーの音量調整が必要となった場合は、再度36～38ページの「各スピーカーのレベル調整」を参照してください。
- 音場プログラム再生中でも、好みによって各スピーカーのLEVELキーで音量レベルを調整できます。
* プログラムNo.7～12以外の音場プログラムでは、センタースピーカーからの音はできません。
また、DIR. ENHANCEMENTやDOLBY PRO LOGICがOFFのときには、センタースピーカーから音はできません。

■メモリーバックアップについて

本機の電源をON/OFFしても、パラメーター、セットメニュー、レベル（FRONT, CENTER, REAR, SUB WOOFER, INPUT TRIM）等の内容は消えずに記憶（メモリー）されています。

本機では、メモリー内容を保持するために、特殊なコンデンサーを内蔵してバックアップしています。約2週間は電源コードを電源コンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし、2週間以上電源コードを電源コンセントから外した場合には、バックアップしているコンデンサーが放電てしまい、メモリー内容が消えることがあります。このような場合には、必要に応じてセットメニュー（25～35ページ）・各スピーカーのレベル調整（36～38ページ）・パラメーターコントロール（44ページ）・入力ソースのレベル調整（49ページ）を行ってください。

* 電源コードを電源コンセントに接続し電源が供給されている場合は、電源をOFFしても常にバックアップされていますので、メモリー内容が消えることはありません。

* バックアップ用コンデンサーが完全に放電した場合、電源コードを電源コンセントに接続しておけば、約8時間で充電が完了します。

■タイマー再生／録音（録画）のしかた

本機は、電源を切る前の状態を内蔵のマイコンが記憶していますので市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー再生やタイマー録音（録画）をすることができます。

* ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書も併せてご参照ください。

タイマー再生のしかた

●接続のしかた

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続します。
- 2 本機のAC OUTLETにタイマー再生する機器の電源プラグの接続をします。
(このとき本機に接続する機器の消費電力の合計が、AC OUTLETの供給電力を越えないようにご注意ください。)
- 操作のしかた
- 1 すべての機器の電源をONにします。
- 2 本機のインプットセレクターでタイマー再生する機器を選択します。
- 3 再生する機器を操作し、タイマー再生が可能な状態にセットします。
- 4 本機のVOLUMEを適当な音量に調節します。
- 5 タイマー再生開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。
これでご希望の時間になりますと、タイマー再生が開始されます。

タイマー録音（録画）のしかた

●接続のしかた

- 1 本機の電源プラグをオーディオタイマーのコンセントに接続します。
- 2 チューナーなど録音（録画）する機器およびデッキの電源プラグを本機のAC OUTLETに接続をします。
(このとき本機に接続する機器の消費電力の合計が、AC OUTLETの供給電力を越えないようにご注意ください。)

●操作のしかた

- 1 すべての機器の電源をONにします。
このとき、本機をレックスタンバイモードでもタイマー録音（録画）が可能です。（詳しくは11ページ、20ページを参照）
- 2 本機のインプットセレクターおよびREC OUTセレクターで録音（録画）するソースを選びます。
- 3 チューナーなど録音（録画）する機器およびデッキを操作して、録音（録画）できるようにセットします。
- 4 録音（録画）の開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。
これで予定の時間になりますと、タイマー録音（録画）をすることができます。
- * タイマー録音（録画）時に音出しが不要の場合は、VOLUMEを絞っておきます。

その他の接続

■ AVM-3000以外のアンプと組み合わせて使用する場合

AVM-3000以外のパワーアンプを接続する場合、下記の端子を使用してください。

CENTER OUT端子

本機のCENTER OUTには、NORMAL端子とINVERT端子があります。INVERT端子にはNORMAL端子に対して 180° 位相が反転された信号が出力されます。

ノーマル
NORMAL：センター・チャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ、またはプリメインアンプのパワーアンプ部を接続してください。

SUPER WOOFER端子

本機には、MONO、SPLIT L/R、REARの3組のスーパーウーファー端子が備えられています。小型で高音質の低音が得られるYSTスーパーウーファーなどと組合せ、AV音場には欠かせない重低音再生の実現が可能です。

モノ : メインL、Rとセンター・チャンネルをミックスした、200Hz以下での低域信号のみを出力します。スーパーウーファーを1本使用する場合、この端子に接続します。

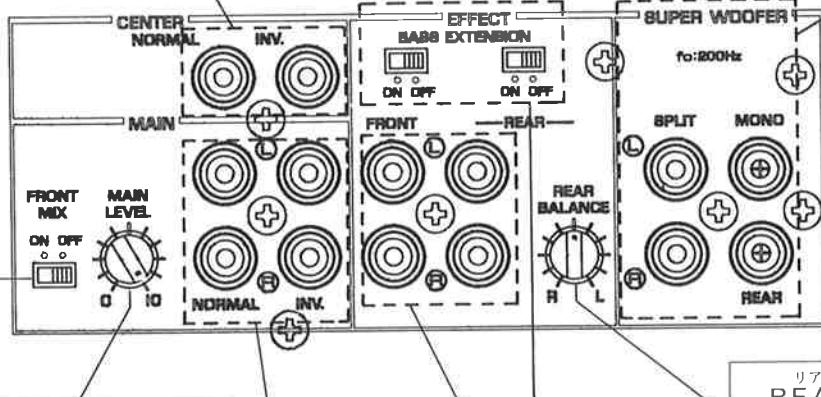
スプリット
SPLIT L,R : L、R端子に左右2本のスーパーウーファーを接続します。この場合、スーパーウーファーを1本使用する場合と比較して、重低音における左右の微妙な方向感までリアルに再現することができます。また、メインL、Rそしてセンター・チャンネルに比較的小型のスピーカーを使用した場合にも充分な重低音が得られ、3本同一スピーカーの使用による、理想的なフロント配列が容易になります。

リア
REAR : リア・チャンネルL、Rをミックスした200Hz以下の低域信号を出力します。

スーパーウーファーを接続して、リア・スピーカーの低域補強ができます。

* スーパーウーファー端子の出力レベルはマスターリモコンで調整できます。
(34ページ参照)

FRONT MIXスイッチ



MAIN LEVELコントロール

メインスピーカーの音量を調整するツマミです。メインスピーカーとフロント／リア／センタースピーカーとの音量バランスがとれないときに使います。(37～38ページ参照)
通常は最大(10)の位置にしておきます。

リア REAR BALANCE コントロール

リア・スピーカーL、Rのバランスを調整するツマミです。ツマミをL(R)側に回すほど、R(L)側の音が小さくなります。通常は中央“0”的位置にしておきます。

MAIN OUT端子

本機のMAIN OUT端子には、NORMALとINVERTの2組の端子があります。INVERT端子にはNORMAL端子に対して 180° 位相が反転された信号が出力されます。

ノーマル
NORMAL : メインL、Rチャンネルの出力端子(PRE OUT)です。外部のパワーアンプ、またはプリメインアンプのパワーアンプ部を接続してください。

FRONT EFFECT端子

フロント・エフェクトチャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ、またはプリメインアンプのパワーアンプ部を接続してください。

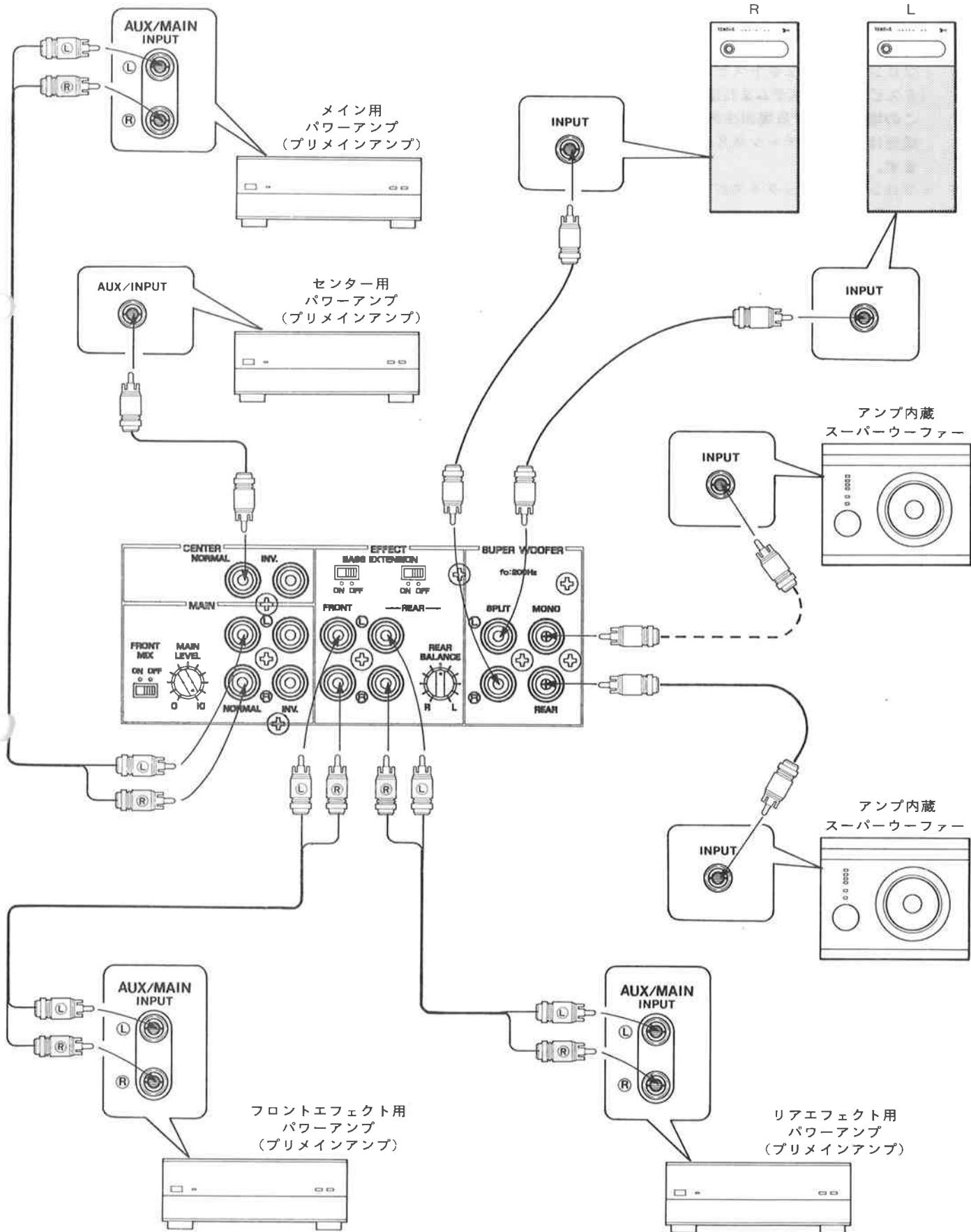
REAR EFFECT端子

リア・エフェクトチャンネルの信号を出力します。外部のパワーアンプ、またはプリメインアンプのパワーアンプ部を接続してください。

接続図

- 機器によって端子名などが異なることがありますので接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 接続するときは各機器の電源を切ってください。

- 左（L）チャンネル、右（R）チャンネル、入力（IN）、出力（OUT）を確認して正しく接続してください。



その他の接続

■フロントスピーカーを設置しない場合 (FRONT MIXスイッチ)

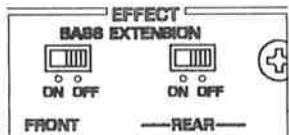


- ON : フロント・エフェクトスピーカーを設置しない場合。
(5スピーカーシステムまたは4スピーカーシステム)
この場合、DSP音場再生時のフロントエフェクト成分は、メインチャンネルにミックスされて出力します。
- OFF : フロント・エフェクトスピーカーを設置する場合。

■センタースピーカーを設置しない場合 (6スピーカーシステムまたは4スピーカー システム)

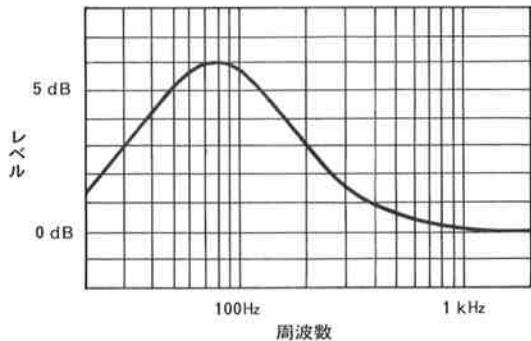
セットメニューの1. Center Modeを呼び出し、“PHNTM”(PHANTOM)を設定してください。センター・チャンネルの信号は、メインL, Rスピーカーに振り分けられます。
*詳しくは、27ページを参照してください。

■BASS EXTENSIONスイッチについて



FRONT EFFECTおよびREAR EFFECT端子の上にあり、フロントとリア別々にエフェクトチャンネルの重低音を補強することができます。スイッチをONにすると、エフェクトチャンネルの80Hz近辺の低域を6dB強調させます。リスニングルームの音響条件や、また小型スピーカーの低音補強時に使用してください。

BASS EXTENSIONスイッチON



解説編

音場タイプについて

	ページ
1. CONCERT HALL 1	54
2. CONCERT HALL 2	55
3. CONCERT HALL 3	56
4. CHURCH	57
5. ROCK CONCERT	58
6. JAZZ CLUB	59
7. CONCERT VIDEO 1	60
8. CONCERT VIDEO 2	61
9. TV THEATER	62
10. MOVIE THEATER 1	63
11. MOVIE THEATER 2	63~64
12. DOLBY PRO LOGIC	64

パラメーターガイド

	ページ
INIT.DLY	65
ROOM SIZE	65
LIVENESS	65
REV TIME	66
REVDELAY	66
REV.LEVEL	66
L.P.F.	67
EFCT TRIM	67
DIR.ENHANCEMENT	67
DOLBY PRO LOGIC	67
P.EFCT TRIM	68
P.INIT.DLY	68
P.ROOM SIZE	68
P.LIVENESS	68
S.EFCT TRIM	68
S.DELAY	68
S.ROOM SIZE	68
S.LIVENESS	68

仮想音源分布図

各プログラムの仮想音源分布図は、近接4点法で実測された音場データあるいはイメージに合わせてシミュレーションした音場をDSP変換処理したものです。立体的に分布する仮想音源を、水平方向の角度と原点からの距離を保ったまま水平面上に展開してあり、その音場における主要な反射音は前後左右どの方向から、どのくらいの時間遅れで、かつどのくらいの強さで到達するかを2次元分布として示しています。

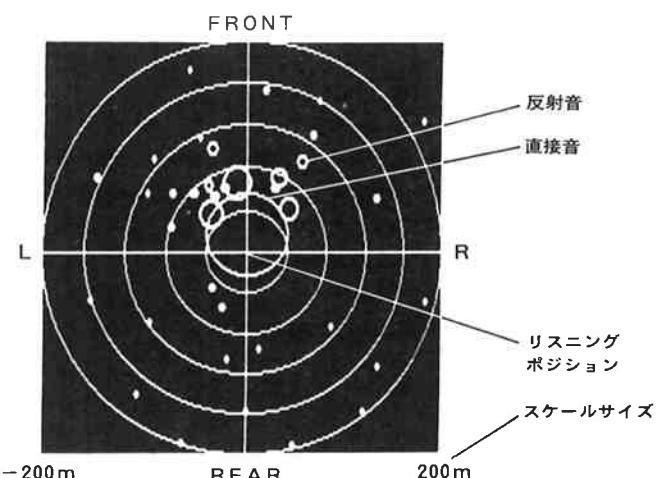
座標の中心点が測定点となり、直接音（ステージ音源）との距離の目安となります。

グラフの半径(200m)：右図の例

中心付近の大きな円：直接音

周囲の小さな円：反射音（仮想音源）

*円の大きさは、音の強さを示しています。



音場タイプについて

1. CONCERT HALL 1

●初期反射音だけを再生するプログラムです。

タイプ ホール エイ イン ヨーロッパ
Hall A in Europe

特長：ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。

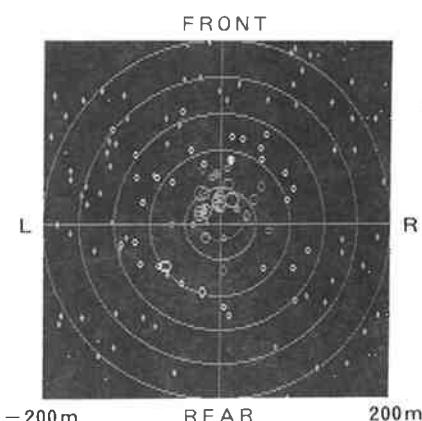
Hall A in Europe



タイプ ホール ビー イン ヨーロッパ
Hall B in Europe

特長：内装材が木製のフランクフルトにある2400席弱のシューボックス型コンサートホールです。ステージ上方のマホガニー色に塗装された幾層もの反射板によって、ステージ方向からの反射音が強く、直接音が増強される傾向にあり、力強い響きが特長です。座席の位置は1階中央右寄りです。

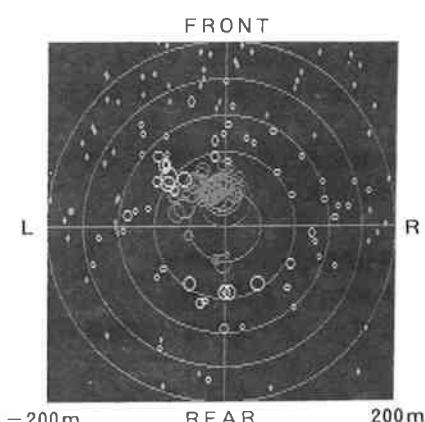
Hall B in Europe



タイプ ホール シー イン ヨーロッパ
Hall C in Europe

特長：大胆な非対照形を基本形として設計された、2000席程度のコンサートホールです。右側の壁は厚いチーク材、左側の壁は大きく湾曲したコンクリート、天井は音の拡散と時間差をつけるための起伏があり、ステージ上には反射板が取り付けられています。座席の位置は、1階のほぼ中央です。

Hall C in Europe



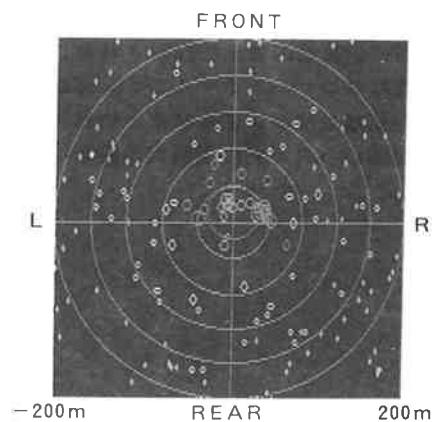
コンサート ホール
CONCERT HALL 2

●初期反射音だけを再生するプログラムです。

タイプ Hall D in Europe

特長：1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。

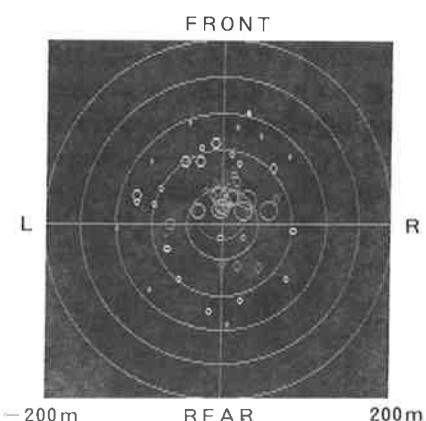
Hall D in Europe



タイプ Hall E in Europe

特長：アムステルダムの広幅化したシューボックス型の大ホールで、サークルステージ、ステージバック席があり客席は2200程です。

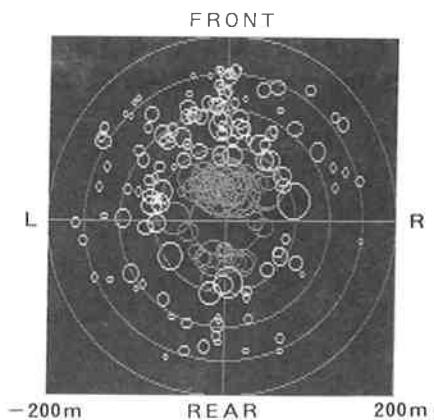
Hall E in Europe



タイプ Hall F in Europe

特長：王宮の王座の間と同じ寸法でミュンヘン建築された客席1300程のシューボックスタイプのコンサートホールです。床が平坦で面積が狭く、内装には大理石が多用されています。音響特性がよくオーケストラの録音によく使われるホールです。
座席の位置は、1階前寄りの中央付近です。

Hall F in Europe



音場タイプについて

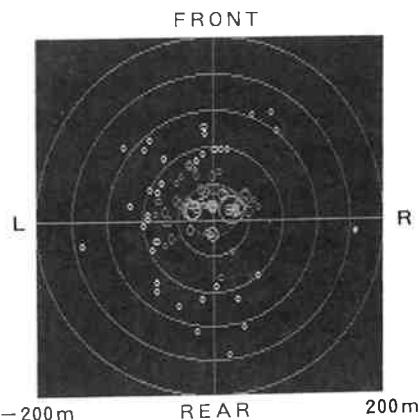
コンサートホール 3. CONCERT HALL 3

●初期反射音だけを再生するプログラムです。

ホール ジー イン ユー エス エイ
タイプ Hall G in U.S.A.

特長：ヨーロッパの伝統をふまえて設計された、ボストンにある太規模なコンサートホールです。客席数は2600席程度で、内装はよりシンプルにまとめられ、アメリカ的な処理が感じられます。中高音の豊かな響きが特長です。

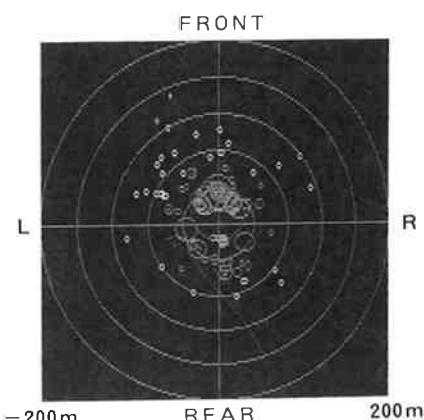
Hall G in U.S.A.



ホール エイチ イン ユー エス エイ
タイプ Hall H in U.S.A.

特長：半円形のドーム型天井からステージに至るまで、クリーム色で統一された造りが、アメリカのコンサートホールを強く印象づけます。シカゴにあるホールで客席数は2600席弱でワイドなステージのため、客席との距離が近く感じられ、音の明瞭度がたいへん良いのが特長です。

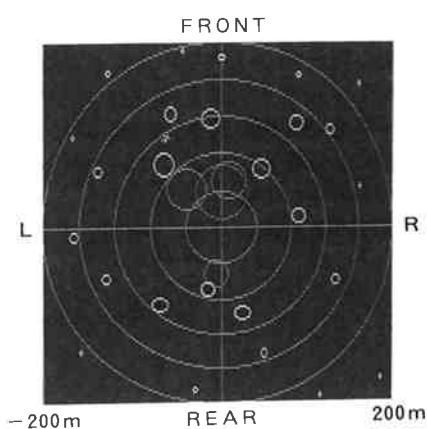
Hall H in U.S.A.



ライブ コンサート
タイプ Live Concert

特長：円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊麗な響きが特長です。

Live Concert



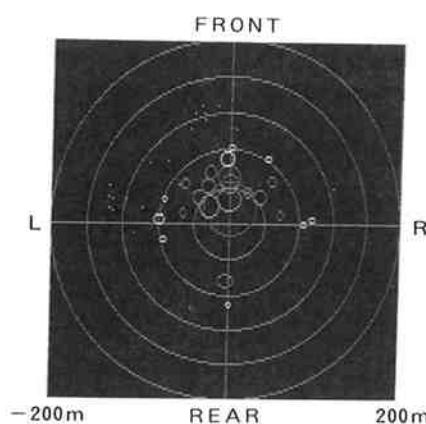
4. CHURCH チャーチ

●初期反射音に加え後部残響音も再生するプログラムです。

タイプ Tokyo トキョウ

特長：残響時間2.5秒と適度な残響音を伴う教会の音場感です。
パイプオルガンや教会音楽などの再生に適しています。

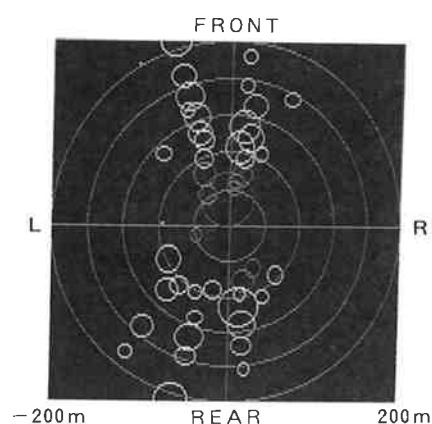
Tokyo



タイプ Freiburg フライブルク

特長：ドイツ南部の120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みは余りありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。

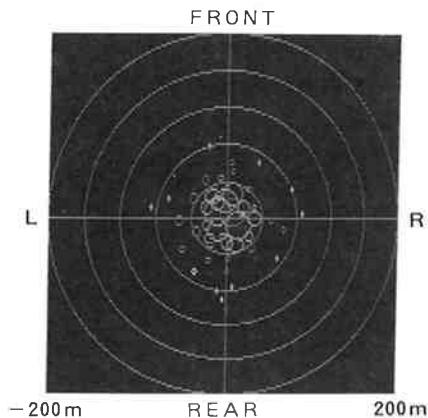
Freiburg



タイプ Chamber チャンバー

特長：宮廷などの大広間のような音場感です。室内楽などの再生に適しています。

Chamber



音場タイプについて

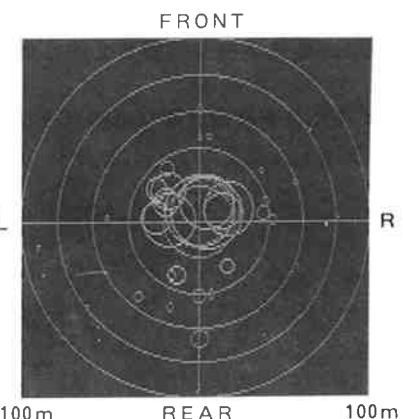
5. ROCK CONCERT

●初期反射音に加え後部残響音も再生するプログラムです。

タイプ ザ ロキシー シアター
The Roxy Theatre

特長：ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。

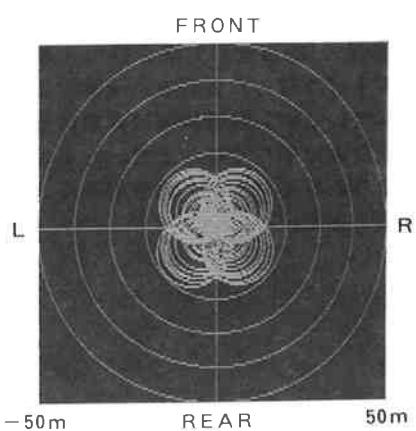
The Roxy Theatre



タイプ アリーナ
Arena

特長：熱狂的なライブコンサートのアリーナでの音場です。エネルギーッシュな響きを伴いリアリティ溢れるボーカルが特長です。

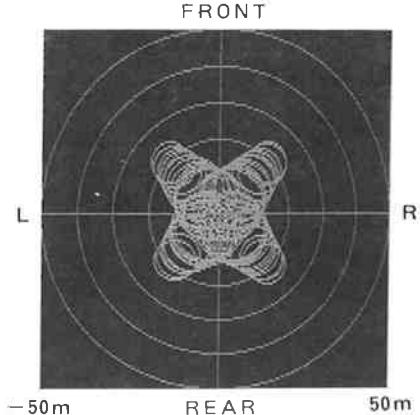
Arena



タイプ ウェアハウス ロフト
Warehouse Loft

特長：ソーホーのロフトを思わせるコンクリートの空間です。壁面からの反射音は比較的明瞭で、エネルギーッシュな音場です。

Warehouse Loft



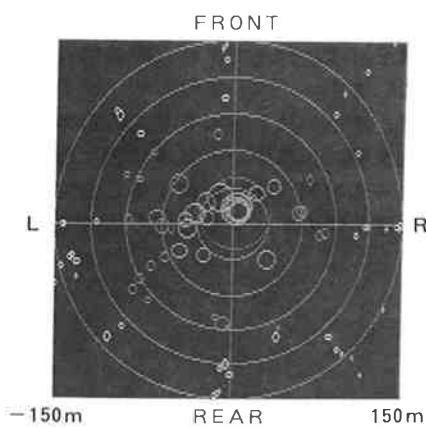
6. ジャズ クラブ JAZZ CLUB

●初期反射音だけを再生するプログラムです。

タイプ ヴィレッジ ゲート Village Gate

特長：ニューヨークにあるライブハウスで、比較的広いことから小ホールのような響きです。
ステージに向かい中央左手寄りの音場です。

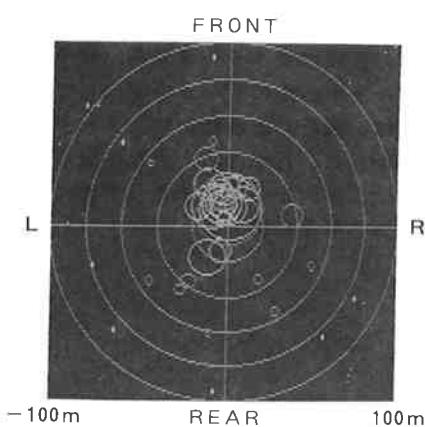
Village Gate



タイプ ヴィレッジ ヴァンガード Village Vanguard

特長：ニューヨーク 7 番街にあるジャズクラブです。天井が低く狭い室内の角にあるステージ付近に強い反射音が集中しています。

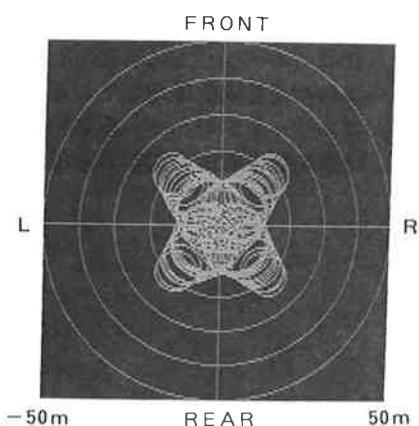
Village Vanguard



タイプ セラー クラブ Cellar Club

特長：天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場です。

Cellar Club



音場タイプについて

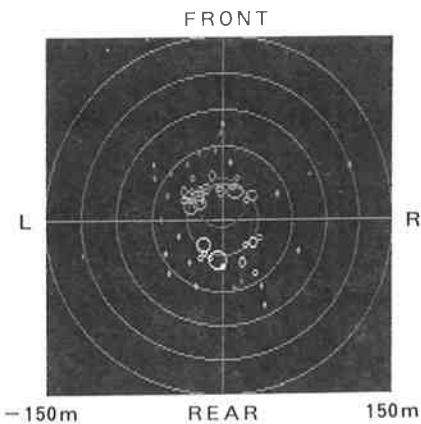
コンサート ビデオ 7. CONCERT VIDEO 1

● AVソース用の音場プログラムです。

タイプ クラシカル Classical / Opera

特長：響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感と共に、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の美しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。

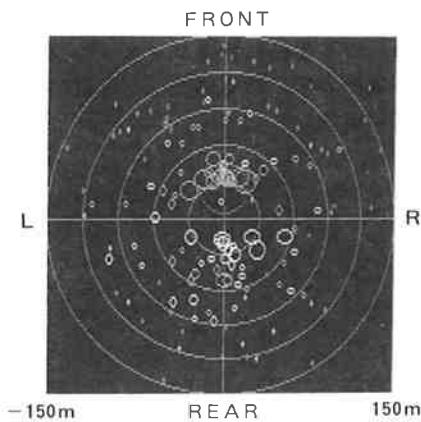
Classical / Opera



タイプ リサイタル Recital

特長：プレゼンス音場にオペラハウス系、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しています。ボーカルは、奥行のある豊かなステージ音場の中にリアルに再現され、音場は広く周りを取り囲みます。適度な残響は、ホールの臨場感をリアルに伝え、映像と音楽が一体となる音場です。

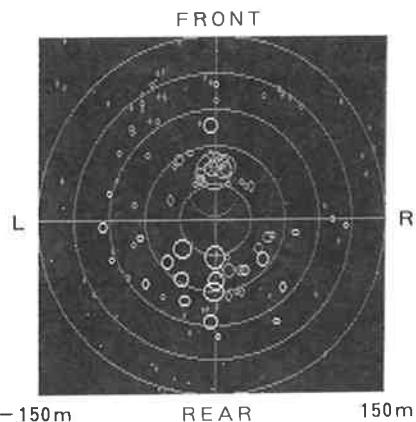
Recital



タイプ ゴスペル Gospel

特長：プレゼンス音場にオペラハウスを使用しています。サラウンド音場は教会音場を使用していることで、豊かな残響感がゴスペル音楽のハートを効果的に演出します。また、映像を伴う教会音楽にも最適なプログラムです。

Gospel



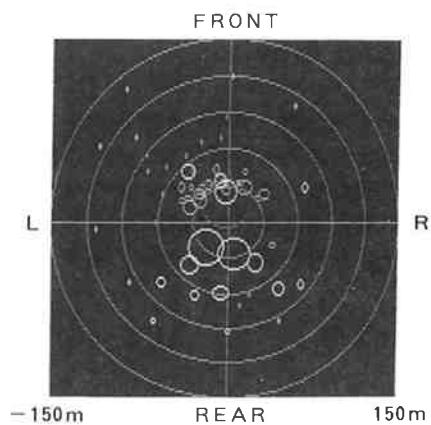
コンサートビデオ CONCERT VIDEO 2

●AVソース用の音場プログラムです。

タイプ Pop/Rock

特長：ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広い円形ホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。

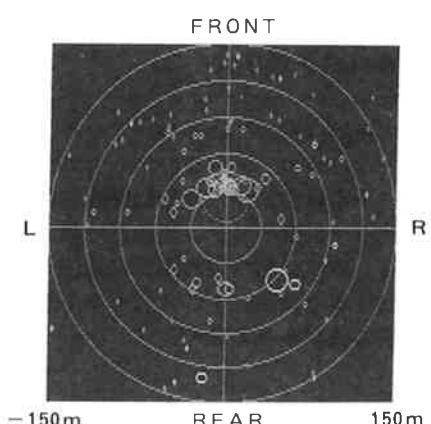
Pop/Rock



タイプ Pavilion

特長：ボーカルは明瞭で実在感があり、大きく拡がりのある空間を感じさせる音場です。やや遅れてくる多くの残響は、パビリオン独特のライブ感ある音場を再現し、熱狂的なコンサートシーンを盛り上げます。

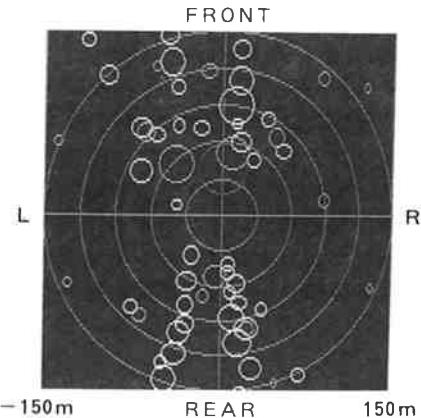
Pavilion



タイプ Karaoke

特長：プレゼンス音場には円形ホールを、サラウンド音場には広大な教会の反射音を使用しています。また、ボーカルに付加されたゆったりとしたエコー感と、高い天井や前後に響く残響効果はステージや客席に最高の臨場感をもたらします。

Karaoke



音場タイプについて

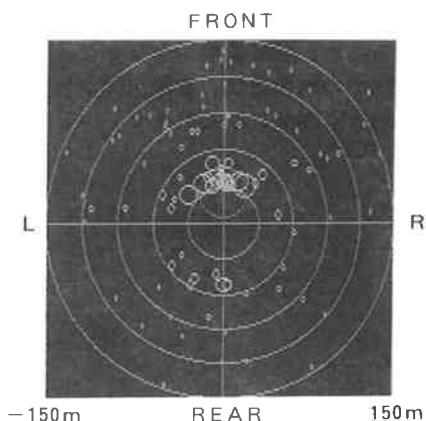
9. TV THEATER

●AVソース用の音場プログラムです。

タイプ Mono Movie

特長：古いモノラル名作映画専用のポジションです。狭帯域、低音質、高音強調気味の音がセンターに定位するため、軽く高域を抑えています。また、オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。

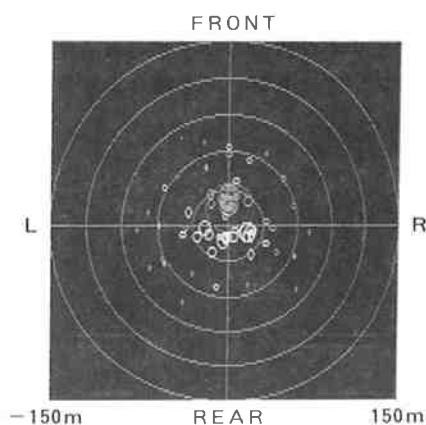
Mono Movie



タイプ Variety/Sports

特長：プレゼンス音場は狭めであるが、サウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

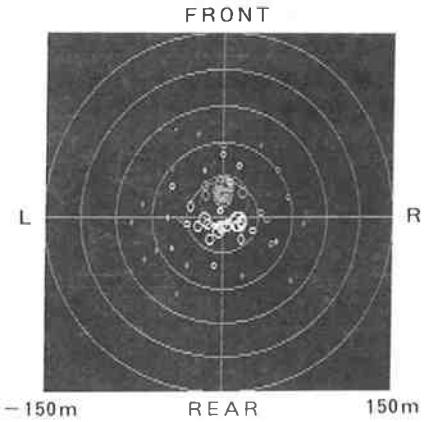
Variety/Sports



タイプ Game/Amusement

特長：プレゼンス音場にはディスコ、サラウンド音場にはウィーンのコンサートホールの音場を使用しています。TVゲームの軽快なりをさらに加速する痛快なテンポの音場感が特長です。ステレオ音声のゲームソフトでは、さらにビビッドなサラウンド効果音に包まれ、映画の中に部屋中ワープした感覚が得られます。

Game/Amusement



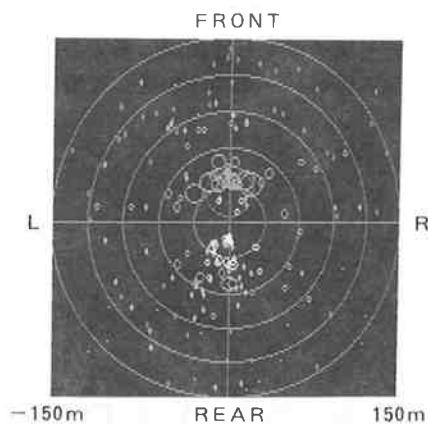
ムービー シアター
10. MOVIE THEATER 1

- ビジュアルソフトに **DOLBY SURROUND** と表示されているドルビーエンコードソースの再生に最適なプログラムです。
- AVソース用の音場プログラムです。

タイプ 70mm Spectacle

特長：70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。残響が加わった音場表現は、微妙な音の響きまでも再現し、映像と空間に今までにないリアリティを生みだします。70mm映画初期の作品から最新のソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。

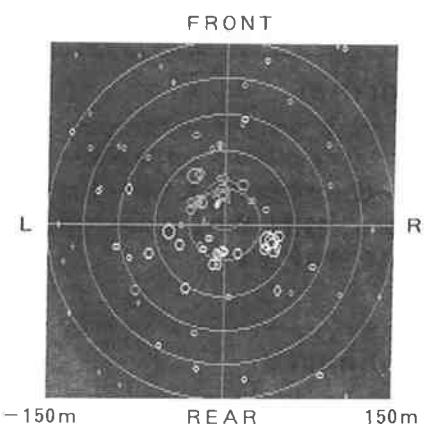
70mm Spectacle



タイプ 70mm Musical

特長：プレゼンス音場に力強い響きの最新コンサートホールの音場データを、サラウンド音場にはシューボックスタイプのホール音場データを使用しています。このため、各楽器のパートをくっきりと描き出し、スクリーン奥行き方向への拡がりと後方への響きが美しく再現されます。

70mm Musical



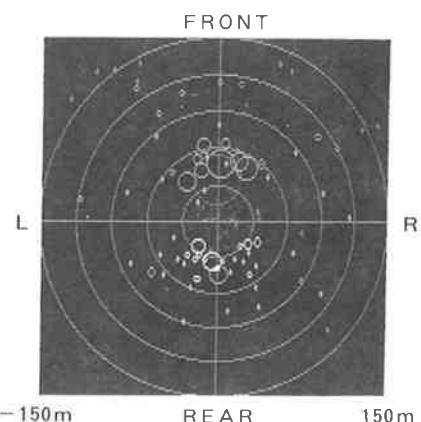
ムービー シアター
11. MOVIE THEATER 2

- ビジュアルソフトに **DOLBY SURROUND** と表示されているドルビーエンコードソースの再生に最適なプログラムです。
- AVソース用の音場プログラムです。

タイプ 70mm Adventure

特長：最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mmマルチトラックに仕組まれた演出を忠実に再現すると共に音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトと同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きと共にSFX、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。

70mm Adventure

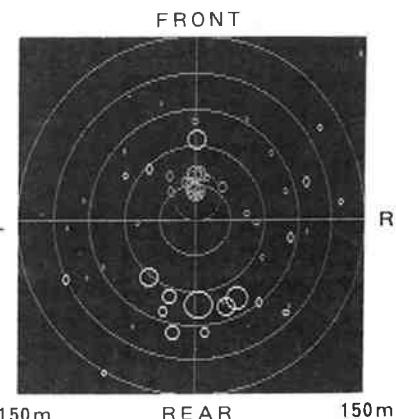


音場タイプについて

タイプ 70mm General ジェネラル

特長：70mmマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場はオペラハウスのデータを拡大して使用、後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。

70mm General



12. DOLBY PRO LOGIC

- ビジュアルソフトに DOLBY SURROUND と表示されているものを再生するときのプログラムです。
- モノラルのソースでは、サラウンド信号は出力されません。

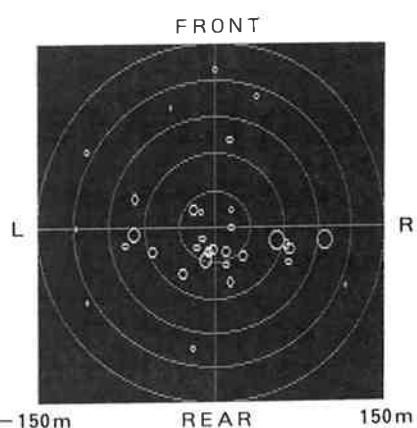
タイプ Normal ノーマル

特長：ドルビー プロ・ロジック デコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。

タイプ Enhanced エンハンスト

特長：ドルビーサラウンドのオリジナルの定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行っておりまます。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場には、シーボックスタイプのコンサートホールの音場データを使用、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。

Enhanced



パラメーターガイド

●音場プログラム毎に、DSP処理の構造が違います。そのため、パラメーターの種類も異なります。

INIT.DLY (Initial Delay)

機能：音源と壁面との距離感を調整。

可変範囲：1 ms～49ms

(CHURCHプログラム：1 ms～99ms)

解説：直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）をコントロールするパラメーターです。

初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。

INIT.DLYを調整することにより、ソースの原音から囲りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等がコントロールできます。

*遅延時間を長くした場合、組み合せによっては違和感のある音になることがあります。

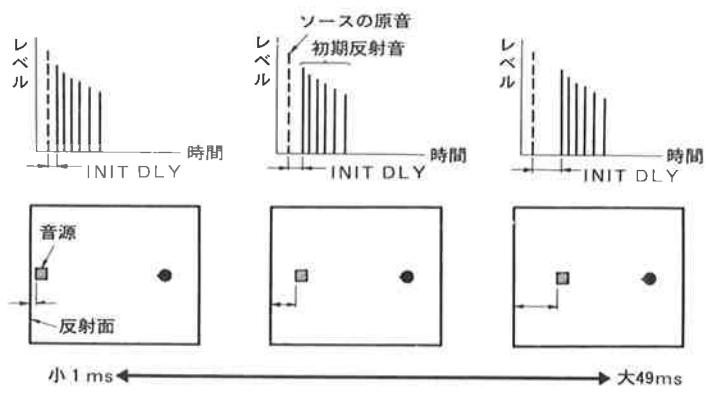
ROOM SIZE

機能：拡がり感の調整。

可変範囲：0.1～2.0

解説：空間の拡がり感をコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、拡がり感を変えることができるということになります。1.0で実測値そのまま、2.0にすると一辺の長さが倍の空間になります。



解説編

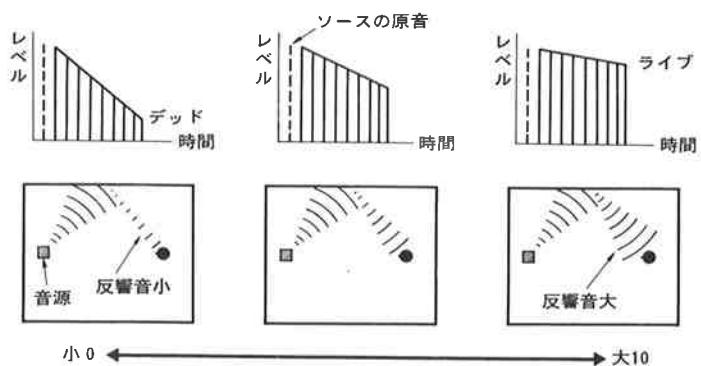
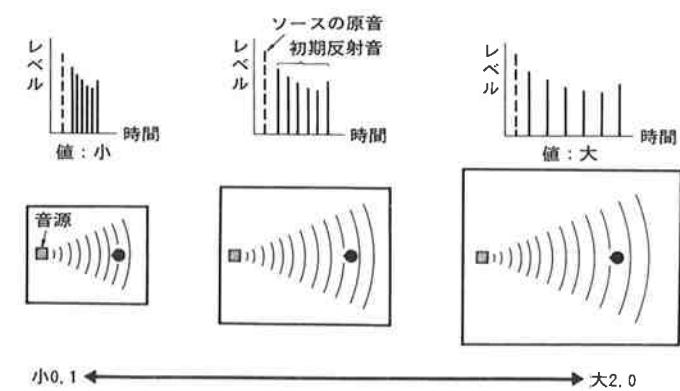
LIVENESS

機能：響き具合の調整。

可変範囲：0～10

解説：初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。

値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感／デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。



パラメーターガイド

REV.TIME (Reverb Time)

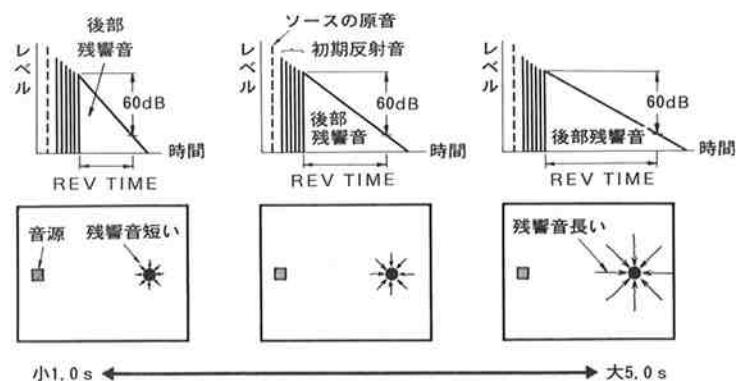
機能：余韻の長さを調整。

可変範囲：1.0 s ~ 5.0 s

解説：後部残響音が減衰していく時間をコントロールするパラメーターです。

約 1 kHz の残響音が 60 dB 減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。

REV.TIME を調整することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。



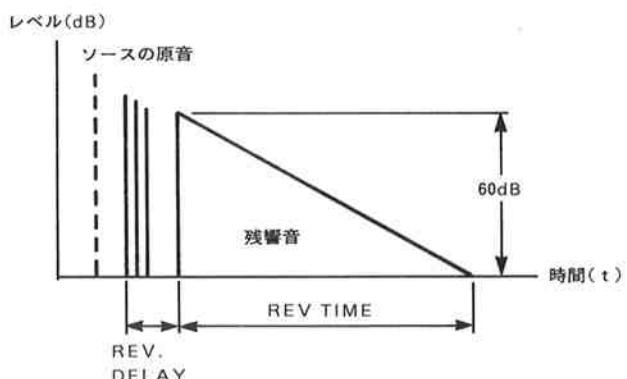
REV.DELAY (Reverb Delay)

機能：残響音の遅延時間を調整。

可変範囲：100ms ~ 170ms

解説：残響音が発生し始めるまでの時間です。値を大きくするほど、残響音が最初の初期反射音より遅れて発生するようになります。

同じ REV.TIME でも、REV.DELAY を長くしていくと大きな空間の残響感に変ります。



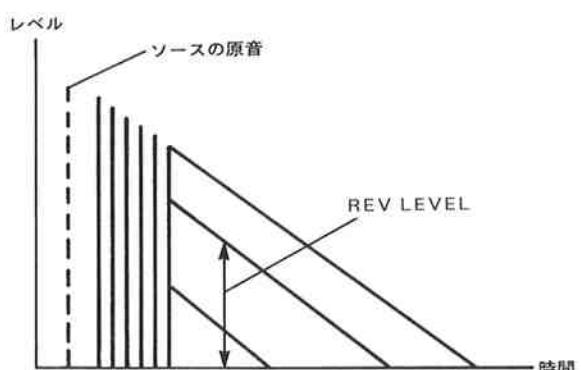
REV.LEVEL (Reverb Level)

機能：余韻の強さを調整。

可変範囲：1 % ~ 100%

解説：後部残響音のレベルをコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。



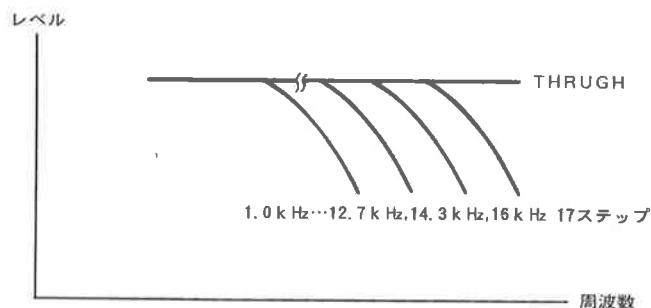
L.P.F. (Low Pass Filter)

機能：反射音の高域を減衰させる。

可変範囲：1.0 kHz～16 kHz, THROUGH (1／2 octステップ、スルー)

解説：反射音の高域成分を減衰させるフィルターです。

設定した周波数よりも高い成分が6 dB/OCTでカットされます。THROUGHにするとこのフィルターの効果はなくなります。



EFFECT TRIM (Effect Trim)

機能：エフェクトレベル（効果音）の微調整。

可変範囲：-3 dB～+3 dB

解説：エフェクト音全体のレベルを微調整するパラメーターです。

DOLBY PRO LOGIC

機能：ドルビー プロ・ロジック デコーダー

解説：DOLBY SURROUNDマークの入ったビデオソースを再生する場合に使用します。

*OFFではセンタースピーカーからの出力はありません。

*モノラルソースでは、ドルビー プロ・ロジック デコーダーによってセンターに出力されますのでメイン（L, R）の信号は殆ど出力されません。

DOLBY SURROUNDは、

ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。また米国特許3,632,886: 3,746,792: 3,959,590, カナダ特許1,00,603: 1,037,877に基づき実施許諾されています。『ドルビー』及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

DIR.ENHANCEMENT

機能：方向性強調回路

解説：メインL, Rおよびセンター、リアからの各出力に、よりはっきりと方向性を強調させようとするパラメーターです。方向性は3段階(MIN(小)/MID(中)/MAX(大))に選択できます。ドルビーエンコードされていないステレオソースに対し、センタースピーカーからは入力信号のL+R成分、サラウンドスピーカーからはL-R成分が出力されます。L+R成分にはセンター定位の音が多く含まれており、センタースピーカーを有効に活用でき、メインスピーカーの中央より左右に外れた位置で聴いても明快なセンター定位が得られます。

*OFFではセンタースピーカーからの出力はありません。

*モノラルソースでは、方向性強調回路によってセンターに出力されますのでメイン（L, R）の信号は殆ど出力されません。

パラメーターガイド

P.EFCT TRIM (Presence Effect Trim)

機能：プレゼンス音場エフェクトの微調整。

可変範囲：-3 dB～+3 dB

解説：プレゼンス音場のレベルを微調整するパラメーターです。

P.INIT.DLY (Presence Initial Delay)

機能：プレゼンス音場の遅延時間を調整。

可変範囲：1 ms～49 ms

解説：直接音からプレゼンス音が始まるまでの時間をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス音場が遅れて発生します。

P.ROOM SIZE (Presence Room Size)

機能：プレゼンス音場の拡がり感の調整。

可変範囲：0.1～2.0

解説：プレゼンスの拡がり感をコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほどプレゼンス反射音同士の時間間隔が長くなり、ソースに含まれる音楽や効果音成分に拡がり感が出てきます。

P.LIVENESS (Presence Liveness)

機能：プレゼンス音場の響き具合の調整。

可変範囲：0～10

解説：プレゼンス音の減衰量をコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほどプレゼンス音の減衰量が少なくなります。

S.EFCT TRIM (Surround Effect Trim)

機能：サラウンド音場エフェクトの微調整。

可変範囲：-3 dB～+3 dB

解説：サラウンド音場のレベルを微調整するパラメーターです。

S.DELAY (Surround Delay)

機能：サラウンド音場の遅延時間を調整。

可変範囲：1 ms～49 ms

(ドルビープロロジックでは15ms～30ms)

解説：直接音とサラウンド音場の時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場が遅れて発生します。

S.ROOM SIZE (Surround Room Size)

機能：サラウンド音場の拡がり感の調整。

可変範囲：0.1～2.0

解説：サラウンド音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほどサラウンドの音場空間が拡がります。

S.LIVENESS (Surround Liveness)

機能：サラウンド音場の響き具合の調整。

可変範囲：0～10

解説：サラウンド音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。

値を大きくするほどサラウンド音場の響きが強くなります。

パラメーター設定値一覧表

NO.	プログラム名	パラメーター名	初期値	変更値	備考
1	CONCERT HALL 1 Hall A in Europe	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	7ms		
		ROOM SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	7.1kHz		
	CONCERT HALL 1 Hall B in Europe	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	13ms		
		ROOM SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	9.0kHz		
	CONCERT HALL 1 Hall C in Europe	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	17ms		
		ROOM SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	7.1kHz		
2	CONCERT HALL 2 Hall D in Europe	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	6ms		
		ROOM SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	7.1kHz		
	CONCERT HALL 2 Hall E in Europe	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	30ms		
		ROOM SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	7.1kHz		
	CONCERT HALL 2 Hall F in Europe	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	22ms		
		ROOM SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	7.1kHz		
3	CONCERT HALL 3 Hall G in U. S. A	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	5ms		
		ROOM SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	7.1kHz		
	CONCERT HALL 3 Hall H in U. S. A	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	6ms		
		ROOM SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	9.0kHz		

その他

パラメーター設定値一覧表

NO.	プログラム名	パラメータ名	初期値	変更値	備考
3	CONCERT HALL 3 Live Concert	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	45ms		
		ROOM SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	7.1kHz		
4	CHURCH Tokyo	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	40ms		
		L. P. F	7.1kHz		
		REV. TIME	2.5s		
		REV. DELAY	130ms		
		REV. LEVEL	100%		
4	CHURCH Freiburg	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	95ms		
		L. P. F	7.1kHz		
		REV. TIME	4.0s		
		REV. DELAY	130ms		
		REV. LEVEL	100%		
4	CHURCH Chamber	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	12ms		
		L. P. F	9.0kHz		
		REV. TIME	1.6s		
		REV. DELAY	100ms		
		REV. LEVEL	20%		
5	ROCK CONCERT The Roxy Theatre	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	15ms		
		ROOM. SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	7.1kHz		
		REV. TIME	1.6s		
		REV. DELAY	100ms		
		REV. LEVEL	8%		
5	ROCK CONCERT Arena	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	15ms		
		ROOM. SIZE	1.0		
		LIVENESS	9		
		L. P. F	7.1kHz		
		REV. TIME	1.6s		
		REV. DELAY	130ms		
		REV. LEVEL	10%		

NO.	プログラム名	パラメーター名	初期値	変更値	備考
5	ROCK CONCERT Warehouse Loft	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	15ms		
		ROOM. SIZE	1.0		
		LIVENESS	7		
		L. P. F	7.1kHz		
		REV. TIME	2.0s		
		REV. DELAY	120ms		
		REV. LEVEL	32%		
6	JAZZ CLUB Village Gate	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	17ms		
		ROOM. SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	12.7kHz		
6	JAZZ CLUB Village Vanguard	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	15ms		
		ROOM. SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	THROUGH		
6	JAZZ CLUB Cellar Club	EFCT TRIM	0dB		
		INIT. DLY	20ms		
		ROOM. SIZE	1.0		
		LIVENESS	5		
		L. P. F	THROUGH		
7	CONCERT VIDEO Classical/Opera	EFCT TRIM	0dB		
		DIR. ENHANCEMENT	MID		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	11ms		
		P. ROOM. SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	5		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	30ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	5		
		REV. TIME	2.2s		
		REV. DELAY	120ms		
		REV. LEVEL	14%		

パラメーター設定値一覧表

NO.	プログラム名	パラメーター名	初期値	変更値	備考
7	CONCERT VIDEO 1 Recital	EFCT TRIM	0dB		
		DIR. ENHANCEMENT	MID		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	19ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	5		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	20ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	5		
		REV. TIME	2.2s		
		REV. DELAY	120ms		
		REV. LEVEL	16%		
		EFCT TRIM	0dB		
8	CONCERT VIDEO 1 Gospel	DIR. ENHANCEMENT	MID		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	16ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	5		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	21 ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	5		
		REV. TIME	2.5s		
		REV. DELAY	120ms		
		REV. LEVEL	58%		
		EFCT TRIM	0dB		
		DIR. ENHANCEMENT	MID		
9	CONCERT VIDEO 2 Pop/Rock	P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	21ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	5		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	25ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	5		
		REV. TIME	1.6s		
		REV. DELAY	100ms		
		REV. LEVEL	21%		
		EFCT TRIM	0dB		
		DIR. ENHANCEMENT	MID		
		P. EFCT TRIM	0dB		

NO.	プログラム名	パラメーター名	初期値	変更値	備考
8	CONCERT VIDEO 2 Pavilion	EFCT TRIM	0dB		
		DIR. ENHANCEMENT	MID		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	14ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	5		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	30ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	5		
		REV. TIME	2.2s		
		REV. DELAY	125ms		
		REV. LEVEL	40%		
		EFCT TRIM	0dB		
9	CONCERT VIDEO 2 Karaoke	DIR. ENHANCEMENT	MIN		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	45ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	3		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	30ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	5		
		REV. TIME	2.0s		
		REV. DELAY	100ms		
		REV. LEVEL	42%		
		EFCT TRIM	0dB		
		DIR. ENHANCEMENT	MID		
9	TV THEATER Mono Movie	P. INIT. DLY	44ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	3		
		REV. TIME	1.8s		
		REV. DELAY	100ms		
		REV. LEVEL	9%		

パラメーター設定値一覧表

NO.	プログラム名	パラメーター名	初期値	変更値	備考
9	TV THEATER Variety/Sports	EFCT TRIM	0dB		
		DIR. ENHANCEMENT	MID		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	10ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	3		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	30ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	5		
		REV. TIME	1.6s		
		REV. DELAY	100ms		
		REV. LEVEL	20%		
10	TV THEATER Game/ Amusement	EFCT TRIM	0dB		
		DIR. ENHANCEMENT	MIN		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	20ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	4		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	25ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	3		
		REV. TIME	2.0s		
		REV. DELAY	120ms		
		REV. LEVEL	90%		
10	MOVIE THEATER 1 70mm Spectacle	EFCT TRIM	0dB		
		DOLBY PRO LOGIC	ON		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	13ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	3		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	20ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	3		
		REV. TIME	2.2s		
		REV. DELAY	100ms		
		REV. LEVEL	30%		

NO.	プログラム名	パラメーター名	初期値	変更値	備考
10	MOVIE THEATER 1 70mm Musical	EFCT TRIM	0dB		
		DOLBY PRO LOGIC	ON		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	17ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	3		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	20ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	3		
		REV. TIME	2.0s		
		REV. DELAY	100ms		
		REV. LEVEL	50%		
11	MOVIE THEATER 2 70mm Adventure	EFCT TRIM	0dB		
		DOLBY PRO LOGIC	ON		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	17ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	3		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	24ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	3		
12	MOVIE THEATER 2 70mm General	EFCT TRIM	0dB		
		DOLBY PRO LOGIC	ON		
		P. EFCT TRIM	0dB		
		P. INIT. DLY	30ms		
		P. ROOM SIZE	1.0		
		P. LIVENESS	3		
		S. EFCT TRIM	0dB		
		S. DELAY	15ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	3		
12	DOLBY PRO LOGIC Normal	S. DELAY	20ms		
	DOLBY PRO LOGIC Enhanced	S. DELAY	20ms		
		S. ROOM SIZE	1.0		
		S. LIVENESS	4		

参考仕様

■オーディオ部

入力感度	150mV / 47kΩ (CD他)
出力電圧	150mV / 220Ω (REC OUT) 1 V / 1 kΩ (MAIN OUT)
周波数特性	20Hz～20kHz ± 1.0dB
全高調波歪率	0.005% (20Hz～20kHz, メインチャンネル)
S/N	98dB (メインチャンネル) 100dB (プロセシングチャンネル)
トーンコントロール	TREBLE : ± 10dB at 20kHz (L,C,R連動) BASS : ± 10dB at 50Hz (L,C,R連動)
ローカットフィルター	63Hz (L,C,Rチャンネル)
バスエクステンション	70Hz + 7 dB (L,Rチャンネル) 80Hz + 6 dB (フロントエフェクト/ リアエフェクト)
オーディオミューティング	- 20dB
リア L/Rバランス	± 6 dB, リアパネル

■ビデオ部

ビデオレベル C	1.0Vp-p / 75Ω
ビデオレベル S	Y : 1.0Vp-p / 75Ω C : 0.286Vp-p / 75Ω
S/N	50dB
周波数特性	5 Hz～15MHz, - 3 dB

■A/D部

A/Dシステム	19ビット相当DSP追従制御方式フ ローティングA/Dシステム 64倍オーバーサンプリング、デルタシ グマ方式ADコンバーター、fs = 44.1 kHz
---------	---

■D/A部

D/Aシステム	8倍オーバーサンプリング、アドバン スト複合補間型18ビットDAシステム
---------	---

■シネマイコライザー部

サウンドライトネス	ISO B チェーンXカーブ準拠でソ ース音質補正 + 2 dB～Flat～- 7 dB / 10kHz, 10STEP
-----------	---

センターイコライザー	3バンドパラメトリックEQでセン ターSP音色補正 LOW : 31Hz～8kHz MID : 44Hz～11.3kHz HIGH : 63Hz～16kHz GAIN : + 6 dB～- 9.0 dB, 0.5dB STEP Q : 0.7, 1.4, 3.0, 6.0
------------	---

サウンドスクリーン	OFF / TYPE A / TYPE B でサウン ドスクリーン状態設定
-----------	--

スクリーンイコライザー	2バンドPEQ+HSF LOW : 31Hz～11.3kHz HIGH : 44Hz～16kHz GAIN : + 6 dB～- 9.0 dB, 0.5dB STEP Q : 0.7, 1.4, 3.0, 6.0 HSF ; fc = 2 kHz～8 kHz, 1 kHz STEP, ± 10dB
-------------	--

■DSPパラメーター部

センター モード	ノーマル, ワイド, ファントム
----------	------------------

テストトーン	DOLBY : L, C, R, S DSP : メイン, フロント Subwoofer : SPLIT / MONO, REAR
--------	--

パラメーター	INITIAL DELAY : 1 ms～99ms 1 ms ステップ (ドルビープロロジック動作時のディレイ は15～30ms) ROOM SIZE : 0.1～2.0 0.1ステップ LIVENESS : 0～10 1ステップ L.P.F : 1.0～16.0kHz, THROUGH REV. TIME : 1.0～5.0sec 0.1sec ステップ REV. DELAY : 100ms～170ms REV. LEVEL : 1 %～100% EFFECT TRIM : ± 3 dB 1 dBステップ DIR. ENHANCEMENT : OFF, MIN, MID, MAX DOLBY PRO LOGIC : ON, OFF
--------	--

■ ディスプレイ

32k, 44.1k, 48k

■音場プログラム

CONCERT HALL 1	Hall A in Europe Hall B in Europe Hall C in Europe
CONCERT HALL 2	Hall D in Europe Hall E in Europe Hall F in Europe
CONCERT HALL 3	Hall G in U.S.A Hall II in U.S.A Live Concert
CHURCH	Tokyo Freiburg Chamber
ROCK CONCERT	The Roxy Theatre Arena Warehouse Loft
JAZZ CLUB	Village Gate Village Vanguard Cellar Club
CONCERT VIDEO 1	Classical/Opera Recital Gospel
CONCERT VIDEO 2	Pop/Rock Pavilion Karaoke
TV THEATER	Mono Movie Variety/Sports Game/Amusement
MOVIE THEATER 1	70mm Spectacle 70mm Musical
MOVIE THEATER 2	70mm Adventure 70mm General
DOLBY PRO LOGIC	Normal Enhanced

総合

電源電圧 AC100V 50/60Hz

消費電力 50W

ACアウトレット

SWITCHED×2	TOTAL 400Wmax
SWITCHED×1	TOTAL 200Wmax
UNSWITCHED×1	200Wmax

寸法 (W×H×D) 473×170.5×454mm

重量 18.0kg

付属品 リモコン(2台)
単3アルカリ乾電池(4本)
リモコンシート(2枚)

*仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

MIDIについて

■MIDI IN端子について

本機は、MIDI IN端子を装備しています。

MIDIによって本機の音場プログラムチェンジ／インプットセレクト等ができ、各種イベントやマルチメディア映像とリンクさせた業務用まで、幅広い用途への対応ができます。本機はMIDI対応機器（シーケンサー、キーボード、パソコン等）とMIDI接続することにより、AVC-3000DSPの下記コントロールが可能です。

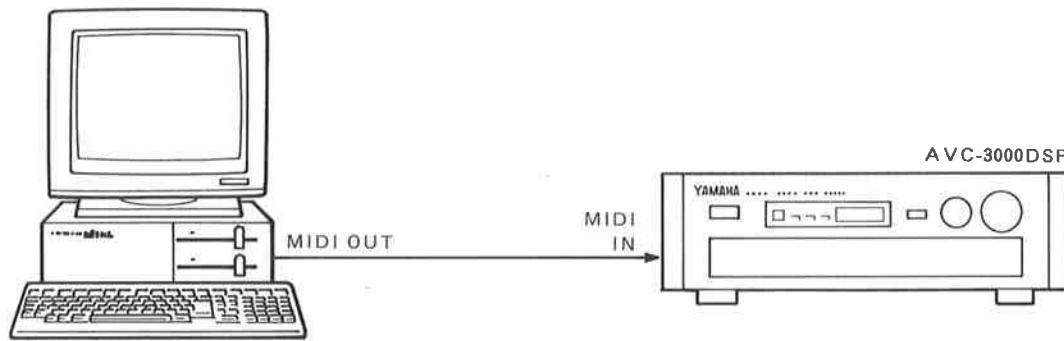
- ・プログラムチェンジ
- ・インプットセレクト
- ・POWER ON/OFF
- ・MASTER VOLUME UP/DOWN
- ・TAPE 2 MONITOR ON/OFF
- ・MUTING ON/OFF

* MIDI対応機器でも、MIDIコントロールできない場合があります。

次項のMIDIデータフォーマットとMIDIインプリメンテーションチャートを参照し、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

* MIDIは、Musical Instrument Digital Interfaceの略です。

* 接続には15m以内のMIDIケーブルをご使用ください。



■MIDIデータフォーマット

- ・チャンネルボイスメッセージ

プログラムチェンジ

1 1 0 0 n n n n (CnH) nはチャンネルNo(0~15)
0 p p p p p p p p pはプログラムNo(0~127)

プログラムNo－音場対応表

No.HEX	音場プログラム	
0 0	EFFECT OFF	
0 1	CONCERT HALL 1	—Hall A in Europe
0 2		—Hall B in Europe
0 3		—Hall C in Europe
0 4	CONCERT HALL 2	—Hall D in Europe
0 5		—Hall E in Europe
0 6		—Hall F in Europe
0 7	CONCERT HALL 3	—Hall G in U. S. A.
0 8		—Hall H in U. S. A.
0 9		—Live Concert
0 A	CHURCH	—Tokyo
0 B		—Freiburg
0 C		—Chamber
0 D	ROCK CONCERT	—The Roxy Theatre
0 E		—Arena
0 F		—Warehouse Loft
1 0	JAZZ CLUB	—Village Gate

No.HEX	音場プログラム	
1 1	JAZZ CLUB	—Village Vanguard
1 2		—Cellar Club
1 3	CONCERT VIDEO 1	—Classical/Opera
1 4		—Recital
1 5		—Gospel
1 6	CONCERT VIDEO 2	—Pop/Rock
1 7		—Pavilion
1 8		—Karaoke
1 9	TV THEATER	—Mono Movie
1 A		—Variety/Sports
1 B		—Game/Amusement
1 C	MOVIE THEATER 1	—70mm Spectacle
1 D		—70mm Musical
1 E	MOVIE THEATER 2	—70mm Adventure
1 F		—70mm General
2 0	DOLBY PRO LOGIC	—Normal
2 1		Enhanced

* データ22～7FHは未定義。

● システムエクスクルーシブメッセージ

ステータス	1 1 1 1 0 0 0 0 (F0H)
ID No.	0 1 0 0 0 0 1 1 (43H)
サブステータス	0 0 0 1 n n n n (1nH)
サブID	0 1 0 0 0 0 0 0 (40H)
コマンドバイド (0~127)	0 c c c c c c c
データバイト (0~127)	0 d d d d d d d
EOX (End Of eXclusive)	1 1 1 1 0 1 1 1 (F7H)

1. エクスクルーシブコマンドバイト

コマンドHEX	機能
0 1	INPUT切り換え
0 2	POWER ON/OFF
0 3	MASTER VOLUME
0 4	TAPE 2 MONITOR ON/OFF
0 5	MUTING ON/OFF

2. エクスクルーシブデータバイト

2-1 INPUT切り換え (コマンド 01H)

データHEX	機能
0 1	CD
0 2	TUNER
0 3	TAPE 1
0 4	LD
0 5	TV/DBS
0 6	VCR 1
0 7	VCR 2
0 8	VCR 3
0 9	AUX 1
0 A	AUX 2

2-2 POWER ON/OFF (コマンド 02H)

データHEX	機能
0 1	POWER ON
0 2	POWER OFF

2-3 MASTER VOLUME (コマンド 03H)

データHEX	機能	
0 1	VOLUME UP	1 STEP
0 2	VOLUME UP	2 STEP
0 3	VOLUME UP	3 STEP
.	.	.
3 F	VOLUME UP	6 3 STEP
4 0	VOLUME UP/DOWN STOP	
4 1	VOLUME DOWN	1 STEP
4 2	VOLUME DOWN	2 STEP
4 3	VOLUME DOWN	3 STEP
.	.	.
7 F	VOLUME DOWN	6 3 STEP

* UP/DOWN 1 STEPで0.2秒間VOLUMEが動きます。

2-4 MONITOR ON/OFF (コマンド 04H)

データHEX	機能
0 1	TAPE 2 MONITOR ON
0 2	TAPE 2 MONITOR OFF

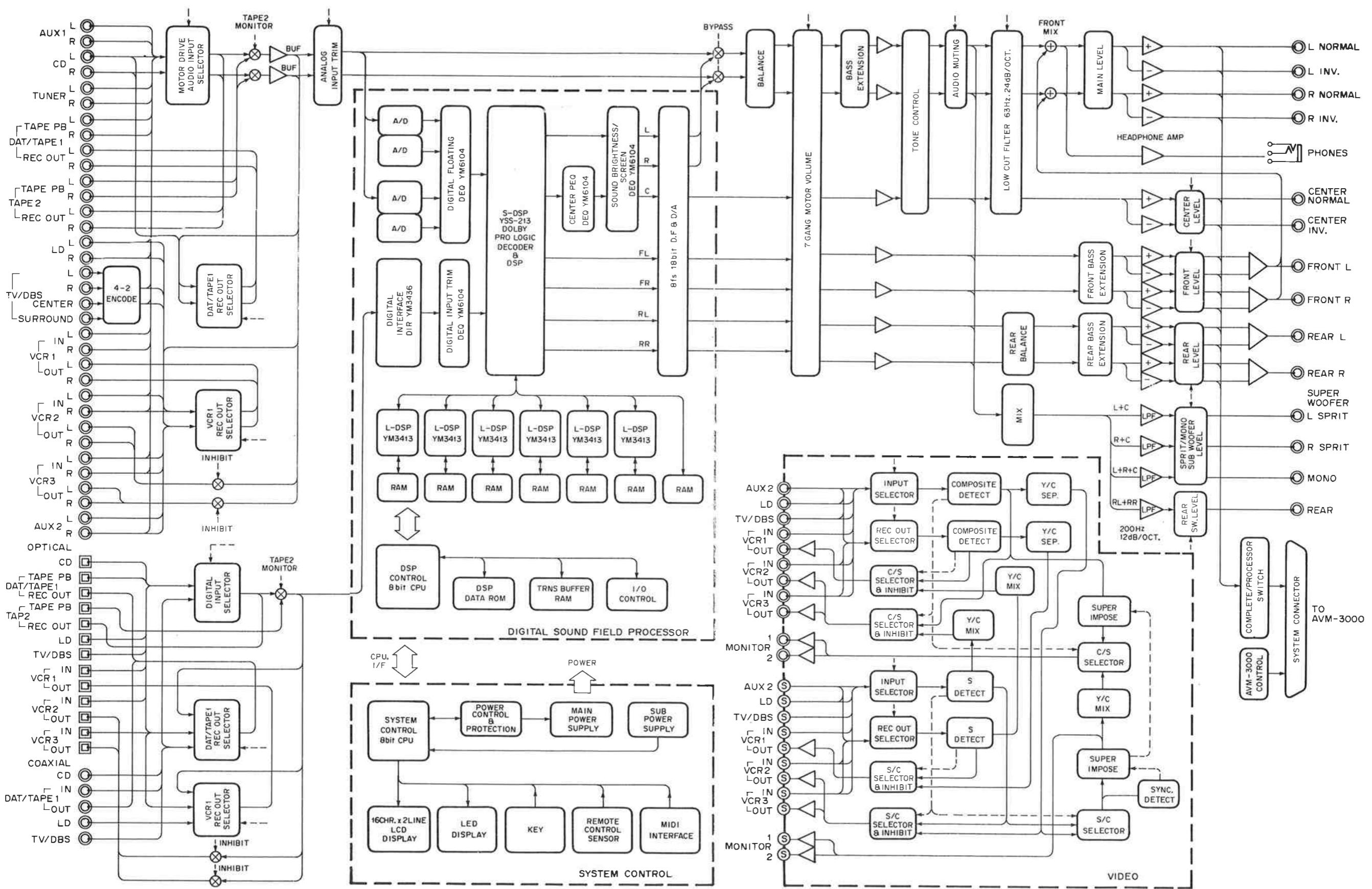
2-5 MUTING ON/OFF (コマンド 05H)

データHEX	機能
0 1	MUTING (-20dB) ON
0 2	MUTING OFF

Function ...	Recognized	Remarks	
Basic Channel	Default Changed	1 - 16 1 - 16	Memorized
Mode	Default Messages Altered	OMNI ON/OFF X X	Memorized
Note Number : True voice		X X	
Velocity	Note ON Note OFF	X X	
After Touch	Key's Ch's	X X	
Pitch Bender		X	
Control Change		X	
Prog Change : True #		○ 0 - 33	※ 1
System Exclusive		○	
System : Song Pos : Song Sel		X X	
Common : Tune		X	
System : Clock		X	
Real Time : Commands		X	
Aux : Local ON/OFF : All Notes OFF		X X	
Mes- : Active Sense sages : Reset		X X	
Notes		※ 1 0 : EFFECT OFF , 1 - 33 : Program No.	
Mode 1 : OMNI ON, POLY	Mode 2 : OMNI ON, MONO	○ : Yes	
Mode 3 : OMNI OFF, POLY	Mode 4 : OMNI OFF, MONO	× : No	

の他

ブロックダイアグラム



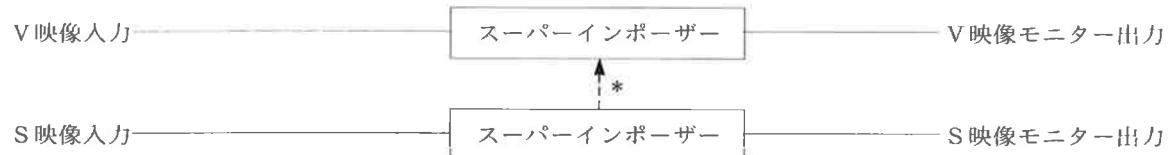
ビデオ信号経路図

その他

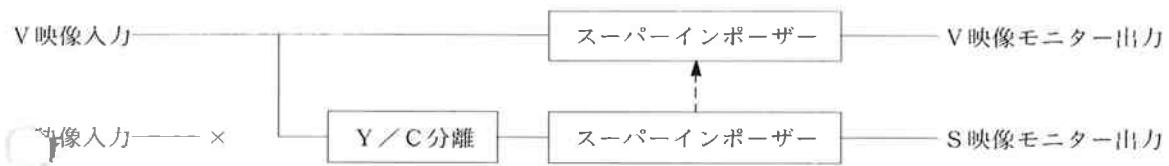
以下にビデオ信号のモニター出力への経路図を示します。

尚、REC OUTについてもスーパーインポーザーが入らないだけでモニター出力と同様です。

1. V映像入力、S映像入力共にある場合。



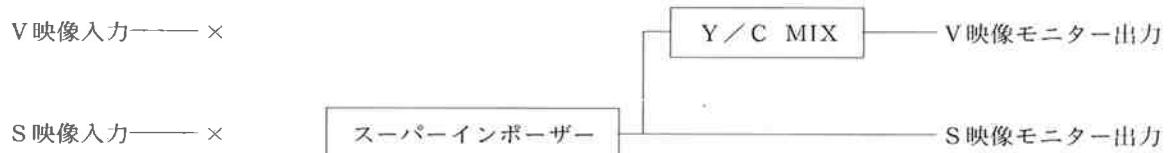
2. V映像入力があり、S映像入力がない場合。



3. V映像入力がなく、S映像入力がある場合。



4. V映像入力、S映像入力共にない場合。



注)ここで言うV映像とは、コンポジットビデオ信号のことです。

故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

●本機を使用中に強い外来ノイズ（落雷、過大な静電気等）を受けた場合や誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しない場合があります。このような時は一度電源コードを抜き、約30秒後にふたたびつないで操作をやり直してください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかりと差し込み直してください
音がない	ボリュームが絞られている	VOLUMEコントロールまたはリモコンのVOLUMEキーで、音量を上げてください。
	接続が不完全	接続を確認してください
片チャンネルの音がない	接続が不完全	接続を確認してください
ハム音ができる	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込み直してください
エフェクト音がない	EFFECT OFFになっている	EFFECTを押して、EFFECT ONにしてください
フロント側のエフェクト音がない	フロントレベルが絞られている	FRONT LEVELキーの+側を押して、レベルを上げてください
センタースピーカーの音がない	センターモードがPHNTMになっている	SET MENUでセンターモードを正しくセットしてください
	センターレベルが絞られている	CENTER LEVELキーの+側を押してレベルを上げてください
	音場プログラムNo.1～6を選択している	音場プログラムNo.1～6では、センターの音はできません
	音場プログラムNo.7～11でDIR, ENHANCEMENTあるいはDOLBY PRO LOGICがOFFになっている	OFFではセンターの音はできません
センタースピーカーの音が極端に不自然	センターチャンネル用イコライザーの設定不良	SET MENUでセンターEQをメインスピーカーと同じ音色になるよう、セットしてください
リア側の音がない	リアレベルが絞られている	REAR LEVELの+側を押して、レベルを上げてください
	音場プログラムNo.12でモノラルソースを再生している	他の音場プログラム（No.1～11）を選択し再生してください。
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
	リモコン操作範囲から外れている	本体のリモコン受光窓に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作してください
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯・ストロボライトなど）があたっている	照明または本体の向きを変えてください
	RESETスイッチを一度押してください。（13ページのイラスト⑯参照）記憶した内容は消えません。	
サラウンド効果の付加された音が録音されない	本機のTAPE, VCR端子に接続した録音機器で、サラウンド効果の付加した音を録音することはできません	

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示しております。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預かり窓口)

北海道 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
Tel(011)513-5036

仙 台 〒983 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
Tel(022)236-0249

新 潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F
Tel(025)243-4321

東 京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル
Tel(03)3255-2241

首都圏 〒211 川崎市中原区木月1184
Tel(044)434-3100

浜 松 〒435 浜松市上西町911ヤマハ(株)宮竹工場内
Tel(053)465-1158

名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
Tel(052)652-2230

大 阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16ヤマハ(株)千里丘センター内
Tel(06)877-5262

神 戸 〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ(株)神戸店内
Tel(078)321-1195

四 国 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
Tel(0878)22-3045

広 島 〒731-01 広島市安佐南区西原 2-27-39
Tel(082)874-3787

福岡 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
Tel(092)472-2134

その他

■お客様ご相談窓口

(ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口)

東 京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F
Tel(03)3255-5691
Tel(03)3255-6767

名古屋 〒460 名古屋市中区錦一丁目18-28
Tel(052)232-5740

大 阪 〒556 大阪市浪速区難波中1-13-17
なんば辻本ニッセイビル
Tel(06)647-6411

本 社 〒430 浜松市中沢町10-1
A V機器事業部
お客様ご相談センター
Tel(053)460-3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

A V機器事業部

営業部

Tel(053)460-3451

品質保証室

Tel(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

YAMAHA